第四號樣式

高　假渡	番號ノ單位	憑書番號	摘要	年月日	
				明治　年	

第五號樣式

假渡物品精算簿（洋式帳簿）

假渡物品受渡簿（堅炭ノ部）

月日	摘要	受	拂	領收者印	殘
四月一日	受入	一〇、〇〇〇貫			
同	湯呑所用		一、〇〇〇貫		九、〇〇〇貫
月日	同		二、〇〇〇		七、〇〇〇
月日	同		一、五〇〇		五、五〇〇
月日	同		二、〇〇〇		三、五〇〇

計　四月中　一〇、〇〇〇　六、五〇〇

一本簿一品目毎ニ口座ヲ設クルモノトス

一毎年三月三十一日現在殘高ハ返納スルモノトス

第六號樣式　生產簿

月日	物品會計官吏主任	出納簿主任	記品目	生產受高	摘要	原料單價	生產價格	受領者氏名印
月日	物品會計官吏主任	出納簿主任	記品目	生產調製高	摘要	生產單價	物品出納主任受領ノ印	

第七號樣式 修繕品受渡簿

物品會計官吏	出納主任	年月日	品目	數量	摘要	調製濟受領印	受領者氏名印	調製濟納入年月日

椅子類	椅子	腰掛	
卓子類	卓子	机	檢査臺
箱類	用箱	箪笥	金庫鍵箱
	印箱	狀箱	鐵製小箱
	文庫	カバン	支那カバン
	封筒挿箱	本箱	水溜箱
	消防器械箱		
戸棚類	戸棚	茶棚	飾棚
桶盥類	手桶	風呂桶	擔桶
	灌水桶	釣瓶	樽
	蒸蒸桶	天水桶	洗面鉢
	手水鉢		
時計類	時計	寒暖計	晴雨計
點燈器	ランプ	提灯	行燈
提燈	燭臺	油差	油入

椅子ハ布張、革張等ヲ云フ

卓子ハ丸形角形等ヲ云フ

	油皿	油吸上器	燈心押
	照返	ランプ釣金	電燈
暖爐火鉢類	置暖爐	暖爐臺	暖爐道具飾臺
	石炭掬	石炭挾	石炭碎
	暖爐臺	石炭置臺	煙筒
	煙草盆	煙草灰受器	煙草灰受皿
印章版木類	印章	銅版	タイプライター
	焼印	印版	木極印
	謄寫版		
農工具	鎌	鋤	草刈
	草撥	鑿	鋸
	釘拔	鶴嘴	ヤットコ鋏
	斧	鉈	鐵鎚
	木鋏	掛矢	打込錐
	萬力	鞴	溝浚器

燈心押 燈籠 活字挾 石炭入 暖爐用十能 煙筒 火鉢 石炭 草刈 玄能 地均ローラー 鎚鉈 花鋏

| | | |

	ロキスタンド測器		
圖器	コンパス	烏口	懷中製圖器	定木
	比例尺	分度器	箱入製圖器	縮圖枠
	文廻製圖板	繪具硯	繪具皿
醫療器	注射器	子宮鏡	聽診器	檢溫器
	消息子	灌腸器	排尿管	解剖器
	皮下注射器	射水器	硝子吸入器	湯タンポ
	イルリゲートル			
藥品試驗調劑器	檢酪器	液量器	酒精ランプ	匙
	蒸發皿	陶器壜	硝子皿	滴量硝子
	圓柱硝子（硝子瓦以上）瓶	メート硝子	藥籠
	匁量	乳鉢	乳棒	比重器
	漏斗	ボールピペット	
文具	硯	インキ壺	錐	肉池
鋏	小刀	硯箱	墨壺

	水入	文鎭	紙挾	表挾
	筆洗	墨取紙挾	算盤	石版原稿皿
	糊壺	石盤	矢立	
雜器具	灌水器	葛籠	靴拭	敷物
	窓掛	帽子掛	衣紋掛	旗竿
	國旗	旗	飾玉	紙屑籠
	釣臺	籠	籠長持	蒸籠 薄緣
	鏡	便壺	札掛	陶器製痰吐
	ブリキ製痰吐	衝立	額面	呼鈴
	花瓶	御簾	屏風	卓子掛
	蠅取	便器	膝掛	狀差
	如露	天秤棒	塗板	銑
	名札差	幕	足臺	締木
	霧吹	雪掻	蝿車	石鹼入
	踏臺	版押板	毛布	圖入筒

	梯子	風呂敷	標札
	芥取	書記臺	火鉢臺
	行李	圖被布	草袋
	馬車桐油	靴マット	椅子覆
	書見臺	臺車	報鐘
	楊枝入	毛皮	錨
	籠釣瓶	鳶口	半鐘
	絲卷	明ケ荷	祝詞袋
	汚物受	釣臺	寢臺覆
	巡査佩劍掛	喇叭	傘立
	箕	刺又	手錠
	鎖	手拭掛	螺貝
	鐵鍾	雲脚臺	膳籠
	標本瓶	差込瀞	
船舶屬具	櫂	艙	手鍵

	旗	棹旗	船擦
	ランプ	帆	錨
	櫂受	金數蒲團	コンパス
	油差	石炭掬	掻出棒
	捻廻		
被服及屬具	帽	帽日覆	外套
	冬袴	夏上衣	夏袴
	冬股引	夏法被	夏股引
	直衣	白丁	雨衣
	短靴	肩章	刀帶
	帽章		
巡査貸與品	帽章	略日章	帽章
	領章	刀帶	帶劍
	呼子笛	無地釦	手帳
	星釦		外套締

港務部職員被服貸與規則ニ依リ貸與ノモノ

器械		
品種	品目	備考
測量器	高低器	
	直角器	タコメートル
		ハンドレベル
	プリースマスコンパス	水平器
		コニヤスメートル
		小方儀
	平面器	壓力計
		プレンテーブル
		モンデバロメートル
	氣壓計	十字器
製圖器	縮圖器	
雜器械	風見器	電話器
		電鐘呼鈴
		電鐘押釦
	電池	電槽
		セメント試驗器
		石版器械
	顯微鏡	碎石器械
		望遠鏡
		紙鑑器
	蒸蒸器	紙押器械
		地質試驗器
		喞筒
	竪管	ホース
		筒先
		筒先換口
	消火器	卷車
		潛水器
		模型器
	起重器	輕便鐵道
		コンクリー混合器
		杭打器械
圖書		

品種	品目	備考
書籍類	教育	歷史
		理科
		政法
	經濟	雜書
圖畫類	圖畫	
動物		
品種	品目	備考
獸類	馬匹	南京鼠
		モルモット
鳥類	鷄	
	鳩	
消耗品		
品種	品目	備考
紙類	美濃紙	美濃罫紙
		美濃印刷紙
	大判紙罫紙	大判紙
	大判紙印刷紙	半紙
		半紙罫紙
	半紙印刷紙	雁皮紙
		雁皮罫紙
		雁皮印刷紙
	西ノ内紙	西ノ内罫紙
		西ノ内印刷紙
	程村罫紙	程村紙
	程村印刷紙	奉書紙
	薄美濃紙	

	細川紙	細川罫紙	細川印刷紙
	薄葉紙	美濃表紙	大判表紙
	西ノ内表紙	色紙表紙	圖引紙
	西洋紙罫紙	西洋紙印刷紙	西洋紙引裂切符
	西ノ内紙狀袋	程村紙狀袋	細川紙狀袋
	西洋紙狀袋	漉返紙狀袋	色紙
	墨取紙	圖引紙	試驗用紙
	漉紙	復寫用原稿紙	清朝紙
	藥袋紙	石版原稿紙	唐紙
	油紙	辭令用紙	鳥ノ子罫紙
	會計帳簿	野帳	手帳
印紙類	郵便壹錢五厘葉書	郵便參錢葉書	郵便五厘切手
	郵便貳錢切手	郵便參錢切手	郵便四錢切手
	郵便八錢切手	郵便拾錢切手	郵便拾五錢切手
	郵便貳拾五錢切手	郵便五拾錢切手	郵便壹圓切手
	收入壹錢印紙	收入貳錢印紙	收入五錢印紙
	收入貳拾錢印紙	收入五拾錢印紙	收入壹圓印紙
	收入壹錢印紙	收入貳錢印紙	收入五錢印紙
	收入拾錢印紙	收入五圓印紙	收入五厘印紙

墨類	墨	朱墨	白墨
	繪ノ具	インキ	
筆類	毛筆	石筆	鉛筆
	ペン先	鐵筆	ペン軸
油脂類	テレピン油	ペット油	カストル油
	椿油	胡麻油	鯨油
	丁子油	種油	石油
	洋蠟燭	封蠟	パテワニシ
	膠	松脂	ペンキ漆
	コールター	光明丹	防濕液
	黑肉	青肉	朱肉
薪炭類	木炭	石炭	薪
穀類	大麥	穀	煎麥
			大豆

雜品	篆	秣	
	綱	絹絲	
	雜巾	麻絲布巾	
	銀盃	木盃印刷物朱粉	
	葛粉	生麩茶	篆灰
	石鹼	水石鹼セメント輪ゴム	
	宇治ゴム	金剛砂石灰運搬筒	
	運搬箱	運搬用卷棒水引樹木	
	培養肥	鋸屑絲屑ヤスリ紙	
	釘	團扇杭木竹	
	畚	莚草履サヽラ	
	手拭	束子七曜表湯漉絹	
	海綿	磨皮綿回覽板	
	新聞挾	ベロ革木綿連續板	
	テコ木	鑑札磨粉麻	

	輕石	胡粉馬鞋蹄鐵	
	井戸繩	衣紋掛手拭掛下駄	
	草鞋	針素燒瓶鉛粉	
	棕梠繩	卷肌麻布笊	
	籠	ノ砥粉明鑵明俵	
	ゴム布	ハンダ鏹錘	
	荷爪	鋲小札酒	
	土瓶	釣柄杓刷毛砥石	
	ランプ火屋	ランプ心マッチ附木	
	鹽	制札獸肉鳥肉	
	アラビヤム	護謨管寫眞白金線	
	苗木	種子帽子掛金	硝子瓶（千瓦未滿）
	繃帶	投藥瓶馬具用インキ	秤量瓶
	硝子棒	レトルト三角架還元管	
	磁製坩堝	ビーカー時計硝子	コルベシ

	硝子圓筒活字電燈笠電球	
	亞鉛棒硝子管	
藥品類	藥品	
土木建築材料品	槻角栗角檜角樫角	
	椹板松丸太杉板竹	
	切石玉石龜腹石碎石	
	砂利煉化石セメント土	
	土炭岩砂	
	鐵棒針鐵	
傭人給與品又ハ巡査給與品	帽	冬服上衣冬服袴夏服上衣
	帽日覆	夏服袴帽子覆外套
	長靴短靴	夏法被夏股引
	冬法被冬股引	

●保管物取扱規程

（明治四十五年五月二十一日訓令第三十七號警察署警察分署）

明治三十七年一月廳訓第三號保管物取扱規程左ノ通之ヲ改ム

保管物取扱規程

第一條 此ノ規則ニ於テ保管物品ト稱スルハ拾得物、埋藏物、

徵收物、沒收品、犯罪者置去品、犯罪證據品、留置人携帶品（行政留置人ヲ含ム）、在監人所持品、臟品、一時領置品等ヲ謂フ

第二條 警察署長、警察分署長ハ保管物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ルモノトス

第三條 保管物品整理ノ爲別紙樣式ノ保管物嚢帳ヲ備置クヘシ

但シ拾得物、埋藏物、犯罪者置去品ニ在テハ明治三十二年五廳訓第百十八號遺失物法取扱手續、留置人携帶品、在監人所持品ニ在テハ明治三十一年七月廳訓第百二十一號留置場看守規則行政留置人携帶品、及一時領置品ニ在テハ明治三十三年六月廳訓第百七號行政執行法施行手續ニ依リ定メラレタル簿冊ニ依リ處理スヘシ

第四條 保管物品ニ附スヘキ價格ハ見積價格トス

但シ留置人携帶品、在監人所持品、一時領置品ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第五條 保管物品出納ノ命令ハ其ノ簿冊ニ署長ノ認印ヲ爲スヲ以テ方式トス

（用紙大判紙罫紙）

署長若クハ分署長認印	主任認印	受入拂出年月日	番號	品名	摘要	受入 數量	受入 金額	拂出 數量	拂出 金額	現在 數量	現在 金額	顚末
○	○	明治四十五年七月十五日	一	釣竿	何郡何町何番地何某ヨリ沒收	一	一〇〇			一	一〇〇	漁業取締規則違反ニ依リ沒收△四十五年何月何日公賣ニ付拂出

第六條 保管物品ニシテ國庫ニ歸屬シ又ハ法令ノ規定ニ依リ物品ヲ處分スヘキ場合ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 國庫ニ歸屬シタルトキハ三十日以內ニ處分スヘシ

但シ特ニ保管ノ必要アルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 賣却處分ハ凡テ公賣ニ附スヘシ

三 無價物ニ對シテハ棄却處分ヲ爲スヘシ

第七條 本規程第二條保管ノ責アル官吏其ノ物品ヲ故意若ハ怠慢ニ由リ亡失又ハ毀損シタルトキハ之カ辨償ノ責アルモノトス

第八條 直接保管ノ責任ナキ者ト雖モ故意若ハ怠慢ニ由リ物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ仍前條ノ例ニ依ル

第九條 警察署、警察分署ニ於テ水火災盜難等ニ依リ保管物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ知事ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ

附則

本規程ハ明治四十五年六月一日ヨリ施行ス

| | | |

何　何　程

右官舍及附屬品御貸渡シ相成候ニ就テハ御規則御命令遵奉可仕ハ勿論可及丈ハ保存清潔上ニ注意可仕萬一本人不都合ヲ生シ理辨不仕節ハ保證人ニ於テ都テ引受可申將又官舍附屬品共何時返納被命候トモ聊違背仕間敷仍テ連署調印御請仕候也

年　月　日　　拜借人　官　氏　名　印
保證人　官　氏　名　印

知事名宛

第十四條　官舍ハ家族又ハ雇人ヲ携帶スルモノニアラサレハ居住スルコトヲ得ス

第十五條　官舍ハ雇人ノ外同居人ヲ置クコトヲ得ス
但親戚故舊ニシテ同居ヲ必要トスル事情アルモノハ其緣故事由ヲ詳記シ出願許可ヲ得テ之ヲ置クコトヲ得

第十六條　自己ノ都合ニ依リ官舍ヲ返納シタルモノハ返納ノ日ヨリ滿九十日ヲ經ルニアラサレハ貸渡ヲ請フコトヲ得ス

第十七條　官舍借受人非職轉免死亡等ノ時ハ滿三十日以內ニ之ヲ返納スヘシ

第十八條　官舍ヲ返納セントスルトキハ遲クモ三日以前ニ其引拂日時(日曜日祭日祝日ヲ除ク)ヲ記シタル屆書ヲ當廳ニ差出ヘシ當廳ハ係員ヲ現場ニ派シ立會臨檢ノ上之ヲ受領スヘシ

第十九條　官舍返納ノ際本人ニ於テ立會難キトキハ保證人又ハ正當代理人ヲ差出ヘシ

第二十條　官舍返納ノ際ハ舍ノ內外ヲ問ハス清潔ニ掃除スヘシ

第二十一條　官舍ヲ返納スルニ際シ當廳ノ許可ヲ得スシテ私有品ヲ置クコトヲ得ス

第二十二條　官舍居住人ニ對シ戶籍上屆出ヲ要スルモノハ借受人ヨリ該屆書二通(寄留屆ハ三通)ヲ製シ其事故ヲ生シタル日ヨリ三日以內ニ當廳〔第二部〕ニ差出ヘシ

第二十三條　官舍ハ借受人ニ限リ居住中本籍ヲ置クコトヲ得

第二十四條　官舍ハ監督上ノ必要ニ依リ係員ヲ巡視セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テ借受人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　官舍及附屬品又ハ門塀垣若ハ水道管水道栓ノ破損ハ直ニ借受人ヨリ當廳〔第二部〕ニ屆出ヘシ
但水道管水道栓ノ破損ニシテ其退廳後ニ係ルモノハ〔第二部〕土木課營繕係員ニ通報スルモ妨ナシ

第二十六條　左ニ揭クル破損ハ借受人自費ヲ以テ之ヲ修理スヘシ
一　疊襖戶(雨戶ヲ除ク)及障子ノ破損
二　屋舍天井敷居鴨居壁門塀垣及水道管水道栓ノ當廳ニ於テ變災又ハ自然ニアラスト認ムル破損

第二十七條　自費修理ニシテ其施工ヲ當廳ニ請ハントスルトキハ其旨借受人ヨリ當廳ニ願出ヘシ

第二十八條　官舍居住中自費ヲ以テ門塀垣浴室物置棚押入及煙筒炬燵等ヲ新設シ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ其箇所及方法ヲ明記シ當廳ニ出願許可ヲ得ヘシ
前項ニ依リ煙筒ヲ設置シタルモノハ十日目毎ニ掃除ヲ施行スヘシ

第二十九條　前條ノ私設物其他私有ノ木石等ヲ取拂タルトキハ一週日以內ニ自費ヲ以テ其跡ヲ修理スヘシ

第三十條　自費修理ノ著手及落成ハ其都度借受人ヨリ當廳〔第二部〕ニ屆出ヘシ

第三十一條　自費修理ノ際借受人ニ於テ原形又ハ原質ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十二條　第二十六條第二十九條ノ修理ヲ怠リ又ハ第三十一條ニ違背シタルトキハ當廳ニ於テ之ヲ修理シ其費用ヲ徵收スヘシ

第三十三條　官舍附屬品ノ紛失シタルトキハ直ニ當廳〔第二部〕及警察署ニ屆出ヘシ

第三十四條　官舍附屬品ノ紛失シタルトキハ借受人ヨリ其新調代價ヲ徵收スヘシ

第三十五條　第二十七條第三十二條ノ修理費及第三十四條ノ新調代價ハ當廳ノ定ムル所ニ依ル

第三十六條　官舍宿料及徵收方法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十七條　官舍水料及徵收方法ハ橫濱市役所ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第三十八條　官舍及附屬品貸渡修繕並新調ニ關スル從前ノ命令ニシテ本則ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

第二章　國稅

●國稅金收納簿及徵稅元帳等ノ樣式

（明治四十三年四月二十二日訓令第二十九號）

（沿革）明治四四年四月訓令第二五號改正

郡役所　市役所　町村役場

市町村ニ備フヘキ國稅金收納簿其ノ他一人別徵收元帳等ノ樣式左ノ通定メ明治四十三年度分ヨリ之ヲ施行ス但シ宅地租ニ關スル規定ハ明治四十四年分地租ヨリ之ヲ適用ス
明治二十七年六月神奈川縣訓令第四十五號ヲ廢止ス

（表紙）

地　租　名　寄　帳

何郡　何市　何町(村)　何役所　何役場

國稅金收納簿及徵稅元帳樣式

凡例

一　甲號帳簿ハ田、畑、宅地及雜地（田、畑、宅地以外ノ土地）四科目ニ區分シ各納期毎ニ現在額ヲ整理スヘシ但シ前納期後異動ナキモノハ重テ現在額ヲ揭記スルヲ要セス

二　地租納稅者ニシテ其土地所在ト同縣內ノモノハ其縣名同郡市內ノモノハ其郡市名同町村ノモノハ其町村名ノ記入ヲ省略スヘシ

三　納稅管理人アルモノハ地租納稅者ノ左傍ニ其住所氏名ヲ朱書スルモノトス

四　家督相續若クハ遺產相續及改姓名又ハ納稅管理人交換等ノトキハ便宜之ヲ更正スヘシ

五　地目ノ欄ハ雜地租中ノ每地目ヲ記入シ其他ハ記入ヲ省略スヘシ

六　地租ノ欄ハ現在額ヲ整理スル場合ニ於テノミ記入スルモノトス

七　賣買及質入質取其他異動ニ係ルモノヽ增ハ墨書減ハ朱書スヘシ

八　各科目每ニ地租名寄帳ノ末尾ニ段別地價地租ノ合計ヲ附シ異動アル每ニ之ヲ整理シ之ニ依リ稅務署ニ地價地租ノ報告ヲ爲スモノトス

九　乙號帳簿ハ縣稅、市町村稅等ヲ徵收スル場合ニ於テ其納期每ニ宅地及其ノ他ノ土地ノ二科目ニ區分シ整理スルモノトス

但シ他ノ帳簿等ニ依リ明瞭ナル事項ハ之ヲ省略シ又ハ本簿ヲ設ケサルコトヲ得

十　耕地整理法第十六條ニ依リ一定ノ期間負擔又ハ利益ヲ受クヘキ金額及砂防法ニ依リ輕減セラルヽ地租額ニ對スル地價額ハ當該土地ノ地價欄ノ左傍ニ記載シ（利益ヲ受ケ又ハ輕減セラルヽモノハ朱書）置キ地租ノ徵收ヲ爲ストキハ地價ノ合計額ニ加除スルモノトス

（表中△印アルハ朱字又町或ハ圓位ヲ限ル橫線ハ別ニ印ヲ付セサルモ朱線ナリ）

△印ハ朱書

（甲號）

田之部	
何府縣何郡市町村大字何番地	何之誰
△納稅管理人 大字何々何番地	△何之誰

（乙號）

現在額及異動	大字	字番號	地目	段別	地價	地租	摘要
△荒地成				△町	圓		△何年何月何日許可
荒地起返				△〇八〇〇	△七三〇〇		△何年迄何ケ年
開墾成功				一、九〇〇〇	八一〇〇〇		何年何月何日許可
現在一月一日額				一〇〇〇〇	九〇〇〇〇		何年何月何日許可
買得				一、九〇〇〇	一、七一〇〇〇	八〇三七〇	
賣得				三三〇三	二〇七九〇〇		何年何月何日何之誰ヨリ
質取				一三三七	一一六一〇〇		何年何月何日何之誰ヨリ
△質入				△九〇〇〇	△八一〇〇〇		△何年何月何日何之誰ヘ
何年何月何日現在額				一、三六〇〇	一、三三四〇〇〇	五七〇 五三五	

（表紙）

計	何某
現在年月日	段別地價地租縣稅市町村稅摘要
何年何月何日現在額	町 圓 圓 圓 圓 圓

自家用醬油稅一人別徵稅元帳

何市役所
何郡何町(村)役場

備考

一　本簿ハ每年三月一日及十月一日ノ現在員數、稅額等ヲ揭ケ合計ヲ附シ收納簿ノ基礎ト爲スヘシ

二　摘要欄ニハ新規、轉入、轉出、相續竝其ノ年月日等ノ區分ヲ記入スヘシ

三　製造廢止、轉出等ニ係ルモノハ欄外上部ニ消印ヲ押捺スヘシ
　但シ製造廢止ニ係ルモノハ其ノ年ノ納期後ニ於テ消印スルモノトス

四　納稅管理人アルモノハ其ノ住所氏名ヲ併記スヘシ

自家用醬油稅

種別	稅額	一納期ノ納額	製造許可年月日	製造廢止年月日	摘要	住所	氏名
一	0.五00	0.二五0	何年何月何日		何々	大字番地何	某
二	一.000	0.五00	何年何月何日		何々	大字番地何	某
三	二.000	一.000	何年何月何日		何々	大字番地何	某
四	三.000	一.五00	何年何月何日		何々	大字番地何	某
五	四.000	二.000	何年何月何日		何々	大字番地何	某
何年十月一日現在	一0.五00	五.二五0					何人

第一號收納簿　記簿凡例

一　納期ノ一定スル國稅金ハ名寄帳及一人別徵稅元帳又ハ納額通知書ニ添付スル一人別仕譯書ヨリ㋑印ノ如ク移記シ其ノ合計ヲ納額通知書ノ金額ト對照シ差異ナキヲ認メタル後納稅告知書ヲ作リ發付スルモノトス

二　增額ノ爲メ追加納額通知書ヲ受ケタルトキハ㋺印ノ如ク記載スヘシ但シ其ノ納稅告知書ノ發付ニ付テハ前項ニ同シ

三　減額ノ通知ヲ受ケタルトキハ㋩印ノ如ク朱記シ其ノ納稅告知書ヲ訂正スルモノトス

四　國稅金ヲ領收シタルトキハ㋥印ノ如ク記載シ收入役認印スルモノトス

五　滯納者ノ報告ヲ爲シタルトキハ一人別ニ㋭印ノ如ク朱記スルモノトス

六　地租ニ關シテハ納期每ニ地租名寄帳ノ地租額ニ依リ當該納期ノ納額ヲ計算シテ揭記スルモノトス

七　地租ノ收納簿ニハ末尾ニ每納期ノ租額合計ヲ附シ異動アル每ニ之ヲ整理シ之ニ依リ稅務署ニ地租ノ納額ヲ報告スルモノトス

第二號隨時收入諸稅收納簿

一　隨時收入ニ係ル國稅ノ納額通知書ヲ受ケタルトキハ㋑印ノ如ク記載スヘシ但納稅告知書ヲ作リ發付スルハ第一號ニ同シ

二　國稅金ヲ領收シタルトキハ㋥印ノ如ク記載スルモノトス

第三號國稅金收納集計簿

一　本簿ハ日々收納簿ヘ登記セシ金員ヲ集計シテ記載スルモノトス

二　納稅告知書ヲ發セシトキハ㋑印ノ如ク記載シ增額ノ爲メ追加納稅告知書ヲ發セシトキハ㋥印ノ如ク記載シ減額ノ通知ヲ受ケタルトキハ㋩印ノ如ク(其金額ハ納額ノ區ヘ)朱記スルモノトス

三　日々領收スル國稅金ハ㋥印ノ如ク記載シ納額ヨリ領收額ヲ控除セシ差額ヲ未納額ノ區ヘ記入スルモノトス

四　國稅金ヲ金庫ヘ送付スルトキハ㋭印ノ如ク(金額ハ領收額ノ區ヘ)朱記スルモノトス

五　滯納報告ヲ爲シタルトキハ㋺印ノ如ク(金額ハ納額ノ區ヘ)朱記スルモノトス

(第一號)

明治何年度

(本簿ハ畑租及雜地租ノ第一、二期ヲ除ク外目每ニ調製スヘシ但シ本簿ハ便宜之ヲ洋式ト爲シ又其ノ紙數少キモノハ合綴シ見出ヲ付スルモ妨ケナシ)

國稅金收納簿

何市役所
何郡何町(村)役場

備考

一 畑租及雜地租ハ第一樣式、田租、所得稅ハ第二樣式、宅地租、營業稅、自家用醬油稅、賣藥營業稅ハ第三樣式ニ據ルモノトス

二 地租延納年賦ハ本號樣式ニ準シ適宜調製スルモノトス

第一 (畑租、雜地租)

番號	氏名	第一期 畑租	第一期 雜地租	第一期 計	第一期 領收月日印	第二期 畑租	第二期 雜地租	第二期 計	第二期 領收月日印
一		㊀ 圓 三五〇〇	〃 圓 一三五〇	圓 三七五〇	(二) 何月何日領收 ㊞	㊀ 圓 三五〇〇 五〇〇	圓 一三五〇	圓 四三五〇	(二) 何月何日領收 ㊞
二		㊀ ㊁ 三〇〇 「二〇〇」	㊀ 一〇〇	三五〇〇	(三) 何月何日領收 ㊞	三〇〇〇	㊀ 一三五〇	三五〇〇	(法) 「何月何日滯納報告ス」

(「 」內ハ朱書)

第二 (田租、所得稅)

番號	氏名	第何期 金額	領收月日印	第何期 金額	領收月日印	第何期 金額	領收月日印	第何期 金額	領收月日印
一	何某	㊀ 圓 四三五〇	(二) 何月何日領收 ㊞	圓		圓		圓	

第三 (宅地租、營業稅、自家用醬油稅、賣藥營業稅)

番號	氏名	何又ハ前期半年分 金額	領收月日認印	何又ハ後期半年分 金額	領收月日認印
一	何某	㊀ 圓 一五三〇〇	(二) 何月何日領收 ㊞	圓	

（第二號）

明治何年度

隨時收入諸稅收納簿

（本簿ハ之ヲ洋式ト爲スコトヲ妨ケス）

何市役所

何郡何町（村）役場

番號	氏名	稅目	納期	金額	領收月日印
一	大何字某	何稅（目）	何月何日㋑	三三五〇圓	何月何日領收㋺㊞
二	大何字某	何稅（目）	何月何日㋑	三〇〇〇	何月何日領收㋺㊞

納稅告知

第何號　何市町村　番地　何某納

何年度　地租　第何期

一金何程　畑租

一金何程　雜地租

知書

㊀計金何程

右何年何月何日限リ何市町村收入役ヘ納付スヘシ

年月日　何市町村長氏名印㊀

㊁收入役印

領收證書

第何號　何市町村　番地　何某納

何年度　地租　第何期

一金何程　畑租

一金何程　雜地租

計金何程

右領收候也

年月日　何市町村收入役氏名印㊂

備考

一　諸稅モ此樣式ニ準據調製シ一科目ノトキハ斜線欄內ニ目ヲ揭クヘシ

二　納稅告知書發付ノトキハ市町村長ニ於テ㊀印ノ如ク收納簿ト割印及捺印スヘシ

三　納稅人ヨリ租稅金領收セシトキハ收入役ニ於テ㊁印ノ如ク割印捺印シ其領收證書ヲ切離シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ

四 切離シタル告知書ハ日々之ヲ一括シ片紙ヲ付シ之ニ其合計金額稅目ノ内譯ヲ記載シ置キ國稅金收納集計簿ノ日計額ト對照スルモノトス

（表紙）

明治何年度

國稅過誤納金整理簿

何市役所
何郡何町（村）役場

備考

一 國稅金ヲ金庫ヘ納付シタル後過誤納ヲ發見シタルトキハ一人別ニ事由科目納期金額納人氏名ヲ記載スヘシ

二 前項金額下戻請求月日仕拂命令受領月日現金交付月日ニハ市町村長若ハ代理者ニ於テ夫々認印スヘシ

三 過年度ニ屬スル過誤納金ハ別ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ但シ納期下アル欄ヲ元年度トス

國稅過誤納金

過誤納ノ事由	科目	納期	金額	納人	整理年月日 下戻請求	仕拂命令「又ハ（下戻金）」受領	現金交付

（第三號）

明治何年度

國稅金收納集計簿

（本簿ハ毎納期各目隨時收入ハ項毎ニ區分シ合綴シテ見出ヲ附スヘシ但シ本簿ハ洋式ト爲スコトヲ妨ケス）

何市役所
何郡
何町（村）役場

第一期畑租					
年月日	摘要	納額	領收額	未納額	
何月何日	告知書發付	㋑ 八五三二五〇圓	圓	八五三二五〇圓	
何月何日	領收濟		㋺ 五六一三〇	三一七一二〇	
「何月何日」	「減額通知」	㋩ 「一三五〇」		三〇四六二〇	
何月何日	領收濟		㋥ 三〇四六二〇		
「何月何日」	「何金庫ヘ送付」		㋭ 「八四〇七五〇」		

| | | |

年月日	摘要	納額	領收額	未納額
何月何日	告知書發付	㊁ 一三号圓八号〇	圓	一三号圓八号〇
何月何日	同		㊂ 三000	0
「何月何日」	「何金庫ヘ送付」		㊃ 「三号三号〇」	
合計				

何月何日	領收濟		㊄ 一一三号三号〇	一三三号三号〇
何月何日	增額ノ分告知書發付	㊅ 九三八〇		一三九八六〇
何月何日	告知書發付	㊆ 一三三六00		三四三六六〇
「何月何日」	「何金庫ヘ送付」		㊇ 「一一三号三号〇」	
何月何日	領收濟		㊈ 一一三号三八〇	一一八〇八〇
「何月何日」	「減額通知」	㊉ 「一三号六〇」		一三号三一〇
「何月何日」	「何金庫ヘ送付」		㊋ 「一一三号三八〇」	
「何月何日」	「何人分滯納報告ス」	㊌ 「一一三号三一〇」		0

●地租名寄臺帳照合方

（明治三十七年四月十二日訓令第十七號）

郡役所 市役所 町村役場

市町村長ハ毎年一月中ニ於テ地租名寄帳ノ其ノ月一日現在集計額ヲ稅務署土地臺帳ノ集計額ニ照合スヘシ但シ本年ハ此ノ際速ニ照合ヲ爲スヘシ

第三章 給與

●國費所屬旅費支給規則

（明治四十三年八月四日訓令第五十二號）

（沿革）明治四四年四月訓令第二一號、四五年六月同第三九號、大正元年八月同第八號、三年四月同第一七號、同年六月同第二一號改正

郡役所 警察署 警察分署

國費所屬旅費支給規則左ノ通之ヲ定ム

國費所屬旅費支給規則

第一條 本則ハ內務省所管旅費規則第十四條ニ依リ月額、日額、旅費ノ支給及定額減少等ニ關スル事項ヲ規定ス

第二條 管內旅行ニ付テハ本則ニ定ムルモノノ外第一號表ノ車馬賃、宿泊料、日當ヲ支給ス但シ郡長ノ旅行ニ付テハ第二號表ノ車馬賃、宿泊料、日當ヲ支給ス

第三條 移轉料ハ管內赴任ノ場合ニハ之ヲ支給セス但シ管外ヨリ赴任セシ場合ニハ其時々之ヲ指定ス

第四條 各種事業講習員トシテ出張スルトキハ用務地ニ到著ノ翌日ヨリ出發ノ前日迄營繕土木工事ノ調査設計監督出來形檢査又ハ測量ノ爲メ出張スルトキ其旅行三日以上ニ涉ルトキハ三日目ヨリ用務最終地出發ノ前日迄第三號表ノ日額旅費ヲ支給ス

但用務地ノ二郡市以上ニ涉ル場合ハ一郡市內用務最終地ヨリ他ノ郡市內用務開始地迄ハ其路程ニ應シ鐵道賃船賃車馬賃ヲ支給ス

第一條 土木派出所在勤ヲ命シタル吏員ニハ第四號表ノ月額ヲ支給ス但シ第一區土木派出所員ニハ其ノ區域內ニ出張ノ場合ニ限リ日數ニ應シ第五號表ノ日額ヲ支給ス

前項區域外ニ出張シ又ハ區域內ト雖上司隨行其ノ他臨時用務ノ爲出張スルトキハ普通旅費ヲ支給ス

第六條 防疫官、防疫官補及防疫監吏ニシテ左記町村內ニ出張スルトキ及神奈川警察署在勤防疫官補ニハ第八號表ノ月額ヲ支給ス

橫濱市 神奈川町 青木町 淺間町 岡野町 久保町 南太田町 根岸町 本牧町 子安町 瀧頭町 磯子町 岡村町 堀ノ內町 蒔田町 井土ケ谷町 大岡町 弘明寺町

橘樹郡 保土ケ谷町

久良岐郡 大岡川村

第七條 港務部員ニシテ輸入獸類檢疫所ニ往復スルトキハ第七號表ノ日額ヲ給シ輸入獸類檢疫所長濱檢疫所間ヲ往復スルトキハ第六號表ノ日額ヲ支給ス

第八條 橫濱市內神奈川町、青木町、淺間町、岡野町、久保町、南太田町、根岸町、本牧町、子安町、瀧頭町、磯子町、岡村町、堀內町、蒔田町、井土ケ谷町、大岡町、弘明寺町ニ出張スル吏員（警視、警部、警部補、巡査ニシテ畜牛結核病檢査員及獸疫檢疫委員タルモノ及各警察署員ハ除ク）ニハ第七號表ノ日額ヲ支給ス

橘樹郡長ニ於テ橫濱市內大岡川以南ノ各町、久保町（橘樹郡元保土ケ谷町地籍ヲ除ク）、南太田町、井土ケ谷町、弘明寺町ニ出張スルトキハ前項日額ヲ支給ス

第八條ノ二 傳染病豫防其他臨時ノ事務ニ關シ滯在ヲ要スル吏員ニ對シテハ其時々旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第九條 月額旅費ハ土木派出所員ニ在リテハ在勤地ニ到著ノ翌日ヨリ轉勤ノトキハ在勤地出發ノ前日迄其ノ他離職ノ場合ハ發令又ハ死亡ノ當日迄疾病又ハ忌引ノ爲缺勤十日以上ニ及フトキハ十日ヲ超過シタル日數、歸省其ノ他許可ヲ得テ出務セサル日數及他ノ旅費ノ支給ヲ受ケタル日數ハ之ヲ控除ス

防疫官、防疫官補及防疫監吏ニ在リテハ外勤ニ服シタル日ヨリ轉任其ノ他離職ノ場合ハ發令又ハ死亡ノ當日迄疾病其ノ他ノ缺勤及他ノ旅費ノ支給ヲ受ケタル日數ハ之ヲ控除ス

前項ニ依リ日割支給ヲ要スル場合ニハ月額三十分ノ一ヲ一日分トシ之ヲ計算ス

第九條ノ二 職務上電車又ハ自働車ニテ無料旅行ノ場合ハ其旅行ニ對シテハ車馬賃ヲ橫濱市內ハ日額ヲ支給セス

第十條 本則ニ定ムルモノヽ外ハ總テ定額ヲ支給ス

附則

本令ハ明治四十三年八月ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年六月廳訓第五十七號、明治四十年十一月廳訓第五十號明治四十一年十一月廳訓第三十九號、明治四十二年六月廳訓第二十三號、明治四十三年七月訓第百二十六號ハ之ヲ廢止ス

旅費支給額表

第一號表

官職	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付
奏任官及待遇	二五〇	一、八〇〇	一、二〇〇
判任官及待遇	二〇〇	一、二〇〇	八〇〇
課長、署長ニアラサルモノ	二〇〇	一、二〇〇	八〇〇
部課長、官房主事及署長ニアラサルモノ	二五〇	一、八〇〇	一、二〇〇
雇員	一五〇	九〇〇	五〇〇
同	一五〇	九〇〇	五〇〇
囑託員 月手當三十圓以上百圓未滿ノモノ	二〇〇	一、二〇〇	八〇〇
囑託員 月手當百圓以上ノモノ	二五〇	一、八〇〇	一、二〇〇
藥品監視員、畜牛結核病檢査員タル獸醫、月手當四拾圓以上ノ獸疫檢疫委員 在官ニアラサルモノ	二〇〇	一、二〇〇	八〇〇
雇員 月手當四拾圓未滿ノ獸疫檢疫委員	一〇〇	七〇〇	三〇〇

第二號表

區分	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付
郡內	二五〇	一、八〇〇	一、二〇〇
郡外	二五〇	二、〇〇〇	一、五〇〇

第三號表

官職	日額	官職	月額
奏任官及待遇	一、八〇〇	判任官（主任）	二二、五〇〇
判任官及待遇	一、二〇〇	同（副主任）	一九、五〇〇
雇員	八〇〇	雇員	一七、一〇〇

第四號表

第五號表

官職	日額	官職	日額
判任官（主任）	九〇〇	雇員	七五〇
同（副主任）	八〇〇		

第六號表

官職	日額	官職	日額
奏任官及待遇	八〇〇	奏任官及待遇	五〇〇
判任官及待遇	六〇〇	判任官及待遇	四〇〇

第七號表

職員	月額	官職	月額
囑託員	四五〇	囑託員	四〇〇
雇員	四五〇	囑託員 同上月手當三拾圓未滿ノモノ	四〇〇
傭員	三〇〇	雇員、月手當四拾圓未滿ノ獸疫檢疫委員	二五〇
		傭員	一五〇

第八號表

官職	月額	官職	月額
防疫官補	九、〇〇〇	防疫官補	六、〇〇〇
防疫官補 警察部在勤ノモノ 神奈川警察署在勤ノモノ	一二、〇〇〇	防疫監吏	三、〇〇〇

●國費所屬旅費支給規則第三條ニ依ル移轉料額

（明治四十三年九月二十三日 訓令第五十九號）

移轉料支給額表

官職	鐵道三百哩未滿	同上三百哩以上六百哩未滿	同上六百哩以上
勅任官	二五圓	五〇圓	七〇圓
奏任官及待遇	二〇	三五	五〇
判任官及待遇	一〇	二〇	三〇

備考

旅行中鐵道、陸路又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道哩數ニ換算ス

（沿革）大正二年五月訓令第三六號改正

郡役所 警察署 警察分署

明治四十三年八月神奈川縣訓令第五十二號國費所屬旅費支給規則第三條移轉料給額左表ノ通之ヲ定ム

●國費所屬旅費概算渡規程

（明治四十五年三月八日 訓令第七號）

郡役所 警察署 警察分署

國費所屬旅費概算渡規程左ノ通之ヲ定ム

第一條 旅費ノ概算渡ヲ受クルハ一旅行三日以上ニ及フトキニ限リ其見積金額ノ五分ノ四以內トス

第二條 概算渡ヲ受ケタルモノハ歸廳後三日以內ニ精算スヘシ其ノ精算ヲ了スルニアラサレハ更ニ概算渡ヲ受クルヲ得ス

第三條 旅費概算渡請求書ニハ旅行ノ見積行程及日數ヲ明記スヘシ

附則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十三年四月廳達甲第七號ハ之ヲ廢止ス

●年金、恩給、退隱料及扶助料證書檢閱等ニ關スル手續

（明治四十二年二月二十六日 訓令第六號）

郡役所 市役所 町村役場

年金、恩給、退隱料及扶助料證書檢閱等ニ關スル手續左ノ通之ヲ定ム

勳章年金、恩給、退隱料及扶助料證書、檢閱等ニ關スル手續

第一條 本手續ハ〔旭日勳章年金、金鵄勳章年金、文官恩給、文官遺族扶助料、軍人恩給、軍人遺族扶助料、〕公立學校職員退隱料（明治二十三年法律第九十一號府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法）公立學校職員遺族扶助料（同上）巡査看守退隱料（內閣恩給局長ヨリ證書下付ノ分）及巡査看守遺族扶助料（同上）ヲ受クル者ノ證書檢閱及未受領金請求書證明ニ係ル手續ヲ規定ス

第二條 市町村長（横濱市、久良岐郡及橘樹郡ヲ除ク）ハ其ノ部內ニ於テ新ニ〔勳章年金、恩給、退隱料又ハ扶助料證書ヲ受ケ支給期月ヲ經過シタル者若ハ他ヨリ轉入シタル者又ハ死亡其ノ他權利消滅等ニシテ未受領金アル者ハ其ノ時時證書ヲ檢閱シ其ノ結果ヲ本廳ニ報告（附屬樣式ニ依ル）スヘシ

第三條 市町村長ハ其ノ部內受〔年金、恩給、〕退隱料、扶助料者死亡シ其ノ死亡者ノ受クヘキ未受領金アルトキハ正當權利者ノ請求書ヲ徵シ證明ノ上本廳ニ提出スヘシ但シ繼受願

若ハ轉給願ヲ直ニ提出シ正當權利者タルコトヲ認知シ得ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　明治三十八年十月神奈川縣訓令第二十二號ハ之ヲ廢止ス

附屬樣式

番號　證書檢閲報告書

年	額	何年何月給額	元官名等	氏名	住所
	二〇〇〇圓	五〇〇〇圓	陸軍	何々	何郡何町村何(大字)番地
三六	〇〇〇	九〇〇〇	何々	何	同
增加 五五	〇〇〇	一七七五〇	何々	何	同
一六	〇〇〇				
三〇	〇〇〇	七五〇〇	何々	寡婦 何	同
			父母、孤兒	孤兒後見人親權者 何	何郡何方同居

右本人ノ所持スル證書ヲ檢閲シ併テ正當權利者タルコトヲ證明ス

右本人ノ所持スル證書ノ檢閲ヲ了ス(死亡者ノ場合)

明治　年　月　日

神奈川縣知事宛

何郡、市、町、村長　氏　名　印

備考

一　證書檢閲ノ場合ハ本人生存ノ有無ハ勿論再就職又ハ扶助料者ニシテ分家其ノ他戸籍ヲ去リ若ハ寡婦ニシテ婚嫁等ノ有無ヲ精査シ權利ノ消絶セサルコトヲ確ムルヲ要ス

二　〔「元官名等」ノ欄中旭日勳章年金ニハ官名ノ肩ニ勳何等金鵄勳章年金ニハ官名ノ肩ニ功何級ト記入シ又金鵄勳章年金繼受者及各扶助料者ハ元何官何某寡婦又ハ孤兒父母ト割書スルモノトス〕

三　「氏名」ノ欄中親權者又ハ後見人アル者ハ親權者何誰若ハ後見人何誰又代理人アル場合ハ代理人何誰ト併記スルモノトス

生家ノ氏ニ依リ扶助料證書ヲ受ケタル寡婦若ハ母ハ婚家ノ氏ヲ記載スヘシ

四　「住所」ノ欄中後見人又ハ代理人ニ係ルモノハ後見人又ハ代理人ノ現住所ヲ記入スルモノトス但シ後見人他町村ニ居住ノ場合ハ孤兒本人ノ住所ヲ記入スヘシ

五　代理人ノ場合ハ其ノ委任狀ヲ報告書ニ添付提出スルモノトス

第八類

土木地理

第一章　土木派出所

第二章　工事

第三章　土地、水面、治水

第四章　道路、橋梁、渡津

第八類　土木、地理

第一章　土木派出所

●土木派出所及同出張所名稱位置及管轄區域

（沿革）明治四四年四月告示第一〇〇號改正

（明治四十一年五月十九日告示第百二十四號）

郡部土木事業ニ關スル調査及其ノ工事監督ノ爲土木派出所及同出張所ヲ設置シ其ノ名稱位置及受持區域ヲ左ノ通之ヲ定ム

神奈川縣第一區土木派出所　神奈川縣廳內

受持區域　久良岐郡　橘樹郡　都筑郡　鎌倉郡　三浦郡　横須賀市　高座郡（境川筋河川工事）

同　出張所　三浦郡役所內

受持區域　三浦郡　横須賀市

神奈川縣第二區土木派出所　愛甲郡役所內

受持區域　愛甲郡　高座郡（神奈川縣第一區土木派出所受持區域ヲ除ク）　津久井郡

中郡（相模川筋河川工事、第二號國道馬入橋及埼玉往還道路橋梁全部、矢倉澤往還相川村地內道路橋梁全部）

神奈川縣第三區土木派出所　足柄下郡役所內

受持區域　足柄上郡　足柄下郡　中郡（神奈川縣第二區土木派出所受持區域ヲ除ク）

同　出張所　中郡役所內

受持區域　中郡（神奈川縣第二區土木派出所受持區域ヲ除ク）

●土木派出所及同出張所經由願屆ノ件

（明治三十二年一月十三日訓令第二號）

（沿革）明治四〇年四月訓令第二九號、四一年五月同第三〇號、四四年四月同第一八號改正

郡役所　市役所

自今左ノ事項ニ關スル願屆等ニシテ當廳ニ送付スヘキモノハ各々受持土木派出所及同出張所ヲ經由シテ差出スヘシ

一　水車及河流分水使用ニ關スル件

一　堤塘、道路、橋梁、用惡水路ノ新設變更及修繕ニ關スル件

一　道路、堤塘竝木敷等ノ使用ニ關スル件

一　道路竝木敷、堤塘等ノ竹木ニ關スル件

●修路定用工夫配置採用及給與規程

（明治三十三年五月八日廳訓第八十五號）

（沿革）明治三四年五月廳訓第七三號、同年七月同第八九號、三五年四月同第四九號、四〇年五月同第二四號、四

一年五月同第二五號、四二年五月同第二〇號、四三年四月同第七號、四四年五月同第一〇號、大正三年四月同第六號改正

内務部

修路定用工夫配置採用及給與規程左ノ通之ヲ定ム

右訓令ス

修路定用工夫配置採用及給與規程

第一條　土木(係)派出所所屬トシテ工夫若干名ヲ配置シ修路定用工夫ト稱シ縣費支辨道路橋梁溝渠並木保存小破修理ニ從事シ兼テ豫備材料ノ看守ヲ爲サシムルモノトス

第二條　修路定用工夫ノ配置區域及定員左ノ如ク之ヲ定ム但シ必要ト認メタル區域ヨリ漸次配置スルモノトス

線路名	區域	定員
第一號國道	横濱市内全部	十二人
第二號國道	橋樹郡内全部	二人
都筑縣道	橋樹郡内全部	一人
第一號國道	鎌倉郡内全部	二人
第二號國道	鎌倉郡内全部	二人
同	高座郡内全部	二人半
同	中郡内全部	六人半
同	足柄下郡内全部	二人
第十六號國道	津久井郡内全部	二人
第四十五號國道	横濱市内全部	五人
同	久良岐郡屏風浦村ヨリ同郡金澤村迄	三人
第四十五號國道	横須賀市内全部	一人半
第五十八號國道	足柄下郡内全部	二人
武相縣道	橋樹郡内全部	一人
同	高座郡大和村ヨリ同郡海老名村迄	二人
同	愛甲郡厚木町ヨリ中郡相川村迄	一人
同	中郡成瀬村ヨリ同郡西秦野村迄	三人
同	足柄上郡上秦野村ヨリ同郡松田町迄	一人
都筑縣道	橋樹郡内全部	一人
同	都筑郡都田村地内全部	一人
甲州往還	横濱市内全部	四人
同	橋樹郡内全部	一人
同	都筑郡内全部	二人
同	中郡内全部	二人
埼玉縣道	高座郡内全部	三人半
同	本線路全部	二人
熱海縣道	橋樹郡内全部	一人
愛甲縣道	都筑郡二俣川村ヨリ鎌倉郡瀬谷村迄	一人
同	横濱市内全部	四人
戸塚縣道	橋樹郡川崎町ヨリ同郡高津村迄	二人
鎌倉縣道	橋樹郡城郷村ヨリ同郡日吉村迄	一人
中原縣道	鎌倉郡内全部	二人
鎌倉縣道	久良岐郡内全部	二人
同	鎌倉郡本郷村ヨリ同郡小坂村迄	一人
鎌倉、興瀬三崎、江ノ島、朝比奈縣道	鎌倉郡鎌倉町内全部	二人
興瀬三崎縣道	三浦郡内全部	六人
同	高座郡内全部	二人
同	愛甲郡内全部	三人
興瀬三崎縣道	津久井郡内全部	二人
江ノ島縣道	高座郡内全部	一人
同	鎌倉郡川口村片瀬ヨリ同郡腰越津村櫻越迄	一人
逗子金澤縣道	三浦郡逗子町ヨリ久良岐郡六浦莊村迄	一人
三浦縣道	本線路全部	三人半
豐島武山縣道	本線路全部	二人
厚木戸塚縣道	鎌倉郡戸塚町ヨリ同郡中和田村迄	一人
藤澤大和縣道	本線路全部	三人
津久井縣道	本線路全部	二人半
大山縣道	中郡平塚町ヨリ同郡伊勢原町迄	二人
秦野縣道	本線路全部	二人
吾妻秦野縣道	本線路全部	一人半
足柄縣道	足柄下郡小田原町ヨリ同郡足柄村迄	一人半
足柄松田縣道	足柄上郡松田町ヨリ同郡南足柄村迄	一人

第三條　左ノ各項ニ該當スルモノハ修路定用工夫ニ採用セサルモノトス

一　年齢二十歳未滿四十五歳以上ノ者

二　本縣管内ニ現住シ土地家屋ヲ所有スルカ又ハ直接國税年額五圓以上ヲ納ムル保證人二名ヲ有セサル者

三　身體健全ヲ缺ク者

四　配置區域内若クハ其ノ隣接町村内ニ現住セサル者

五　工事用具(鋤鎌ノ類鶴嘴シヨベル)ヲ自辨シ得サル者

六　重量拾六貫目ノ物品ヲ荷ヒ得サル者

七　輕罪以上ノ處刑ヲ受ケタル者

八　家資分散又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ラサル者

九　性質不良ニシテ從順ナラサル者

第四條　修路定用工夫ニハ金參拾錢以上金五拾錢以内ノ日給ヲ給與スルモノトス但シ服務時間外特ニ服務セシムルトキハ別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第五條　業務ノ爲メ使用スル郵便税ハ實費ヲ支給スルモノトス

第六條　前月分ノ日給及郵便税ハ請求ニ依リ翌月之ヲ下渡スモノトス

第七條　工事上特ニ必要ト認ムル器具ハ之ヲ貸與スルコトアルヘシ

第八條　修路定用工夫ニ毎年二回法被ヲ給與ス但シ保存期限

ハ六ケ月トス

第九條　解雇死亡ノトキ保存期限内ノ給與品ハ三日以内ニ還納スヘシ

第十條　業務ノ都合ニ依リ左ノ通休業セシム

一　三大祝日　全日休業

一　國祭日　半日休業

一　一月二日、一月三日、一月十六日、七月十六日、十二月三十一日　半日休業

第十一條　業務ノ爲使用スル工事用具損料トシテ年度ヲ二季ニ分チ四月十月ニ於テ相當ノ金額ヲ給與ス但シ中途採用並解傭ノ者ハ月割ニ依リ給與ス

●道路修繕用工夫及土木派出所、出張所小使給料支出原簿設備ニ關スル件

（大正三年四月十七日訓令第十一號）

縣費所屬各道路ニ配置セル道路修繕用工夫及土木派出所並ニ出張所小使給料ハ左記樣式ノ給料支出原簿ヲ設備シ大正三年度以降郡長ニ於テ支給シ明治四十二年三月神奈川縣令第二十號神奈川縣會計規則ニ依リ取扱フヘシ

郡役所

（給料支出原簿樣式）

年度	俸給及日給額	任免其他年月日	官職氏名	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
	圓	大正年月日發令													
		大正年月日發令													
		大正年月日發令													
		大正年月日發令													
年度															
年度															
年度															
年度															
年度															
年度															
年度															
年度															
年度															
備考															

第二章　工事

●工事執行規程

（明治三十六年十一月十日告示第二百七十三號）

（沿革）明治三六年一二月告示第三〇六號、三九年一〇月同第一九二號、四一年一月同第一二號、同年四月同第九〇號、四五年五月同第一七二號改正

工事執行規程縣參事會ノ議決ヲ經左ノ通之ヲ定ム

工事執行規程

第一條　縣費ヲ以テ支辨スル工事ノ執行ハ此ノ規程ニ依ル

第二條　工事ノ請負及工事ニ要スル物件ノ買入借入ハ左ノ方法ニ依ル

一　一廉見積金額七百圓以上ノモノハ掲示及公報新聞紙ヲ以テ廣告シ入札ニ付スヘキモノトス但シ公報ニ掲載スル暇ナキトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

二　一廉見積金額七百圓未滿參百圓以上ノモノハ公報又ハ掲示ヲ以テ廣告シ尙當業者ニ通知シテ入札ニ付スヘキモノトス

三　一廉見積金額參百圓未滿百五拾圓以上ノモノハ公報又ハ掲示ヲ以テ廣告シ又ハ當業者數名ヲ指名シテ入札ニ付スヘキモノトス

四　一廉見積金額百五拾圓未滿ノモノハ便宜ノ方法ニ依ルモノトス

第三條　工事ノ請負及工事ニ要スル物件ノ買入借入入札ハ左ノ各項ニ依ルモノトス

一　開札ノ場所日時ハ之ヲ告示ス

二　競爭ニ加ハラムトスル者ハ現ニ當該職業ニ從事スル者

ニ限ル但シ必要アリト認ムルトキハ特ニ其ノ資格ヲ制限スルコトアルヘシ

三　一廉參百圓以上ノ入札ニハ入札保證金ヲ差出サシム其ノ金額ハ各自入札金額ノ百分ノ五以上ノ現金トス但シ參百圓未滿ト雖トモ必要アリト認ムルモノハ入札保證金ヲ差出サシムルコトヲ得

四　入札ハ豫定價格以下ニシテ最低價ノモノヲ落札トス最低價ノモノ二人以上アルトキハ其ノ入札人ヲシテ直ニ再入札ヲ爲サシメ尙同價ナルトキハ卽時抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

入札ニシテ一モ豫定價格以下ノモノナキトキハ直チニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

五　一廉參百圓以上ノ請負賣買又ハ貸借契約ニハ契約保證金ヲ納付セシム其ノ金額ハ契約金高ノ百分ノ十以上トス但シ參百圓未滿ト雖トモ必要アリト認ムルモノハ契約保證金ヲ納付セシムルコトヲ得

六　入札保證金ハ落札者請負賣買又ハ貸借ノ契約ヲ結ハサルトキ契約保證金ハ契約書ニ依リ縣廳ノ所得ニ歸セシムルトキニ限リ縣ノ所得トス

第四條　工事ノ請負契約又ハ工事ニ要スル物件ノ買入借入ニシテ左ニ揭クルモノハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　河海堤塘ノ工事見積金額參千圓未滿縣道以下道路ノ工事見積金額千圓未滿橋梁工事ノ見積金額五百圓未滿ノモノニ（道路改修工事ニ屬スルモノハ之ヲ除ク）シテ地元市町村長ニ於テ選定シタル者ニ請負ハシムルトキ但シ市部ハ此ノ限ニ在ラス

二　一人又ハ一會社ノ專有スル物品ヲ買入若ハ借入ルトキ

三　工事又ハ物件ノ買入若ハ借入ヲ爲スニ當リ競爭ニ付スル暇ナキトキ

四　競爭入札ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再入札ニ付スルモ尙豫定價格ニ達セサルトキ

五　增加工事ヲ既約ノ請負人ニ命スルトキ

六　土地及土砂等ノ買入若ハ借入レヲ爲スニ當リ其ノ區域ニ限リアルトキ

七　試驗ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入レ若ハ借入ルトキ

八　官廳又ハ公共團體ヨリ物件ヲ買入レ若ハ借入ルトキ

九　直轄工事ニ要スル職工及人夫等ヲ傭役スルトキ

第五條　工事ノ請負入札竝請負契約ニ關シテハ本規程ニ依ルノ外明治三十一年十二神奈川縣告示第二百四號土木工事請負規程ニ依ルモノトス

●土木工事請負規程

（明治三十一年十二月十三日）
（告示第二百四號）

（沿革）明治三二年告示第一〇九號、同第一八三號、四〇年五月同第九八號、同年一二月同第二八二號改正

土木工事請負規程左ノ通之ヲ定ム

土木工事請負規程

第一條　工事請負ノ競爭入札ニ加ハラムトスル者ハ現ニ當該ノ職業ニ從事シ官署又ハ公署ノ證明書ヲ有スルモノニ限ル但シ特ニ二箇年以來引續キ其ノ職業ニ從事スル證明書ヲ要スルトキ其ノ他請負者タルニ必要ナル資格ハ其ノ都度其ノ旨ヲ公示スルコトアルヘシ

第二條　工事請負ノ競爭入札ニ加ハラムトスル者ハ工事設計書仕譯書及契約書案ニ揭クル事項竝ニ實地ヲ熟覽スヘシ設計其ノ他ニ疑義アルトキハ係員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第三條　入札書ハ縣廳ノ定ムル書式ニ依リ調製シ入札人ノ職業住所氏名ヲ詳記シ捺印ノ上本規程第一條ノ證明書ヲ添附シ之ヲ封緘シテ公示ノ入札場ニ差出スヘシ但シ會社等ニシテ官ノ許可ヲ受ケ營業スルモノハ其ノ許可書ノ寫ヲ以テ證明書ニ代用スルコトヲ得

代理人ヲ以テ入札スルトキハ前項書類ノ外本人ノ委任狀ヲ添附スヘシ

入札書ハ書留郵便ヲ以テ差出スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ豫メ公示ス

書留郵便ヲ以テ入札書ヲ差出ス場合ニ於テハ本條第一項及第二項ニ揭クル一切ノ書類及入札保證金（神奈川縣知事ヲ請取人トシタル郵便爲替又ハ銀行爲替手形）ヲ封入シ土木課長宛親展書トシ開札ノ前日迄ニ縣廳ヘ到著セシムル樣差出スヘシ

第四條　入札保證金ハ入札ノ際之ヲ係員ニ差出スヘシ

入札保證金ハ落札人ニ係ル分ヲ領置シ其他ハ卽時之ヲ還付スルモノトス

開札ノ後落札トナリタルモノノ入札保證金ニシテ若シ落札金高ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ直ニ補足セシムヘシ補足セサルトキハ契約ヲ結ハサルモノト認メ落札ヲ取消シ其ノ入札保證金ハ縣廳ノ所得ニ歸セシム

開札場二箇所以上ヲ設ケタルトキ入札保證金ハ各最低價ノ入札人ヨリ領置シ落札人決定ノ後其ノ落札人ニ係ル分ノ外ハ之ヲ還付スルモノトス

落札人ヨリ領置シタル入札保證金ハ契約締結後ニ非サレハ還付セサルモノトス

第五條　開札ハ公示シタル場所日時ニ於テ係員之ヲ執行ス但シ開札前相當ノ入札ヲ得難シト認ムルトキハ之カ開札ヲ中止シ其ノ入札ヲ延期シ又ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ

前項但書ニ依リ延期又ハ廢止ノ場合ニ於テ入札人ニ損害アルモ縣廳ハ辨償ノ責ニ任セス

第六條　左ノ事項ニ該當スル場合ハ其入札ヲ無效トス

一　開札前ニ入札保證金ヲ差出ササルトキ

二　入札金額其ノ他要領ノ認知シ難キモノ

三　入札書式ニ背キ直ニ補修シ難キモノ

四　入札ニ添附スヘキ書類ノ脫落シ卽時補足シ難キモノ

五　郵便入札ニシテ開札ノ前日迄ニ縣廳ニ到著セサルモノ
又ハ書留郵便若ハ親展書ト爲ササルモノ

第七條　入札後入札書ノ金額若ハ要件ノ更正ヲ申出ルモ之ヲ採用セス

第八條　入札ハ豫定價格以下ニ於テ最低價ノモノヲ落札トス
最低價ニシテ同價ノモノ二人以上アルトキハ其ノ金額以下ニ於テ再入札ヲ爲サシム其ノ入札尙同價ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
但シ入札人出席セサルモノアルトキハ其ノ入札ノ出席人ヲシテ再入札ヲ爲サシム
二箇所以上ニ於テ入札執行ノトキハ先ツ每場其ノ最低價ノ入札價格ヲ示シ之ヲ縣廳ニ蒐集較査シ落札人ヲ定メ之ヲ各自ニ通知スヘシ
各入札場ノ入札中豫定價格以下ノ最低價格ニ同價ノモノ二個以上アルトキ又ハ本條第一項再入札ノ場合ニ於テ入札人出席セサルトキハ日時ヲ定メテ其ノ入札人ヲ縣廳ニ召集シ更ニ入札セシメ本條第一項再入札ノ順序ニ依リ落札人ヲ定ムヘシ
入札ニシテ一モ豫定價格以下ノモノナキトキハ直ニ出席入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ執行スルコトアルヘシ

第九條　落札人ハ落札決定ノ通知ヲ領シタル日ノ翌日ヨリ二日以內ニ契約書二通ヲ作リ契約保證金ヲ添ヘ縣廳又ハ指定ノ郡役所ニ差出スヘシ若其ノ期日內ニ之ヲ差出ササルトキハ契約ヲ結ハサルモノト認メ落札ノ決定ヲ取消ス
但シ入札保證金ハ縣廳ノ所得ニ歸セシム

第十條　契約保證金ハ特ニ其ノ金高ヲ指定スルモノノ外請負金額百分ノ十（圓位未滿ハ切上ケトス）ニ相當スル現金ヲ以テ納付スヘシ但シ請負金額千圓以上ノモノハ國債證書又ハ日本勸業銀行發行勸業債券若ハ株式會社神奈川縣農工銀行發行農工債券ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得尤國庫ニ屬スル工事ニ在リテハ農工債券ヲ以テ代用スルコトヲ得ス
國債證書又ハ勸業債券若ハ農工債券ヲ以テ契約保證金ニ代用スル場合ニ於テハ額面ノ都合ニ依リ規定ノ金額ヲ超過スルコトヲ得
國債證書ノ價格ハ日本銀行擔保價格ニ依ルモノトシ勸業債券農工債券ノ價格ハ各券面金額十分ノ八トス

第十一條　契約保證金ハ縣廳之ヲ領置シ請負人ニ於テ工事竣功ノ證明ヲ得タルトキハ工費ノ請求ト俱ニ保證金ノ下戻ヲ請求スヘシ其ノ竣功後保證期限ヲ附シタルモノハ期限滿了ノ後其ノ下戻ヲ請求スヘシ
縣廳ニ於テ請負人其ノ保證義務ヲ履行シタリト認メタルトキハ保證金ヲ還付スルモノトス

第十二條　工事ハ契約書ニ記載スル期日以內ニ著手シ相當工程ノ度ニ應シ進行セシムヘシ請負人其ノ著手ヲ怠リ又ハ著手後進行緩慢ニシテ豫定ノ期間ニ竣功シ能ハサルモノト縣廳ニ於テ認ムルトキハ其ノ契約ヲ解除スルコトアルヘレ

第十三條　工事ハ請負人自ラ擔當シ賣買若ハ讓渡ヲ爲スヘカラス
工事中ハ請負人若ハ其ノ代理人ハ常ニ工場ニ出張シ相當ノ取締ヲ爲スヘシ但シ代理人ヲ置クトキハ豫メ其ノ氏名ヲ縣廳ニ屆出ヘシ

第十四條　請負人ニシテ工事ニ使用スル材料物件ヲ工場ニ持込ムトキハ工事監督主任ノ檢閱ヲ受クヘシ檢閱ヲ受ケサル材料物件ハ一切使用スルコトヲ得ス

第十五條　工事施行中請負人ニ於テ設計ノ變更補足削除ノ必要アリト思惟スルトキハ其ノ事由ヲ縣廳ニ申出ルコトヲ得
但シ之カ採否ハ縣廳ノ決スル所ニ依ルヘシ

第十六條　工事施行中縣廳ニ於テ設計又ハ仕譯書中ニ變更ヲ要スルトキ又ハ其ノ不備ヲ發見スルトキハ何時ニテモ請負人ニ通知シ之ヲ加除變更スルコトヲ得ヘシ

第十七條　第十五條第十六條ニ依リ設計若ハ仕譯書ノ加除變更ヲ爲ストキハ別ニ其ノ部分ニ對スル設計書仕譯書ヲ調製シ本契約ノ附屬トス但シ之ニ關スル代價ハ前仕譯書ノ價格ヲ標準トシテ算出シ請負金額ヨリ增減スルモノトス
前項ノ場合ニ於テ同工事施行期限ヲ伸縮スルハ縣廳ノ指示スル所ニ依ルヘシ

第十八條　工事ノ一部若ハ全部竣功シタルトキハ請負人ヨリ竣功屆書ヲ縣廳ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ檢査係員ヲシテ三日以內ニ竣功檢査ヲ行ハシム檢査係員ニ於テ其ノ成蹟適合ナリト認ムルトキハ證明書ヲ附與スルモノトス

第十九條　工事ノ竣功檢査ニ於テ其ノ成蹟不適合ト認ムルトキハ請負契約ヲ解除スルカ又ハ特ニ日限ヲ指定シテ之カ改修ヲ爲サシム但シ其ノ費用ハ請負人ノ負擔トス
前項改修工事竣功檢査ニ於テ其ノ成蹟尙不適合ト認ムルトキハ直チニ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第二十條　工事中天災其ノ他抗拒スヘカラサル事故ニ依リ請負人ニ於テ工事施行期間又ハ改修期間內ニ竣功スル能ハスト思惟スルトキハ事故經過後三日以內ニ限リ其ノ事故ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ延期ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ申請アリタルトキハ縣廳ハ其ノ事實ヲ審査シ已ヲ得サルモノト認ムルトキニ限リ工事施行期限又ハ改修期限ヲ延長スルコトアルヘシ

第二十一條　工事施行期間又ハ改修期間ニ工事ヲ竣功セサルトキ縣廳ハ其ノ契約ヲ解除セサル場合ニ限リ延滯日數一日ニ付請負金額二百分ノ一ニ相當スル金額ヲ過怠金トシテ請負人ヨリ徵收スルモノトス
前項過怠金額ハ工事ニ依リ增減スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ都度之ヲ公示ス

第二十二條　第十二條第十九條ニ依リ請負契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ工事既濟ノ部分及ヒ現工場ニ持込ミタル材料物件ハ既ニ交付シタル內渡金ノ外無償ニテ總テ縣廳ノ所得ニ歸セシム

第二十三條　工事中天災其ノ他抗拒スヘカラサル事故又ハ都合ニ依リ縣廳ニ於テ工事ノ停止若ハ廢止ノ必要ヲ生スルトキハ何時ニテモ之ヲ請負人ニ通知シテ停止若ハ廢止スルコトアルヘシ但シ停止九十日以上ニ及フトキハ請負人ハ契約ノ解除ヲ求ムルコトヲ得

前項但書ニ依リ請負人ヨリ解約ノ請求アリタルトキ又ハ工事廢止ノ場合ニ於テハ契約ヲ解除シ縣廳ハ工事既濟部分及現工場ニ持込ミ檢査ヲ經タル材料物件ハ檢査係員調査ノ上相當金額ヲ仕拂フヘシト雖其ノ他ニ如何ナル損失アルモ辨償ノ責ニ任セサルモノトス

工事中縣廳ハ公益事業其他ノ事故ニ依リ一時工事ノ幾部若クハ全部ノ進行ヲ制限スヘキ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ請負人ニ通知シテ之ヲ制限スルコトアルヘシ

前項ノ制限ニ依リ縣廳ハ工事施行期間又ハ改修期間ニ竣功スル能ハスト認ムルトキハ相當ノ延期ヲ與フヘシ

本條第一項工事停止第三項工事ノ進行制限ニ依リ請負人ニ損害アルモ縣廳ハ辨償ノ責ニ任セス

第二十四條　請負金額ハ工事全部竣功後請負人ノ請求書ニ依リ縣廳之ヲ支拂フモノトス但シ請負金額五百圓以上ニ限リ工事中ト雖既濟部分ニ對シ其ノ金額五分ノ四ヲ限度トシ左ノ區別又ハ契約書ニ定ムル處ニ依リ內渡ヲ爲スコトアルヘシ

請負高金五百圓以上千圓未滿　一回

同　金千圓以上五千圓未滿　二回以下

同　金五千圓以上　三回以下

工費請求書ニハ總テ檢査係員ノ附與セル證明書ヲ添附シテ差出スヘシ

第二十五條　第十二條第十九條ニ依リ契約解除ノトキ及第二十七條ノ修理ヲ怠リタルトキハ契約保證金ヲ縣廳ノ所得ニ歸セシム

前項ノ場合ニ於テ契約保證金ノ代用トシテ國債證書又ハ勸業債券若ハ農工債券ヲ縣廳ニ領置セルトキハ縣廳ハ之ヲ賣却シ契約保證金ノ金額ニ相當スル金額ヲ縣廳ノ所得トシ且ツ其ノ賣却費用ヲ控除シ尙剩餘アレハ請負人ニ還附ス若其ノ賣却價額ニシテ契約保證金及其ノ賣却ニ要シタル費用ノ額ニ達セサルトキハ其ノ不足額ハ請負人ヨリ追徵スルモノトス

第二十六條　工事ノ全部竣功證明書附與前ニ於ケル損害ハ總テ請負人ノ負擔トス其ノ不可抗力ノ事變ニ原因シタルモノ亦同シ

第二十七條　請負人ハ工事ノ全部竣功シ證明書ヲ受ケタル日ヨリ起算シ契約書ニ記載スル保證期間其ノ完全ナルヲ保證スルノ義務ヲ有ス若其ノ期間內ニ於テ縣廳ノ確認スル天災其ノ他抗拒スヘカラサル事故アルニ非スシテ破損ヲ生スルトキハ請負人ハ自費ヲ以テ之ヲ復舊修理スルノ責アルモノトス但シ復舊修理ノ期限ハ縣廳之ヲ指定ス

第二十八條　縣廳及檢査係員ノ認定ニ對シテハ請負人ハ異議ヲ唱フコトヲ得ス

第二十九條　特種ノ工事ニシテ特別ノ條件ヲ要スルトキ又ハ簡易ナル工事ニ對シ縣廳ニ於テ本規程ノ條項ニ增補刪除ヲ加ヘムトスルトキハ之ヲ契約書ニ記入スルモノトス

第三十條　隨意請負契約ニ付テモ本規程ヲ適用スルコトアルヘシ

●郡部地方稅補助ニ係ル土木事業執行手續

（明治二十七年三月三十日訓令第二十七號）

（沿革）明治四〇年四月訓令第二七號改正

郡役所　市役所

郡部地方稅補助ニ係ル土木事業執行手續左ノ通之ヲ定ム

郡部地方稅補助ニ係ル土木事業執行手續

第一條　道路橋梁治水堤防工事ニシテ（地方稅）ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ概算書及設計書ニ其起工理由書ヲ添ヘ前年六月三十日限リ縣廳ヘ具申スヘシ

臨時急破ノ修繕ニ對シテハ其時々前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條　前條第一項ノ具申ニ對シ縣廳ニ於テ補助ヲ與フヘキ工事ノ箇所ヲ指定シタルトキハ治水堤防工事ニ就テハ三月五日限リ道路橋梁工事ニ就テハ四月五日限リ水利土功會又ハ市町村會ノ議定シタル豫算額ニ內譯書及設計書ヲ添ヘ補助費下附ノ具申ヲ爲スヘシ

前條第二項ノ具申ニ對シ縣廳ニ於テ工事ノ箇所ヲ指定シタルトキハ該豫算書ハ十日以內ニ前項ノ手續ヲ爲ス可シ

豫算中緊急ナラスト認ムル工事又ハ價格不相當ト認ムルモノハ縣廳ニ於テ取捨減額シテ補助金額ヲ定ムルコトアルヘシ

第三條　地種目ノ變更ヲ要スル工事ハ其變更願（分裂スヘキモノハ斜詰圖面一筆限リ取調）書ノ添付ヲ要ス

第四條　前條豫算書ト共ニ差出スヘシ補助金下附ノ指令ヲ得タルトキハ指令到達ノ翌日ヨリ起算シ治水堤防工事ハ十五日以內道路橋梁工事ハ二ケ月以內（年度開始前指令ヲ得タルモノハ治水堤防工事ハ年度開始後十五日道路橋梁ハ二ケ月以內）ニ工事請負者ヲ定メ其契約書工費內譯書及入札書類ノ寫ヲ添ヘ（書類ノ寫ニハ渾テ管理者ノ證明ヲ要ス）該契約締結後五日以內ニ縣廳ニ差出スヘシ但シ本文日限內ニ請負契約ヲ爲シ能ハサルモノハ其事由ヲ詳記シ豫メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　請負金額ノ工費豫算ニ對シ減少シタルトキハ其割合ニ應シ補助金額ヲ減少スルモノトス

第六條　工事ノ請負ヲ定ムルハ左ノ方法ニ依ル

一　廉見積リ金額五百圓以上ノモノハ新聞紙及本縣公報竝掲示ヲ以テ廣告シ入札ニ附スヘキモノトス

二　一廉見積金額五百圓未滿貳百五拾圓以上ノモノハ本縣公報及掲示ヲ以テ廣告シ仍當業者ニ通知シ入札ニ附スヘキモノトス

三 一廉見積金額貳百五拾圓未滿ノモノハ便宜ノ方法ニ依ルモノトス

四 入札ニ附スヘキ事業ニシテ其手續ヲ履行シ難キモノハ事由ヲ具シ豫メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 前條ニ於テ一廉ト稱スルハ同一費目ニシテ一大字又ハ數大字ニ連亙スル工事ヲ云フ

第八條 管理者ハ道路橋梁及治水堤防工事ニ就テ高低幅員ノ伸縮又ハ位置物質ノ變更ヲ要スルトキハ豫メ知事ノ認可ヲ受クヘシ但シ治水堤防工事ニシテ急施ヲ要スルモノハ出張技術官ノ同意ヲ得テ直チニ施工スルコトヲ得

地種目ヲ變更セサル道路橋梁工事又ハ治水堤防工事ノ前後取付ケニ伸縮ヲ要スル場合ニ限リ其仕樣ヲ變更セムトスルモノハ前項ノ限ニ在ラス

第九條 工事完了前ニ於テ左ノ制限ニ依リ既成部分ニ對スル五分ノ四以內ノ工費ニ限リ補助費ノ內渡ヲ請求スルコトヲ得但シ市町村費ノ支出ヲ了シタル上ニアラサレハ請求スルコトヲ得ス

一 一廉百圓以上五百圓未滿ハ 一回
二 一廉五百圓以上千圓未滿ハ 二回
三 一廉千圓以上五千圓未滿ハ 三回
四 一廉五千圓以上 四回

第十條 〔地方稅〕補助費ノ請求書ハ各費目每ニ各々一通ヲ調製シ一廉每ニ豫算金額ヲ朱ニテ傍記シタル決算帳ヲ添附シテ差出スヘシ但シ內渡金請求ノ場合ニハ出來形步合取調書ヲ添付スヘシ

第十一條 市町村長管理ニ屬スル補助費ノ請求書ニハ收入役何ノ某渡ト記入スヘシ但シ町村長ニ於テ收入役ノ事務ヲ兼掌セルモノハ請求書中ニ其旨ヲ附記スヘシ

第十二條 〔地方稅〕補助費ハ知事ノ許可ヲ受ケタル豫算金額ヨリ超過スルコトヲ得ス

第十三條 工事ハ會計年度內ニ竣功スヘキモノトス但シ繼續事業ニ係ルモノハ每年度ニ於テ打切精算ヲ立ツヘシ

第十四條 每年度〔地方稅〕ノ補助費下渡ヲ請求スルハ翌年度四月十日限リトス

第十五條 郡長ハ時々工事ノ實況ヲ視察シ又竣功ノ上ハ其出來形ヲ檢査スヘシ

第十六條 工事ト目論見書ト差違アリ又ハ工事不完全ノ廉アリト認ムルトキハ郡長ハ仕立替若クハ手直シ等ヲ命スヘシ

第十七條 此ノ手續ニ依リ町村長ヨリ差出ス書類ハ總テ郡役所ヲ經由セシメ郡長審査シテ意見ヲ具申スヘシ

第十八條 此ノ手續ヲ履行セサルトキハ〔地方稅〕補助ノ指令ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減殺スルコトアルヘシ

附則

第十九條 本手續ハ明治二十七年度ヨリ施行ス

明治二十四年五月訓令甲第五十一號及同年九月訓令甲第七十七號ヲ廢止ス

●工事監督及檢査規程

（大正三年五月十三日）
（廳訓第八號）
內務部土木課 土木派出所

工事監督及檢査規程左ノ通定ム

工事監督及檢査規程

第一章 總則

第一條 縣費支辨ニ屬スル土木及建築工事ノ監督竝檢査ハ本規程ニ依ルヘシ

第二條 本規程ニ於テ主任ト稱スルハ土木派出所ニ在リテハ派出所主任內務部土木課ニ在リテハ技師及工師ヲ謂フ

第三條 專ラ現場監督ヲ擔當シタル者ハ其ノ工事ノ竣功檢査ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ隨時若ハ臨時ニ他ノ官吏、吏員ヲ派遣シテ工事ヲ監督セシメ又ハ監督檢査ニ關スル適否ヲ監察セシムルコトアルヘシ

第五條 公共團體又ハ私人ニ於テ執行スル工事ノ監督及檢査ニ關シテモ本規程ヲ準用ス

第二章 監督

第六條 工事ハ第一次ニ現場監督員第二次ニ主任之ヲ監督ス但シ主任ハ現場監督ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條 主任ハ豫メ施業方法又ハ緩急順序ヲ現場監督員ニ指示シ苟モ監督上遺算ナキコトヲ期スヘシ

第八條 現場監督員ハ主任ノ指揮ヲ受ケ既定ノ設計書、圖面及實地竝法規ニ就キ精密對照ノ上施行ノ適否ヲ嚴正ニ監視シ事業ノ進捗ヲ督勵スヘシ

第九條 現場監督ノ爲施工地ニ駐在ヲ命シタル場合ハ其ノ任務ニ就キタル日ヨリ三日以內ニ宿所ヲ屆出ツヘシ

第十條 現場監督員ノ服務時間ハ日出ヨリ日沒迄トス但シ工事ノ緩急又ハ事務ノ繁閑ニ依リ適宜之カ斟酌ヲ爲スコトヲ得

第十一條 施工地ニ駐在ヲ命セラレタル現場監督員ハ就業時間中ハ勿論其ノ時間外ト雖許可ヲ受クルニアラサレハ駐在地外ニ出ツルコトヲ得ス

第十二條 工事ノ性質又ハ工程ノ進捗ニ依リ主任ニ於テ日々現場ニ詰切リ監督ヲ爲サシムルノ必要ナシト認メタルトキハ定時若ハ隨時ニ現場監督ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 現場監督員ハ設計書、圖面及監督日誌其ノ他監督上必要ノ器械器具ヲ携帶スヘシ

前項ノ監督日誌ニハ日々ノ天候寒暖就業職工人夫ノ人員數其ノ他工事監督上ニ關スル必要ノ事項ヲ可成詳細ニ記入スヘシ

第十四條 工事施行中現場監督員更迭シタルトキハ現場ニ就キ監督日誌ヲ以テ事務ノ引繼ヲ爲スモノトス

第十五條 現場監督員ハ每月十五日及盡日ノ兩度第一號書式ニ依リ工程報告書ヲ作製シ主任ニ提出スヘシ

第十六條 工事ハ丁張其ノ他施工ノ準備ヲ爲サシメタル上ニアラサレハ著手セシムヘカラス

工事用材料ハ使用又ハ作事以前其ノ品質、寸法、重量若ハ員數等ヲ嚴重ニ調査シ苟モ違フモノハ採用スヘカラス

第十七條 工事用材料ハ使用ノ都度請負人ヲシテ物件納入帳ニ記入セシメ時々點檢ノ上認印スヘシ

縣ヨリ材料ヲ交付スル場合ハ其ノ授受ヲ明確ナラシムルコトヲ要ス

第十八條 現場監督員ニシテ施工地ニ駐在スル者ハ日々ノ成績ヲ監査シ翌日ニ於ケル作業ノ方法順序ニ付豫メ相當指示ヲ與フヘキモノトス

第十九條 左ノ場合ハ事由ヲ詳具シテ主任ノ指揮ヲ受クヘシ

一、設計ノ變更ヲ要スルトキ

二、天災地變又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ工事ニ異狀ヲ來シ又ハ其ノ進行ヲ阻害セラレタルトキ

三、期限內ニ竣功ノ見込ナキトキ

四、契約ノ解除又ハ工事ノ中止ヲ要スルトキ

前項第一號ニ依リ設計變更ノ指揮ヲ受ケタルトキハ變更設計書ヲ調製シ其ノ理由書及圖面ヲ添付シテ進達スヘシ

第二十條 工事竣功延期願ヲ受理シタルトキハ其ノ延期ヲ要スル事實原因及日數ヲ調査シ意見書ヲ添付スヘシ

第二十一條 既成部分ニ對スル工費ノ內渡金請求書ヲ受理シタルトキハ內譯書及現場ヲ調査シ第二號書式ノ調書ヲ添付シ進達スヘシ

第二十二條 工事施行上ニ關シ受負人又ハ其ノ他ノ者ヨリ提出スル一切ノ願屆書ハ現場監督員ニ於テ事實ヲ調査シ意見アルモノハ其ノ意見ヲ付記スヘシ

第二十三條 工事竣功シタルトキハ請負人ヨリ竣功屆ヲ差出サシメ第三號書式ノ調書ヲ添付シテ檢査ヲ要求スヘシ

第三章 檢査

第二十四條 檢査ハ之ヲ別テ材料檢査、竣功檢査トス

材料檢査ハ物品供給請負ノ場合ニ之ヲ行フモノトス

第二十五條 材料檢査及竣功檢査ハ主任又ハ特ニ命ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十六條 檢査ニ合格セシ材料ハ可成檢印ヲ捺シ一定ノ場所ニ堆積セシメ不合格又ハ檢査未濟ノモノト混同セシムヘカラス

不合格ノ材料ハ直ニ他ヘ搬出セシムヘシ

第二十七條 竣功檢査ニハ現場監督員及請負人ヲ立會ハシメ設計書圖面等ニ對照シ精密檢査ヲ遂ケ遲滯ナク其ノ成績ヲ上申スヘシ

第二十八條 工事ノ成績適當ナラスト認ムルトキハ檢査員ハ時日ヲ指定シテ更正ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ更正ヲ命シタル場合若ハ契約ノ解除ヲ必要ト認メタルトキハ其ノ事由及要旨ヲ第二十七條ノ成績上申ニ附記スヘシ

附則

本規程ハ發令ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

第 回工程報告

一何地何々工事　監督員 官 氏 名 ㊞

工程　自 年 月 日　至 年 月 日

種別	分通	摘要
土工ノ部		
木材ノ部		
何々ノ部		

記事

一、本期中職工人夫ノ就業數

一、晴雨日數

一、工事進捗ノ概況

以上

第二號書式

工事出來形査定書

請負人 氏 名

一何地何々工事

一請負高金

一出來形金

右何年何月何日ノ出來形ニ相違無之候也

年 月 日　監督員 官 氏 名 ㊞

第三號書式

工事竣功調書

一何地何々工事

契約締結年月日

工事施行期間

工事竣功月日

右設計書及圖面ノ通竣功相違無之候也

年 月 日　監督員 官 氏 名 ㊞

備考　工事ノ中止又ハ延期シタル場合アリタルトキハ工事施行期間ノ次ニ其ノ日數ヲ朱記スヘシ

第三章 土地、水面、治水

●官有地拂下、讓與、交換規程

（大正三年五月十二日 縣令第三十六號）

官有地拂下、讓與、交換規程左ノ通定ム

官有地拂下、讓與、交換規程

第一條 官ニ屬スル私有土地水面ヲ隨意ノ契約ヲ以テ拂下ヲ

爲シ又ハ讓與、交換セントスルトキハ本規程ニ依ルヘシ

第二條　土地面積ノ算定方法ハ凡テ三斜法ニ依ル

土地ノ實測單位ハ村落ニ在テハ歩位ニ市街地ニ在テハ之ヲ坪以下勺位ニ止ムルモノトス

第三條　地上ニ在ル竹木ノ類ハ之ヲ土地ノ從物ト看做ス但シ其ノ種類數量及價額ヲ明記スヘシ立木ハ目通廻ヲ寸位ニ長サヲ尺位ニ止メ竹ハ本數又ハ束數ニ依ルヘシ

第四條　土地ノ拂下、讓與、交換ヲ請ハントスル者ハ書式第一號乃至第三號ニ依リ知事ニ出願スヘシ

第五條　出願者ハ願書提出ノ日ヨリ十日以内ニ出願地ノ四圍ニ境界標ヲ建設スヘシ但シ地形上境界ノ判明シ居ルモノニ在テハ此ノ限ニアラス

第六條　知事ハ土地ノ拂下、讓與、交換ヲ許可スルニ當リ條件ヲ附スルコトアルヘシ許可ヲ受ケタル者ハ之ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第七條　土地及立竹木ノ拂下代金及交換地ノ價格比準ハ知事之ヲ査定スヘシ

第八條　拂下ノ許可ヲ受ケタル者ハ納入告知書指定ノ日限内ニ拂下代金ヲ納付シ納付ノ日ヨリ十日以内ニ法定ノ登錄税ヲ添附シテ所有權移轉登記ヲ請求スヘシ

第九條　讓與又ハ交換ノ許可ヲ受ケタル者ハ指令書到達ノ日ヨリ十日以内ニ法定ノ登錄税ヲ添附シテ所有權移轉登記ヲ請求スヘシ

第十條　特定ノ目的ニ依リ土地ノ拂下、讓與、交換ヲ許可シタル場合ハ更ニ知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ土地ヲ當初ノ目的以外ニ利用シ又ハ之ヲ他ニ讓渡スコトヲ得ス

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一、納入告知書指定ノ日限内ニ拂下代金ヲ納付セサルトキ

二、規定ノ日限内ニ所有權移轉登記ヲ請求セサルトキ

三、許可ニ附シタル條件ニ對シ異議ヲ申立ツルトキ

四、第十條ノ規定ニ違背シタルトキ

第十二條　土地ノ引渡ヲ爲サヽルモノハ所有權移轉登記濟ノ日ヲ以テ其ノ土地ヲ引渡シタルモノト看做ス

第十三條　第十一條ニ依リ許可ヲ取消シ又ハ土地引渡後ニ於テ其ノ面積ニ減歩アルコトヲ發見スルモ之ニ對スル地代金ノ還付若ハ之ニ依リテ生スル損害ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條　本規程ニ依リ提出スル願届書ハ總テ地元市役所又ハ町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ

第十五條　郡市町村其ノ他公共團體ノ出願ニ付テハ願書ニ關係議會ノ決議書謄本ヲ添附スヘシ

附　則

本規程ハ大正三年五月二十日ヨリ施行ス

第一號樣式

官有地荒蕪地（何々）拂下願

何郡（市）何町（村）大字何小字何何番

一、官有荒蕪地（何々）反別何程

此ノ實測反別何程　但シ壹反歩ニ付金何程

右何々（目的ヲ記入スヘシ）ノ爲書面ノ代金ヲ以テ拂受度大正三年五縣令第三十六號ニ依リ別紙圖面相添此段出願候也

年　月　日　住所　氏名　印

知事宛

注意

一、地番ナキ土地ハ何番地先ト記入スヘシ

一、圖面ハ平面圖及求積圖トス但シ平面圖ヲ以テ求積圖ヲ兼ヌルコトヲ得

一、平面圖ニハ出願地附近ノ形狀及方位ヲ記入シ求積圖ニハ三斜法ニ依リ間數及面積ヲ記入スヘシ

一、拂下願書ハ正副貳通ヲ提出スヘシ但シ副本ニハ圖面ノ添付ヲ要セス

第二號書式

官有荒蕪地（何々）讓與願（申請）

何郡（市）何町（村）大字何小字何何番

一、官有荒蕪地（何々）反別何程

此ノ實測反別何程

右何々（原因詳記）ノ爲公用廢止（又ハ讓受ノ目的）ニ付官有財産管理規則第十三條（又ハ何々適用ノ法令條項ヲ記入）及大正三年五縣令第三十六號ニ依リ讓與相成度別紙圖面相添此段出願（申請）候也

年　月　日　何郡何村長　氏名　印

知事宛

注意

一、第一號書式注意ノ通

第三號書式

官有荒蕪地交換願

何郡（市）何町（村）大字何小字何何番

一、官有荒蕪地（何々）反別何程　官有地第何種

此ノ實測反別何程

何郡（市）何町（村）大字何小字何何番

一、私有畑（何々）反別何程　民有地第何種

此ノ實測反別何程

右何々（交換理由詳記）ノ爲必要ニ付前書ノ土地交換許可相成度大正三年五縣令第三十六號ニ依リ別紙圖面相添此段出願候也

年　月　日　住所　氏名　印

知事宛

一、第一號書式注意ノ通

●官有地拂下豫約開墾規程

（大正三年五月十二日　縣令第三十八號）

官有地拂下豫約開墾規程左ノ通定ム

第一條　官ニ屬スル私有土地水面ノ開墾ヲ條件トシ成功ノ後之カ拂下ヲ請ハントスル者ハ本規程ニ依リ知事ニ出願スヘシ

第二條　拂下豫約開墾願ハ別記書式ニ依ル

前項ノ願書ニハ左記ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一、事業方法書

但シ本書ニハ開墾ノ順序方法及每年開墾スヘキ豫定面積竝開墾著手、成功ノ時期等ヲ記載スヘシ

二、收支豫算書

三、平面圖

但シ出願區域ヲ明ニシ之ニ每年成功スヘキ開墾豫定區域ヲ示シ且隣接地ノ形狀及方位ヲモ記載スヘシ

四、求積圖

但シ開墾豫定地ノ間數及坪數ヲ三斜法ニ依リ記載スヘシ

第三條　成功期限ハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外滿十五箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　豫約拂下代金ハ開墾許可ノ際知事之ヲ定ム

第五條　許可ヲ受ケタル後第二條ノ記載事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ更ニ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　開墾者ハ每年一月末日限前年ニ於ケル事業ノ成績ヲ知事ニ報告スヘシ

第七條　開墾期限中天災其ノ他不可抗力ニ因リ開墾地ニ異狀ヲ生シタルトキハ其ノ旨十日以內ニ知事ニ報告スヘシ其ノ之カ爲開墾ノ目的ヲ遂行スルコト能ハサルニ至リ之ヲ返還セントスルトキハ其ノ旨屆出ツヘシ

第八條　知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ開墾事業ノ成績ヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條　開墾者ハ知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ免許權ヲ擔保貸付ニ供シ又ハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

相續ニ因リテ被相續人ノ權利ヲ承繼セントスルトキハ相續人ハ相續ノ日ヨリ三十日以內ニ戶籍抄本又ハ市町村長ノ身分證明書ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十條　開墾者ハ成功期限滿了後十日以內ニ豫約代金ヲ以テ拂下ヲ知事ニ出願スヘシ

第十一條　知事ニ於テ開墾ノ全部若ハ一部カ不完全ト認ムルトキハ期限ヲ指定シテ開墾ヲ遂行セシメ又ハ其ノ區域及代金ヲ指定シテ成功部分ノ拂下ヲ爲スコトアルヘシ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ知事ハ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ必要ナル施設ヲ命スルコトアルヘシ

一、事實ヲ隱蔽シ又ハ虛構シテ許可ヲ受ケタルトキ

二、本規程又ハ許可ノ條件ニ違背シタルトキ

三、開墾成功ノ見込ナシト認ムルトキ

四、期限ニ至ルモ開墾成功セサルトキ

五、地形ノ變動其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ依リ必要ヲ生シタルトキ

六、法律命令ニ違背シタルトキ

七、公益ノ爲必要アルトキ

第十三條　第十一條及第十二條ノ處分ニ依リ開墾者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ之カ賠償ヲ請求シ又ハ之ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十四條　本規程ニ定ムルモノヽ外開墾地ノ拂下ニ關シテハ大正三年五月縣令第三十六號官有地拂下、讓與、交換規程中拂下ニ關スル事項ヲ適用ス

第十五條　本規程ニ依リ提出スル願屆書ハ總テ地元市役所又ハ町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ

第十六條　郡市町村其ノ他公共團體ノ出願ニ付テハ關係議會ノ決議書謄本ヲ添附スヘシ

附　則

第十七條　本規程ハ大正三年五月二十日ヨリ施行ス

第十八條　本規程施行前拂下豫約開墾ノ許可ヲ受ケ其ノ期限中ニ在ルモノハ本規程ニ依リ許可シタルモノト看做ス但シ許可ニ附シタル條件ハ本規程ニ依リ其ノ效力ヲ妨ケラルヽコトナシ

官有地拂下豫約開墾願

何郡（市）何町（村）大字何小字何何番地目何反別何程

一、實測反別何程

此ノ豫約拂下代金何程　但シ壹反歩ニ付金何程

右土地何々（目的ヲ記入スヘシ）ノ爲開墾致成功ノ上書面ノ代金ヲ以テ拂受度大正三年五月縣令第三十八號ニ依リ別紙圖面及附屬書類相添此段出願候也

年　月　日　　住所　氏名㊞

知事宛

●官有土地水面貸付及使用規程

（大正三年五月十二日　縣令第三十七號）

官有土地水面貸付及使用規程左ノ通定ム

第一條　官有土地水面ヲ隨意ノ契約ヲ以テ借受又ハ使用セントスル者ハ本規程ニ依リ知事ニ出願スヘシ

貸付及使用願書ハ第一號書式ニ依ル

第二條　貸付及使用期限ハ特殊ノモノヲ除ク外五箇年以內トス猶引續キ借受又ハ使用セントスル者ハ少クトモ期限滿了

ノ一箇月以前第二號書式ニ依リ出願スヘシ

第三條　本規程ニ依リ與ヘタル許可ニ因リテ生スル權利義務ハ知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス但シ死亡ニ因ル家督相續ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第四條　貸付又ハ使用ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ死亡シタルトキハ家督相續人ハ相續ノ日ヨリ十五日以内ニ戸籍抄本又ハ市町村長ノ身分證明書ヲ添ヘ被相續人ノ有シタル權利義務ノ承繼ヲ知事ニ届出ツヘシ

第五條　知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ知事ノ承認シタル貸付又ハ使用ノ目的ヲ變更シ若ハ其ノ設計工法ヲ更改スルコトヲ得ス

第六條　貸付又ハ使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ知事ノ指定スル日限内ニ貸付料又ハ使用料ヲ納付スヘシ

第七條　貸付及使用料金ハ知事之ヲ定ム

第八條　貸付料及使用料ハ一箇年度分ヲ其ノ年度ノ初ニ於テ徴收ス其ノ一箇年ニ滿タサルモノハ月割又ハ日割ヲ以テ即時之ヲ徴收スヘシ

第九條　貸付又ハ使用期限中ニ於テ土地水面ノ借受又ハ使用ヲ廢止シタルトキ若ハ第十三條第一項第四號乃至第六號ニ依リ許可ヲ取消シタルトキハ既納料金ハ月割ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

第十條　貸付又ハ使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ土地水面若ハ其ノ上ニ在ル物件保護ノ責ニ任スヘキモノトス

第十一條　天災其ノ他不可抗力ニ因リ土地水面若ハ其ノ上ニ在ル物件ニ異狀ヲ生シタルトキハ十日以内ニ其ノ狀況ヲ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ當初借受又ハ使用ノ目的ヲ遂行スルコト能ハサルニ至リ之ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨併テ附記スヘシ

第十二條　貸付又ハ使用期限滿了ニ至リタルトキ若ハ期限内ニ於テ其ノ貸付又ハ使用ヲ廢止シタルトキハ原形ニ復シ其ノ旨滿了又ハ廢止ノ日ヨリ五日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ知事ハ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ許可ノ條件ヲ增減變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ許可ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

一、指定ノ日限内ニ貸付料又ハ使用料ヲ納付セサルトキ

二、事實ヲ隱蔽シ又ハ虚構シテ許可ヲ受ケタルトキ

三、本規程又ハ許可ニ附シタル條件ニ違背シタルトキ

四、許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リテ必要ヲ生シタルトキ

五、法律命令ノ施行ニ必要アルトキ

六、公益ノ爲必要アルトキ

前項ノ處分ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ知事ハ之カ賠償ノ責ニ任セサルモノトス

第十四條　許可ヲ受ケタル者ニ於テ本規程又ハ許可ノ條件ニ依リテ負擔スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ知事ハ代テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第十五條　本規程又ハ許可ノ條件ニ從ヒ許可ヲ受ケタル者ノ履行スヘキ義務ノ爲ニ生スル費用及前條ノ費用ハ總テ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第十六條　二名以上共同シテ貸付又ハ使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ義務ハ連帶負擔トス

第十七條　本規程ニ依リ提出スル願届書ハ總テ地元市役所又ハ町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ

附　則

第十八條　本規程ハ大正三年五月二十日ヨリ施行ス

明治十九年五月告示第五十二號官有地貸渡規定ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十九條　本規程施行前官有土地水面ノ貸付又ハ使用ノ許可ヲ受ケ其ノ期限中ニ在ルモノハ本規程ニ依リ許可シタルモノト看做ス但シ許可ニ附シタル條件ハ本規程ニ依リ其ノ效力ヲ妨ケラルヽコトナシ

第一號書式

官有土地（水面）貸付（使用）願

何郡（市）何町（村）大字何小字何（地番アルモノハ其ノ地番）

一、何々（地目）面積何程

貸付（使用）料金御指定ノ通

貸付（使用）期間許可ノ日ヨリ滿何年間（又ハ何箇月間）

右何々（目的ヲ記入スヘシ）ノ爲借受（使用）致度大正三年五月縣令第三十七號ニ依リ別紙圖面相添此段出願候也

年　月　日　　住所　氏名　印

知事宛

注意

一、從來ヨリ地番ヲ有スル土地ハ其ノ地番ヲ小字ノ下ニ記入スヘシ又地番ナキ土地水面ハ何番地先若ハ何々地先ト割書ヲ以テ位置ヲ明示スヘシ

二、面積ハ總テ實測（三斜法）ニ依リ反別又ハ坪數ヲ記入スヘシ但シ單位ハ合ニ止メ勺ハ四捨五入トス

三、圖面ハ平面及求積圖トス平面圖ニハ出願地附近ノ狀形及方位ヲ記入シ求積圖ニハ間數及坪數ヲ記載スルモノトス

四、工作物ヲ設置スルモノニ在テハ其ノ構造ヲ知リ得ヘキ圖面竝設計書ヲ添附スベシ

第二號書式

官有土地（水面）貸付（使用）繼續願

何郡（市）何町（村）大字何小字何（地番アルモノハ其ノ地番）

一、何々（地目）面積何程

貸付（使用）料金

貸付（使用）期間自何年何月至何年何月滿何箇年間

右何々（目的ヲ記入スヘシ）ノ爲來ル何年何月迄貸付（使用）許可相受居候處猶引續キ借受（使用）仕度候間御許可相成度此段

出願候也

年 月 日　　住所　氏　名 印

知事宛

●官有土地水面拂下借用出願ニ係ル開申方

（明治二十三年十一月二十四日訓令甲第三十四號）

地所賣買價額（貸地料）取調表

賣買貸借年月日	郡市	町村名	字	番號	地目	反別	賣買價貸地料年額	一反歩ノ價

（沿革）明治二四年訓令甲第七五號改正

郡役所　市役所

官有土地水面ノ拂下又ハ借用之義願出ル者アルトキハ其地價若クハ貸渡料ノ當否ヲ調査シ意見開申スヘシ期限ニ至リ繼續シテ借用願出ル場合ニ於テモ亦同シ

但近傍類地賣買及ヒ貸借上ノ實例ヲ別表ニ準シ取調意見書ニ添付スヘシ

地所貸借上ノ契約ナキ場所ハ普通一ケ年小作入付米金（小作米ハ時價ノ相場）ヲ以テ代金ニ換フ）ヲ掲ケ本表ヲ折裏シテ調製スヘシ

次番ヨリ附記セシムヘシ

明治二十八年十二月　神奈川縣訓令第七十一號ヲ廢止ス

●官有地拂下下渡等出願ノ場合地番附記方

（明治三十三年十二月十一日訓令第四十六號）

郡役所　市役所

官有地ノ拂下又ハ下渡等ヲ出願スル場合ニ於テ新ニ地番ヲ附スルトキハ當該大字（小字毎ニ地番ノ付シアルモノハ其ノ小字）ノ終番ヲ追ヒ其ノ

●官有產物特賣規程

（大正元年十月十八日縣令第十號）

官有產物特賣規程左ノ通之ヲ定ム

官有產物特賣規程

第一條 本規程ニ於テ官有產物ト稱スルハ官有土地水面ニ屬スル土石砂利竹木其ノ他生產物ヲ謂フ

第二條 官有產物ノ特賣ヲ望ムモノハ左ノ書面ヲ地元市町村長ヲ經由シ差出スヘシ

一願書

（書式）何々拂下願

何郡市町村大字何字何何番（何地先）

何川海岸（並木敷）（其他何々）實測反別何反歩ノ區域

一砂利（何々）何程

代金何程（一坪、一切、尺締一本、一束、一貫目、一個ニ付何程）

右ハ何々（用途ヲ記載スヘシ）ノ爲メ入用ニ付大正元年十月十八日本縣々令第十號官有產物特賣規程並ニ御命令ノ條項遵守可仕候間御許可被成下度此段相願候也

大正　年　月　日

住所

願人　職業　氏　名

住所

保證人　職業　氏　名

知事宛

一圖面　採取（伐採）區域ヲ三斜法ニ依リ調製シ及附近ノ形狀ヲ現シタルモノ但シ縮尺ハ千二百分ノ一トス

一採取（伐採）方法書　施業複雜ナルモノニ限ル

第三條 官有產物特賣許可ノ指令ヲ受領スル者ハ地元市町村長備付ノ帳簿ニ捺印シ受領ノ手續ヲ爲スヘシ

但シ知事ニ於テ必要アリト認メタルトキハ指令交付ノ翌日ヨリ起算シ三日以內ニ請書ヲ徵スルコトアルヘシ

第四條 拂受人ハ納入告知書ニ指定スル期限內ニ代金ヲ納入スヘシ

第五條 拂受人ニ於テ代金ヲ納入シタルトキハ三日以內ニ該受領證ヲ添付シ所轄土木派出所ニ届出テ物件受領ノ手續ヲ爲スヘシ

年期拂下ニ係ルモノハ特ニ命シタル採取（伐採）時期ニ於テ前項ノ手續ヲ爲シ採取（伐採）ニ從事スヘシ

第六條 拂受人ハ拂受物件受領手續前左ノ事項ヲ具備セル書面ヲ作成シ所轄土木派出所ニ届出ツヘシ

一採取（伐採）地

一採取（伐採）物ノ種類

一許可年月日

一數量

一採取（伐採）期間又ハ期日

一車體船體等ノ數

一住所氏名

一採取（伐採）夫運搬夫ノ氏名

一圖面但シ許可區域ヲ明示シタルモノ

第七條 拂受物件所在區域ハ公衆ノ認知シ易キ場所ニ標柱ヲ建設シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一地名地番

一拂受物件名
一數量
一深巾
一許可年月日
一採取(伐採)期限
一住所氏名

第八條　拂受人ハ拂受物件ノ採取(伐採)權ヲ擔保又ハ貸付ニ供シ若ハ他人ニ移轉スルコトヲ得ス

第九條　拂受人ニ於テ第五條ニ依リ物件受領後物件引取以前ニ天災其ノ他抗拒スヘカラサル事故ノ爲物件ヲ亡失シタルトキハ其ノ旨知事ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前ニ許可ヲ與ヘタル事項ノ增減變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　拂受人ニ於テ物件引渡ヲ受ケタル後天災其ノ他抗拒スヘカラサル障碍ニ遭ヒ命令期限內ニ搬出シ能ハサルトキハ事故ノ止ミタル後三日以內ニ其ノ事由ヲ具シ延期ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　拂受人拂受物件ヲ採取(伐採)中地形ニ變更ヲ來シ地盤ニ破損ヲ生シ又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ期限ヲ指定シ復舊、修補又ハ豫防ニ必要ナル設備ヲ命スルコトアルヘシ

拂受人ニ於テ指定ノ期限內ニ前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ知事代テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ハ凡テ拂受人ヲシテ負擔セシムルコトアルヘシ

第十二條　立竹木生草等拂受ノ場合ニ於テハ其ノ株根等ヲ掘穿スヘカラス

但シ特ニ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　砂利採掘ノ許可ヲ受ケタル者ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ蒸汽機械ヲ使用スルコトヲ得ス

第十四條　拂受許可ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ具備セル證票ヲ携帶シ採取(伐採)ニ從事スヘシ

但シ採取(伐採)夫運搬夫ヲ使用スル場合ハ作業當事者ノ住所氏名ヲ記載スルノ外拂受人ノ住所氏名認印ヲ押捺セル證票ヲ各自ニ携帶セシメ物件ヲ使用スル場合ハ車體又ハ船體等視易キ場所ニ證票ヲ打付ケ使用スヘシ

證票雛形(表)

土石砂利……拂受人
住所
何
某
運搬(伐採)夫
住所
何
某

(裏)

一拂受地名地番(又ハ何々地先)
一深巾(數量)
一許可年月日
一期限

凡テ指令書ニ依リ記載スヘシ

第十五條　拂受人ハ物件採取(伐採)中左記樣式ニ依リ帳簿ヲ作成シ每日採取(伐採)シタル事項ヲ記載シ時々本廳員ノ檢閱ニ供スヘシ

帳簿雛形

年月日	採取(伐採)區域	數量	使用人夫船車等ノ數	摘要

第十六條　拂受區域內ニ在ル官ニ屬スル建設物竹木等ヲ毀損枯死セシメ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ官ニ損害ヲ與ヘタルトキハ拂受人ヲシテ相當ノ辨償ヲ爲サシムヘシ

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消シ又ハ相當ノ辨償ヲ爲サシムルコトアルヘシ

一　第三條但書ノ場合請書ヲ差出ササルトキ
二　第五條竝第六條ノ屆出ヲ爲サス採取(伐採)ニ著手シタルトキ
三　第七條ノ標柱建設ヲ怠リタルトキ
四　指定ノ期日內ニ代金ヲ完納セサルトキ
五　第八條竝第十二條乃至第十五條第二十三條ニ違背シタルトキ
六　本規程ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキ
七　法律命令ノ結果ニ依ルトキ
八　公益上其ノ他知事ニ於テ必要ト認ムルトキ

第十八條　拂受人ニ於テ自己ノ都合ニヨリ採取(伐採)ヲ廢止又ハ中止シタルトキ又ハ第十七條一號乃至三號五號乃至八號ノ處分ニ依リ許可ヲ取消シタルトキハ既納ノ料金ハ之ヲ還付セス

第十九條　拂受期限滿了シ採取(伐採)ヲ止メタルトキハ三日以內ニ知事ニ屆出テ檢査ヲ受クヘシ但シ檢査ノ結果公益上必要アリト認ムル場合ハ復舊修補掃除等相當ノ施業ヲ命スルコトアルヘシ

拂受人又ハ保證人ニ於テ指定期日內ニ前項但書ノ義務ヲ履行セサルトキハ知事代テ之ヲ施行シ又ハ第三者ヲシテ施行セシメ其ノ費用ハ拂受人ヲシテ負擔セシムルコトアルヘシ

第二十條 本規程ニ依リ出願スル者ハ出願地市町村内ニ於テ公民權ヲ有スル者ヲ保證人ニ立ツヘシ

第二十一條 保證人ノ資格ハ市町村長ノ證明ヲ要ス

第二十二條 拂受人ニ於テ本規程ノ義務ヲ履行セサルトキハ凡テ保證人ニ於テ履行ノ責ニ任スヘキモノトス

第二十三條 保證人死亡若ハ本規程ノ資格ヲ失ヒタルトキハ三日以内ニ相當ノ保證人ヲ立テ市町村長ノ證明ヲ受ケ屆出ツヘシ

附 則

第二十四條 本規程施行前官有產物ノ特賣許可ヲ受ケ現ニ其ノ期間ノ存續中ニ在ルモノハ本規程ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十五條 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●土地買收及整理規程

（大正三年五月二十日 訓令第九號）

內務部

土地買收及整理規程左ノ通定ム

土地買收及整理規程

第一條 縣經濟ニ屬スル土木事業用地ノ買收及地上物件ノ補償竝其ノ整理ハ本規程ノ定ムル處ニ依ル

第二條 土地物件ノ調査ハ成ルヘク所屬市町村吏員及其ノ所有者又ハ代理人ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

土地收用法ノ規程ニ依リ立入測量又ハ檢査ヲ必要ト認メタルトキハ其ノ手續ヲ履行スルコトヲ要ス

第三條 買收スヘキ土地ハ一筆毎ニ其ノ積ヲ求メ字、地番、地目及所有者ヲ土地臺帳ト照合シ第一號書式ノ調書竝圖面ヲ作製スヘシ

移轉又ハ除却スヘキ物件ハ各種別毎ニ其ノ構造、面積又ハ員數ヲ調査シ第二號書式ノ調書ヲ作製スヘシ

第四條 事業用地中ニ於テ左ニ揭クル土地アルトキハ第三號書式ニ依リ別ニ調書及圖面ヲ作製スヘシ

一、御料地
二、國有地、縣有地
三、現ニ公用ニ供スル土地
四、社寺境內地
五、保安林
六、陸地測量標敷地
七、名勝舊蹟及古墳墓其ノ他史蹟ニ關スル土地

第五條 土地買收及物件補償協議ヲ爲サントスルトキハ先ツ登記簿ニ就キ登記事項ヲ調査シ一筆毎ニ（物件ヲ除ク）第四號書式ノ土地整理票ヲ作製シ時價及四圍ノ情況ヲ斟酌シテ適當ト認ムル買收及補償ノ標準價格ヲ定メ豫算以內ニ於テ所有者及關係人ト協議スヘシ

第六條 買收又ハ補償協議ニ應シタル者ハ第一號及第二號書式ノ調書ニ協議事項ヲ記入シテ署名捺印セシメ其ノ協議ニ應セサル者若ハ協議ヲ爲スコト能ハサル者ハ其ノ事由ヲ詳細具申スヘシ

第七條 土地買收協議ノ成立シタルモノニシテ分割ヲ要スルモノニ付テハ遲滯ナク土地分割ニ必要ナル圖書ヲ作製シ之ヲ所轄稅務署ニ提出セシムヘシ

物件補償協議ノ成立シタルモノハ相當期日ヲ指定シテ之ヲ取拂ハシムルモノトス

第八條 土地分割處分濟ノ通告ヲ受ケタルトキハ土地分割其ノ他所有權移轉ニ必要ナル登記ノ申請書類ヲ作製シ所有者ヲシテ直ニ登記ヲ爲サシムヘシ

第九條 前條ノ登記ニシテ全ク完結ヲ告ケタルトキハ速ニ所有權移轉及地目變更ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第十條 登記ノ申請ニ必要ナル左ノ費用ハ縣ニ於テ支辨スルコトヲ得

一 土地分筆ニ關スル登記ノ登錄稅
二 字、地目、反別ノ更正又ハ變更ニ關スル登錄ノ登錄稅
三 其ノ他土地買收ノ爲必要ヲ生シタル登記ノ登錄稅
四 土地臺帳謄本其ノ他證明書ニ要スル手數料

第十一條 買收土地ノ登記整理ヲ命セラレタル者ハ所有者ノ委任ニ依リ登記申請書類ヲ作製シ其ノ他登記申請ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

附 則

第十二條 寄附又ハ上地ニ據ル潰地ノ整理ニ關シテモ亦本規程ヲ準用ス

第十三條 本規程ハ大正三年六月一日ヨリ施行ス

第一號書式（用紙美濃）

大正何年度何々往還道路改修（變更）用地調書

何郡（市）何町（村）大字何地內

字	地番	地目	全反別	用地反別	買收率	買收代金	所有者氏名

大正 年 月 日

官職 氏名 ㊞

以上

右土地左記ノ條件ニテ賣渡ノ義承諾仕候ニ付何時起工相成候トモ異議無之候

一、賣渡代金ハ調書表示ノ通ニテ所有權移轉登記ヲ了シタル後受領スルコト

一、所有權移轉登記ヲ了スル迄ノ公租賦課ハ總テ賣渡人ニ於テ負擔スルコト

一、土地分筆其ノ他登記ニ關スル事項ハ一切縣ニ於テ擔當スルコト

年　月　日

何郡何町(村)何々
所有者　氏　名　㊞
同　氏　名
同　氏　名
(以下同斷連署)

注意

一、本調書中買收率及買收代金ノ欄ハ買收協議ヲ爲ス迄空欄トシ置クヘシ

一、本調書ハ賣渡承諾書ヲ兼用スルモノナリト雖所有者ノ承諾ヲ求ムルニ不便ナル場合ハ之ヲ分離シテ各別ニ調製スルモ妨ケナシ

一、附屬圖面ハ稅務署備置ノ改正圖ニ基キテ調製シ其ノ土地カ買收ノ結果三筆以上ニ分裂スル場合ハ其ノ殘地ノ面積ヲモ圖面中ニ記入スヘシ

第二號書式(用紙美濃紙)

大正何年度調書　何々往還道路改修(變更)用地ニ在ル物件

何郡(市)何町(村)大字何地內

字地番	種類品目	目通廻員數又ハ面積	補償單價	補償價格	所有者

年　月　日

官職　氏　名　㊞

以上

右物件左記ノ通移轉(除却)ノ義承諾仕候也

一、指定ノ期日迄ニ移轉(除却)スルコト

二、移轉(除却)ノ補償料ハ調書表示ノ通ナルコト

三、補償料ハ取拂ヲ了シタル後受領スルコト

年　月　日

何郡何町(村)何々
所有者　氏　名　㊞
同　氏　名　㊞

注意

一、字地番ハ各物件ノ所在地ニ依リ記載スルコト

一、本調書中補償單價及價格ノ欄ハ補償協議ヲ爲ス迄空欄トシ置クヘシ

一、本調書ハ承諾書ヲ兼用スルモノナリト雖所有者ノ承諾ヲ求ムルニ不便ナル場合ハ之ヲ分離シテ各別ニ調製スルモ妨ケナシ

第三號書式(用紙半紙)

大正何年度往還道路改修(變更)特種地調

何郡(市)何町村大字何地

字地番	地目	全反別	用地反別	殘反別	所有者	備考

大正　年　月　日

官職　氏　名　㊞

注意

一、本調書ニハ第一號書式ニ準シタル圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

一、地上ニ物件アルトキハ其ノ旨備考欄ヘ記入スヘシ

第四號書式　半紙二ツ折

土地整理票

町村大字	所有者住所氏名	等級	字名地番	地目	反別	地價	買收率	買收代金	分筆前ノ土地	分筆シタル土地 買收スヘキ土地	分筆シタル土地 買收セサル土地	登記事項
					反	圓	圓	圓				

登記簿番號 冊數	登記簿番號 丁數

土地ノ沿革

●崖地取締規則

（明治三十二年八月十五日）
（縣令第六十號）

（沿革）明治四〇年一二月縣令第一〇九號改正

崖地取締規則左ノ通之ヲ定ム

崖地取締規則

第一條　崖地ノ形狀ヲ變更セムトスルトキハ其ノ變更ヲ必要トスル事由及地形ヲ詳記シタル願書ニ左ノ書類圖面ヲ添付シ當廳ニ提出シ許可ヲ請フヘシ但シ二割以上ノ勾配ヲ有スルモノ及壞崩ノ虞ナキモノニシテ土質取調書ニ其ノ事由ヲ詳記シタルモノハ六號ノ設計書ヲ要セス

一　實測平面圖　縮尺二千分ノ一以上
二　實測縱斷面圖　同縱百分ノ一　同横二千分ノ一以上
三　實測横斷面圖　同百分ノ一以上
四　土質取調書
五　防備工事著手竣工豫定期日
六　防備工事設計書

第二條　宅地內ノ崖地若ハ宅地ニ接スル崖地ニシテ現在二割以上ノ勾配ヲ有セサルモノハ其ノ所有者ニ於テ明治三十三年十二月三十一日限リ壞崩防備工事施行ノ願書ニ第一條一號乃至六號ノ圖面書類ヲ添付シ當廳ニ提出シ許可ヲ受ケ其ノ工事ヲ施行スヘシ

第三條　第二條ノ崖地ニシテ土質ニ依リ崩壞ノ虞ナキモノト縣廳ニ於テ認ムルモノハ其ノ防備工事ヲ免除ス

防備工事ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ第二條ノ期限內ニ於テ其ノ願書ニ第一條一號乃至四號ノ圖面書類ヲ添付シ當廳ニ提出シ之カ許可ヲ請フヘシ

第四條　壞崩防備工事ノ許可ヲ請タルモノニシテ天災其ノ他正當ノ事由ニ依リ豫定期日ニ著手若ハ竣工スル能ハサルトキハ事故ノ止ミタル後二十日以內ニ更ニ著手竣工ノ期日ヲ定メ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ當廳ニ提出シ施行期間變更ノ許可ヲ請フヘシ

第五條　壞崩防備工事落成ノトキハ十日以內ニ當廳ニ屆出テ檢査證ノ下附ヲ請フヘシ

第六條　此ノ規則第一條第二條ノ許可ヲ受ケサルモノ又ハ工事ヲ施行セサルモノ第四條ニ違背シタルモノハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ第五條ニ違背シタルモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第七條　此ノ規則ハ當分ノ內横濱横須賀ノ二市及久良岐橋樹三浦ノ三郡ニ限リ施行ス

●横濱區地揚規則

（明治十九年六月二十三日）
（布達甲第六十二號）

（沿革）明治三二年縣令第七三號改正

横濱區內地揚規則左之通相定メ來ル七月十日ヨリ施行ス

右布達ス

横濱區地揚規則

第一條　横濱〔區〕内ニ於テハ其地盤滿潮面ヨリ四尺以上アルニ非サレハ新ニ人ノ居住スヘキ家屋學校及ヒ集會所ヲ建築製造所等モ含蓄スルヲ得ス

第二條　從來家屋ノ建設アル土地ニシテ滿潮面四尺未滿ノ場所ニ於テハ改築ノ際必右制限以上ニ地揚ヲ爲スヘシ

但現在家屋ノ坪數二分一以下ノ建繼ハ此限ニ在ラス

第三條　此規則實施後人ノ居住セサル目的ヲ以建設シタル家屋ヲ人ノ居住スヘキ家屋ニ轉用セントスルトキ其地盤滿潮面四尺未滿ナルトキハ此制限ノ地揚ヲ爲スヘシ

第四條　地盤ノ高低ヲ測定スルノ基點ハ縣廳ニ於テ建設シタル高低標ニ據ルヘシ

第五條　地揚ヲ爲シタルトキハ家屋築造前縣廳ヘ届出檢査ヲ受クヘシ

第六條　此制限ニ背キ築造シ又ハ轉用シタル家屋ハ人ノ居住ニ供用スルヲ禁ス

附　則

第七條　本規則ハ山下町ニ限リ之ヲ施行セス

●地揚規則施行區域

●明治十九年七月二十七日縣令第一號

（沿革）明治四〇年四月縣令第五三號改正

本年甲第六十二號布達ハ本年八月十五日ヨリ左ノ町村ヘモ施行ス

但第五條ノ場合ニ於テハ郡市役所ヘ届出檢査ヲ受クヘシ

三浦郡

横須賀市街　　逸見村

船越新田　　浦郷村ノ内　字梅田

田浦村ノ内　字船越

●明治二十一年七月二十日縣令第二十三號

明治十九年六月甲第六十二號布達ハ來ル九月一日ヨリ左ノ町村ヘモ施行ス

久良岐郡

戸部町ノ内　字石崎

太田村ノ内　字西中耕地及ヒ字前里

吉田新田ノ内　大岡川ヲ境界ニ横濱〔區〕ヘ接續ノ地

中村ノ内　堀割東北一圓

●國有地耕地整理施行地區編入申請手續

（大正二年二月十二日縣令第十九號）

國有地耕地整理施行地區編入申請手續左ノ通定ム

國有地耕地整理施行地區編入申請手續

第一條　内務省主管ニ屬スル國有地ヲ耕地整理施行地區内ニ編入ノ認許ヲ受ケントスル者又ハ該地區内ニ施設セントスル工事其ノ他ノ行爲ニシテ法令ノ規定ニ依リ許可、認可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請書ニ之ヲ併記スヘシ

前項併記ニ係ル事項ニ對シテハ之ニ要スル書面及圖面ヲ添附スヘシ但シ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立認可申請書ニ添付ノ書面及圖面ヲ以テ併用シ得ル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條　前條ノ申請ニ對シ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ地區内ニ編入ノ認許及工事施行其ノ他ノ行爲ニ付許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三條　前二條ノ規定ハ耕地整理施行地區變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

●公有水面埋立規則

（明治三十三年十二月十三日縣令第七十二號）

（沿革）明治三四年縣令第四八號、四四年八月同第五〇號改正

公有水面埋立規則左ノ通之ヲ定ム

公有水面埋立規則

第一條　官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テムトスル者ハ別ニ定ムル所ノ書式ニ據リ保證人二名以上ヲ定メ左ノ事項ヲ記載シタル願書、設計書及圖面二通ヲ縣廳ニ提出スヘシ但シ一町歩以上ノモノハ三通ヲ要ス

一　出願人及保證人ノ住所、氏名、生年月日竝職業

二　埋立ノ位置及區域

三　埋立ノ目的

四　著手及成效ノ期限

設計書ニハ施工方法及材料ノ名稱、形狀、價格、數量竝使用ノ割合其ノ他總テ施工ニ關スル事項ヲ詳記スルコトヲ要ス

圖面ハ縮尺ヲ定メテ調製シタル實測平面圖、實測縱斷面圖、實測横斷面圖及埋立地近傍百間以上ヲ示シタル見取圖ノ四トス但シ埋立地ニ設置スル橋梁、溝渠其ノ他工作物ノ圖面ハ各別ニ調製スルコトヲ要ス

第二條　位置、區域、工事ノ設計其ノ他埋立地ニ關スル調査ノ費用ハ總テ出願人又ハ免許人ノ負擔トス

第三條　工事ノ設計又ハ施行ニ關シ擔任技術者ノ必要ヲ認ムルトキハ知事ハ出願人又ハ免許人ヲシテ之ヲ撰定セシムルコトヲ得

第四條　保證人ハ本縣管内ニ現住シ事業ヲ成功シ得ヘキ資力ヲ有スルコトヲ要ス

保證人ハ出願人又ハ免許人カ其ノ義務ヲ履行セサル場合ニ於テ本人ニ代リ其ノ履行ヲ爲スノ責ニ任ス

第五條　左ノ事項ノ一ニ該當スルモノハ埋立出願ノ效力ヲ失フ

一　出願書類ニ對シ訂正ヲ要スル爲下渡シタルトキ指定期

間内ニ提出セサルモノ

二　調査上必要アリト認メ特ニ提出ヲ命シタル書類ヲ指定期間内ニ提出セサルモノ

三　第三條ニ依リ命シタル擔任技術者ヲ指定期間内ニ定メサルモノ

四　第二條ノ義務ヲ履行セサルモノ

第六條　左ノ事項ノ一ニ該當スルモノハ免許ヲ取消スコトヲ得

一　知事ノ許可ヲ受ケス免許權ヲ擔保或ハ貸付ニ供シ又ハ他人ニ移シタルモノ

二　免許ノ設計ニ異リタル工事ヲ爲シタルモノ

三　設計ノ變更ヲ命シタルトキ之ヲ拒ミタルモノ

四　埋立工事ノ爲他ニ障害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル虞アルトキ指定期間内ニ其ノ障害ヲ除却セス又ハ豫防ノ設備ヲ爲ササルモノ

五　公益ノ爲必要ナル事業ニ依リ埋立工事ノ除却又ハ變更ヲ命シタルトキ之ヲ爲ササルモノ

六　監督上必要アリト認メ特ニ提出ヲ命シタル書類ヲ指定ノ期間内ニ提出セサルモノ

七　埋立工事ヲ工程順序書ニ據リ施行セサルモノ

八　免許期間中ト雖事業遂行ノ見込ナシト認メタルモノ

第七條　左ノ事項ノ一ニ該當スルモノハ免許ノ效力ヲ失フ

一　免許ヲ受ケタル日ヨリ三个月以内ニ著手セサルモノ

二　埋立工事ヲ指定ノ期間内ニ竣功セサルモノ

第八條　天災事變ノ爲ニ期間内ニ著手若ハ成功シ難キ事情アルモノハ其ノ事由ノ止ミタル後二个月以内ニ出願スルトキハ知事ハ相當ノ期間ヲ限リ之ヲ猶豫スルコトヲ得

第九條　第六條及第七條ニ依リ免許權ヲ失ヒタルトキ又ハ免許人ニ於テ埋立工事ヲ廢止シタルトキハ既成埋立地ハ無償ニテ官有ニ歸スルモノトス但シ既成工事ニシテ他ニ障害ヲ及ホスモノト認ムルトキハ指定期間内ニ之ヲ修補若ハ除却セシムルコトヲ得

第十條　本則ハ其ノ施行前ニ免許ヲ與ヘタルモノニモ之ヲ適用ス但シ本則施行前命令シタル條項ハ本則ノ爲ニ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

本則施行以前ニ於テ埋立ヲ許可シタルモノニ付テハ第七條第一號ノ期間ハ本則發布ノ日ヨリ起算ス

●公有水面埋立工事設計書及圖面樣式

（明治三十四年一月二十四日告示第十三號）

官ニ屬スル公有水面ノ埋立ヲ出願スル者ハ明治三十三年十二月神奈川縣令第七十二號公有水面埋立規則第一條ノ規定ニ從ヒ左ノ樣式ニ依リ工事設計書及圖面ヲ調製スヘシ

（工事設計書表紙樣式）

神奈川縣何國何郡何町村地先水面埋立工事設計書

（工事仕樣書式）

工事仕樣書

何々、、、、、、、、、、、、、、

備考　本仕樣書中ニハ埋立工事及付帶工事一切ノ施工順序方法等詳細列記スヘシ

工費內譯書

水面埋立土坪何坪

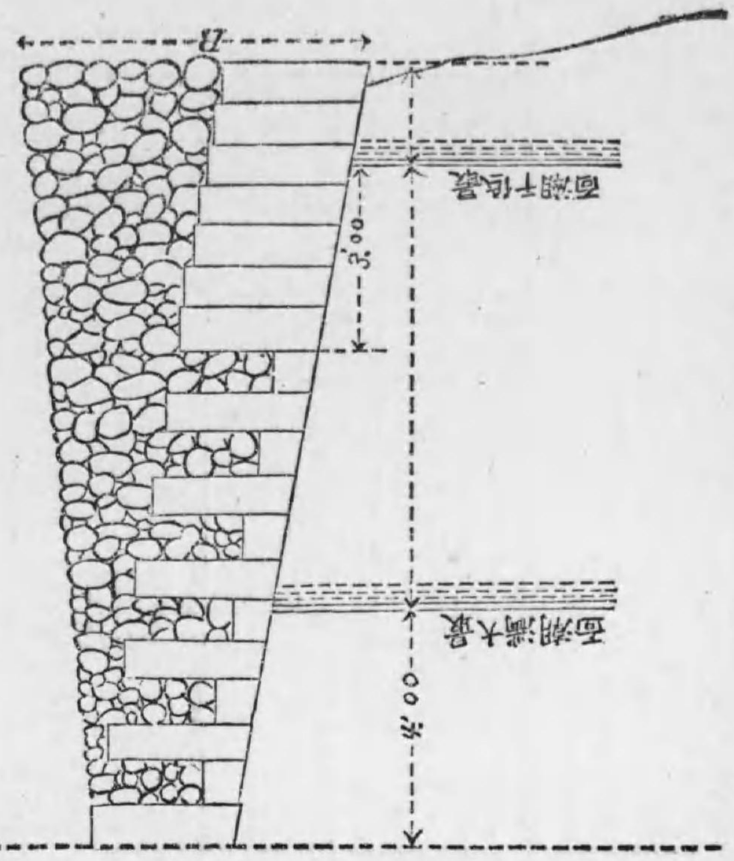
品名又ハ職工人夫種類	數又ハ人員	量	單價	代價	使用目的及使用割合
計金					
龜腹張石延長何間		平均法高何尺			此平坪何坪
品名又ハ職工人夫種類	數又ハ人員	量	單價	代價	使用目的及使用割合
計金					
何石垣延長何間		平均法高何尺			此平坪何坪
品名又ハ職工人夫種類	數又ハ人員	量	單價	代價	使用目的及使用割合

計金					
道路長何間		巾何間			此平坪何坪
品名又ハ職工人夫種類	數又ハ人員	量	單價	代價	使用目的及使用割合
計金					
橋梁長何間（何間何尺至何間何尺）		內法巾何尺			此平坪何坪
品名又ハ職工人夫種類	數又ハ人員	量 長	巾 末口 厚	合 鐵目	單價 代價	使用目的ノ使用ノ割合
計金						
合計金						

圖計設立埋面水先地村町何市郡何國何縣川奈神

一ノ分何　尺　縮

（備考）圖中記入シタル道路、高本等圖入ヲ平面ニ明記シ、河川、縦横斷面、工費内訳、堤塘、物料表、圖面、雇賃等下水、道路、石垣、石垣、縦横斷面、雇賃等下水、道路、石垣、縦横斷面、雇賃等下水、道路、石垣、縦横斷面、雇賃等下水、道路



一図

第八類　土木、地理　第三章　土地、水面、治水

橋梁設計図（本面、側面、縦横断面図）ノ縮尺五十分ノ一以内ニ調製シ横断面勾配ハ二十分ノ一ニシテ上置砂利ハ径一寸以下飾砂利厚三寸ヲ使用スベク且ツ地質ニヨリ路面下層ノ構造方ハ相當ノ設計ヲ要ス

道路ニ付帯スベキ下水、汚水、同上構造物、橋梁等縮尺ハ一々相當ノ縮尺ニ以テ設計明細図ヲ添付スベシ

（備考）本図ハ縮尺五十分ノ一ニ調製シ横断面勾配ハ二十分ノ一ニシテ上置砂利ハ径一寸以下飾砂利厚三寸ヲ使用スベク且ツ地質ニヨリ路面下層ノ構造方ハ相當ノ設計ヲ要ス

道路ニ付帯スベキ下水、汚水、同上構造物、橋梁等縮尺ハ一々相當ノ縮尺ニ以テ設計明細図ヲ添付スベシ

（備考）本図ハ縮尺五十分ノ一ニ調製シ横断面勾配ハ二十分ノ一ニシテ上置砂利ハ径一寸以下飾砂利厚三寸ヲ使用スベク且ツ地質ニヨリ路面下層ノ構造方ハ相當ノ設計ヲ要ス

橋梁設計図（本面、側面、縦横断面図）ノ縮尺五十分ノ一以内ニ調製シ横断面勾配ハ二十分ノ一ニシテ上置砂利ハ径一寸以下飾砂利厚三寸ヲ使用スベク且ツ地質ニヨリ路面下層ノ構造方ハ相當ノ設計ヲ要ス

橋梁設計図（本面、側面、縦横断面図）ノ縮尺五十分ノ一以内ニ調製シ横断面勾配ハ二十分ノ一ニシテ上置砂利ハ径一寸以下飾砂利厚三寸ヲ使用スベク且ツ地質ニヨリ路面下層ノ構造方ハ相當ノ設計ヲ要ス

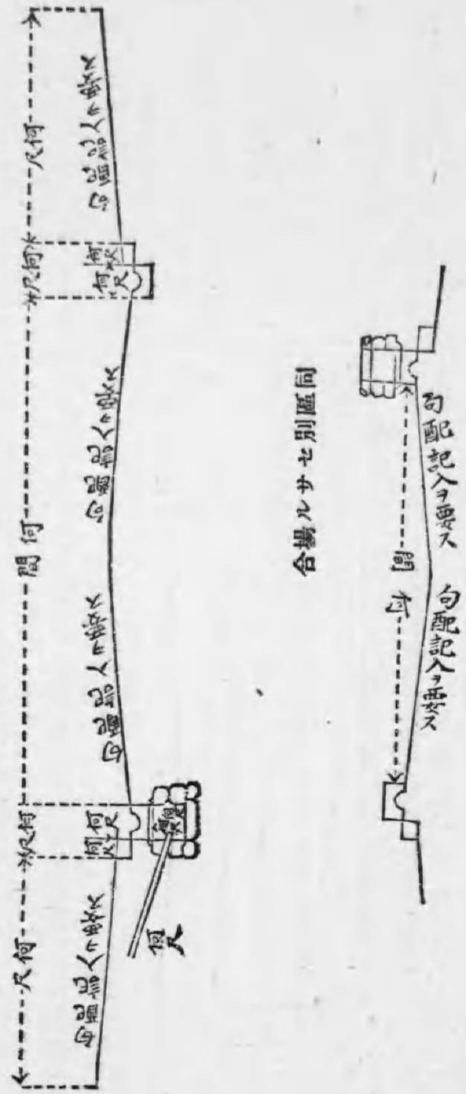
上部面ニ縁取ヲ得ルヲ要ス

道路ノ一本方呎ニ付九十二封度ノ重量ヲ橋後道路ノ接線勾配ノ三十分ノ一以下タルベシ

面上桁下迄八尺ノ高サヲ有セシメタル前五十分ノ一以内ニ調製シ中央ニ於テ最大満潮橋梁設計図（本面、側面、縦横断面図）ノ縮尺

橋梁設計ヲ要ス

第八類　土木、地理　第三章　土地、水面、治水

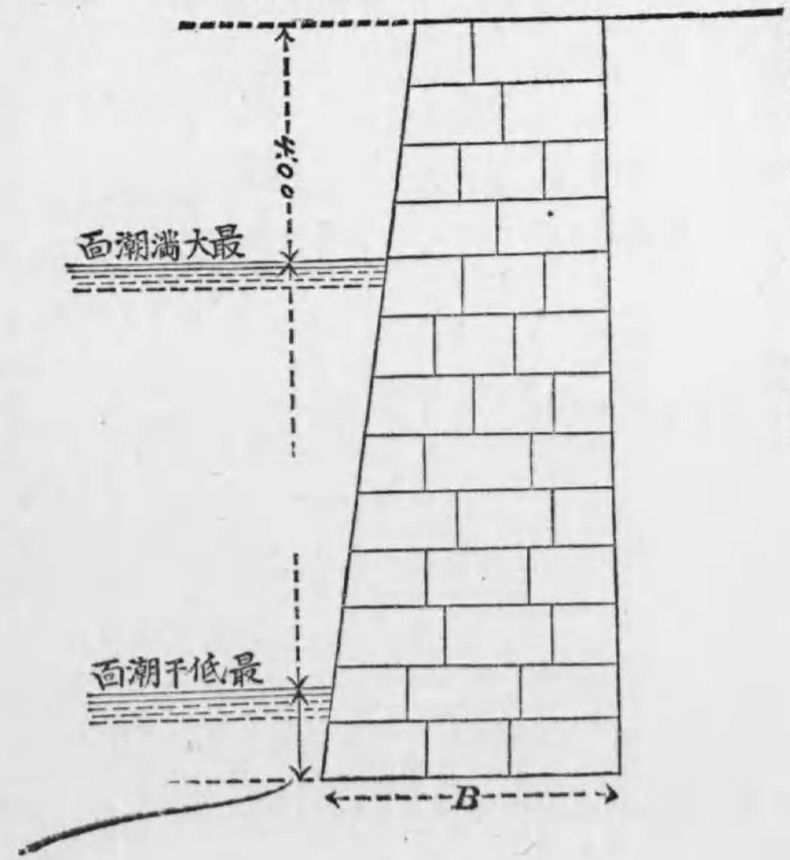

何尺
何尺
何尺

神奈川縣何國何郡市何町村地先水面埋立地土留石垣設計圖　縮尺　何分ノ一

（備考）

本圖ハ縮尺五十分ノ一以内ニ調製シ築立勾配ハ二分（十尺ニ付二尺ノ比例）ニシテ其ノ下幅（圖中B）ヲシテ直立ノ〇、三五ニ當ル幅員ヲ有セシムヘシ但シ其礎ニ對スル設計ハ其ノ地質ニヨリ充分安全ヲ保タシムル樣相當設計ヲ要ス

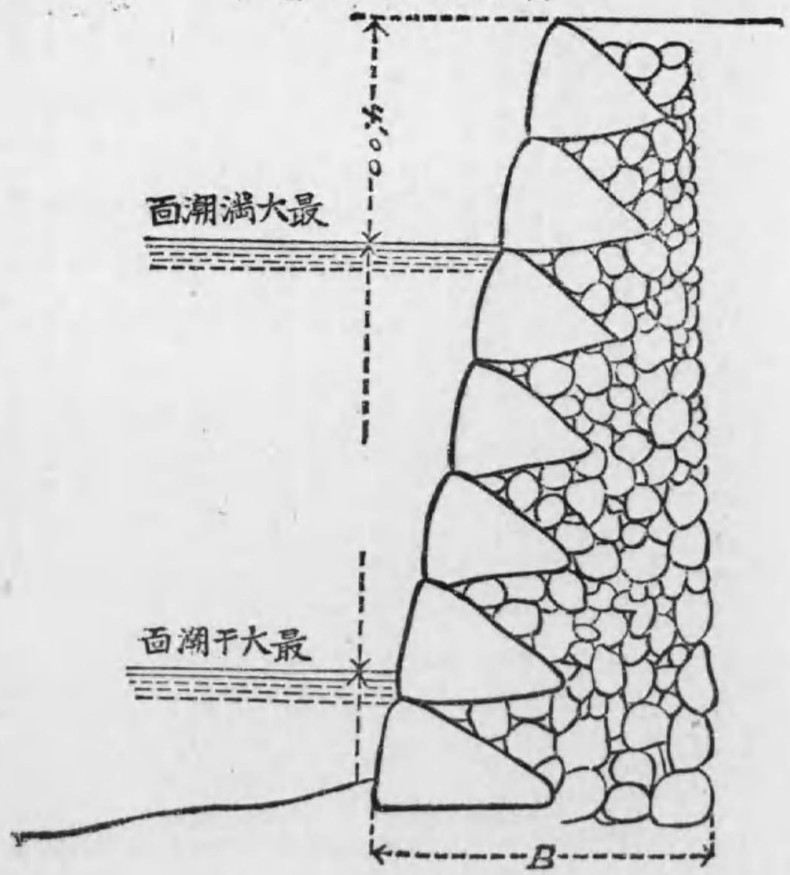
切石垣ノ場合

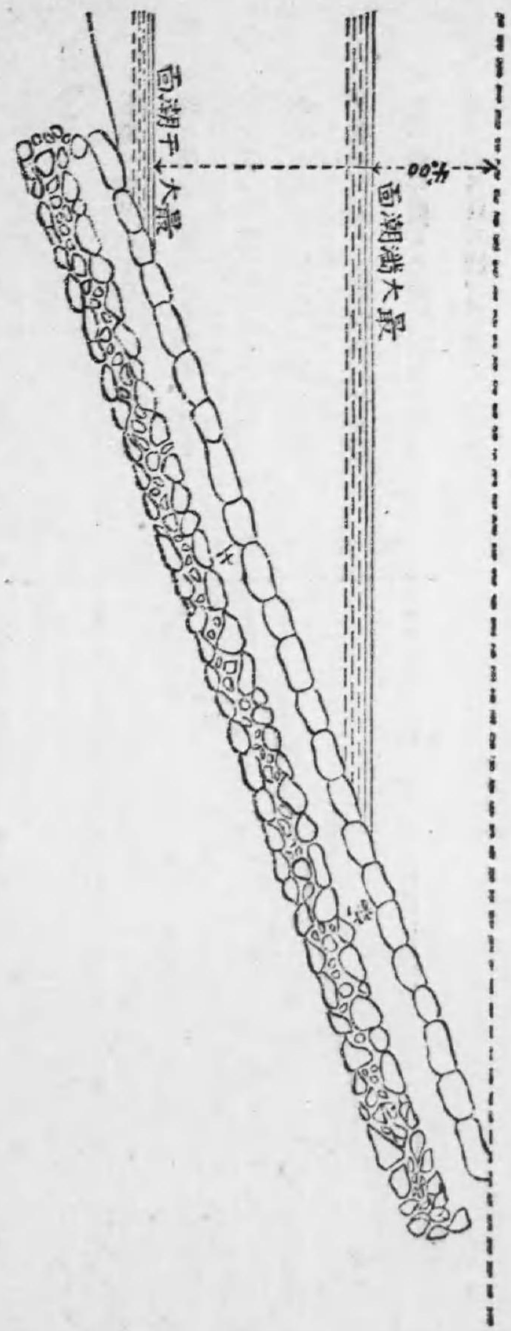


（備考）

本圖ハ縮尺五十分ノ一以内ニ調製シ築立勾配ハ二分乃至三分ニシテ其ノ下幅（圖中B）ハ裏込ヲ合セテ直立ノ〇、五ニ當ル幅員ヲ有セシムヘシ其礎ニ對スル設計ハ前同斷トス但シ石材ハ面一尺二寸角以上控二尺以上ノモノナルヲ要ス

圓切石垣ノ場合





（備考）

一、本圖ハ縮尺五十分ノ一以内ニ開鑿シ張石勾配ハ三割（三間）ニ尺ニシテ付三尺（以上）ニ一個ノ割合ニ張石村ハ一個一尺五寸以上ノモノ

二、角厚七寸以上ノモノ五分ノタルノク嵌込ハ粘土厚五寸割栗石厚一尺

三、同藤笛詰ハ割栗石ヲ仕用スルモノトシ其縁ハ割栗石頂ヲ以テ縁ヲ設ケ

四、

縮尺　一分ハ一尺

凡例
郡界
川筋
郡市町村
郡市町村地先水面
土地
張石
割栗石
詰藤笛
割栗石

●治水條例竝副則

（明治十二年十月九日
布達甲第百八十三號）

治水條例竝副則左之通相定候條此旨布達候事

但從前相達置候法則ハ都テ廢止候事

治水條例

第一條　治水ニ關スル事務ハ總テ成規ニ從ヒ該町村〔戸長〕ノ擔任スルモノトス

第二條　用惡水路樋管溜井等ノ修繕其工費ノ協議費ニ屬スル分ハ該町村限リ〔戸長〕ノ認可ヲ經テ直チニ施行スルコトヲ得尤利害ノ他ニ影響スルモノハ豫メ其町村ニ協議スヘシ

第三條　毎年農隙ヲ計リ堤上適宜ノ場所ヲ撰ミ防禦ニ緊要ノ木石等蓄積シ出水ノ豫備ヲナスヘシ

第四條　川流ノ迂直水勢ノ強弱ニ仍リ若シ其利害ニ關シテ川脈ヲ變換シ及ヒ修繕ヲ要スルトキハ見込ヲ具狀スヘシ

第五條　河水暴漲及大風雨ノ節ハ晝夜ニ限ラス沿川ヲ巡視シ防禦ニ盡力シ且減水ノ後ハ破損ノ箇所詳細取調郡〔區〕役所ヲ經テ屆出ヘシ

第六條　流筏ノ者水勢ニ因リ堤塘及ヒ水刎器械ノ類ノ障礙トナリ瀕邊ヒ水路ヲ設クルヲ要スル等ノ節ハ其旨取調具狀ノ上指揮ヲ受クヘシ

第七條　總テ犯則ノ者アルトキハ地元町村ニテ顛末取糺詳細具狀スヘシ

第八條　毎年十月ニ至リ村々目論見ノ節ハ躬メ現場ヲ實査シ置キ派出官ヘ見込申立ツヘシ

但協議費ニ屬スル分ハ箇所附帳相添出願スヘシ

第九條　各川堤防水刎〆切及ヒ堤塘ニ係ル諸修繕ニシテ臨時工事ヲ要スルトキハ必ス〔戸長〕檢査ノ上目論見帳ヲ添ヘ出願許可ヲ得而テ後始メテ著手スル事ヲ得

但出水ノ際一時ノ防禦及ヒ道路兼用ノ堤塘ニシテ其修繕ノ協議費ニ屬スル分ハ該町村限リ〔戸長〕ノ認可ヲ經テ直チニ施行スルコトヲ得尤前岸上下ノ障礙トナルヘキ上置キ等ハ此限ニアラス

第十條　河港堤塘缺崩シ及ヒ水刎類ノ損所アルトキハ大破ニ及ハサル前町村持場限リ怠慢ナク補修ヲナスヘシ

第十一條　川脈ヲ變更シ或ハ新ニ堤塘溝渠等ヲ設クルトキハ土地ノ種類ハ勿論地坪ノ增減及ヒ其幅員間數等詳細ノ圖面目論見帳竝前岸上下各町村故障有無ノ連署ヲ以テ出願許可ヲ經テ而シテ後著手スルコトヲ得〔尤竣功ノ上ハ明治九年六月租第百五十四號達雛形ニ照準工費決算帳相添其都度遺漏ナク屆出ヘシ〕

〔但新規起工ニ係ルモノハ總テ明治九年第百三十號又ハ同十二年第二十二號公布ノ旨趣履行濟ノ廉額面ニ詳明ナラシムヘシ〕

第十二條　〔堤防用惡水路樋管溜井等ノ工事ニシテ既ニ竣功セシモノハ明治十年本縣乙第百二十六號達ニ據リ毎三ケ月

ツ、遺漏ナク調製シ翌月十日限リ郡區役所ヘ送致スヘシ

第十三條　副則第五條第八條ニ付工事上不得止トキハ情實具狀ノ上指揮ヲ受クヘシ

治水條例副則

第一條　河港堤防用惡水樋管溜井等ノ修築補繕ハ些少ノ事業タリトモ私ニ著手スルコトヲ許サス

第二條　堤腹堤脚ヲ侵壓シ溝渠ヲ縮耕スル等ヲ許サス

第三條　許可ヲ得スシテ川中ヘ杭ヲ打チ或ハ雜朶卷ヲ沈メ築ヲ設クルコトヲ許サス

第四條　川除牛枠及ヒ石籠等總テ堤防器械上ヘ登ルコトヲ許サス

第五條　毎年五月ヨリ十月迄ノ間河原敷ヘ竹木ヲ積置クコトヲ許サス

但本文期限外ト雖モ豫定シアル物揚場外ヨリ諸物品ヲ運搬スルヲ許サス

第六條　流筏渡船營業者ト雖モ堤防水刎柵杭等ヘ衝突シ又ハ繫留スルコトヲ許サス

第七條　堤外ヘ居宅及ヒ渡船場漁小屋筏小屋等ヲ私ニ築造スルヲ許サス

第八條　許可ヲ得スシテ堤際拾間以内ニ於テ土砂ヲ堀取ルコトヲ許サス

但私有地ニ係ル年季起返シ土砂堀取リノ事業ト雖トモ無屆ニテ著手スルヲ許サス

第九條　職遊漁ニ論ナク堤塘又ハ浪除ヨリ拾間以内及ヒ土留柵等貳間以内ニ於テ釣餌又ハ貝類ヲ堀取ルコトヲ許サス

第十條　出水ノ節其際又ハ水刎類ヘ流寄リタル塵芥及ヒ竹木等其地元町村吏員〔戸長〕筆生等ノ差圖ヲ經スシテ私ニ拾ヒ取ルコトヲ許サス

第十一條　前條條ヲ犯シタルモノハ相當處分ノ上尙該犯ヨリ生スル所ノ損失ヲ辨償セシムヘシ

●水車規則

（大正三年九月四日　縣令第五十七號）

水車規則左ノ通定ム

水車規則

第一條　本則ニ於テ水車ト稱スルハ其ノ自家用タルト營業用タルトヲ問ハス水力ヲ利用スル諸車ヲ謂フ

第二條　水車ヲ設置セントスル者ハ町村役場、郡市役所ヲ經由シテ知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル後第三條第二號及第三號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ郡ニ在リテハ郡長市ニ在リテハ市長ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　水車設置ノ願書ニハ左記各號ヲ具備スヘシ

一、水車設置ノ位置竝利用河川、水路ノ名稱

二、水車設置ノ目的竝自家用營業用ノ區別

三、水車ノ輪徑及員數

四、据付動力機ノ名稱及其ノ員數、箇數、又ハ枠數

五、平面圖水車設置ノ位置竝附近ノ形狀、利用河川、水路ノ流向及新水路、堰堤ノ位置、方位等明示

六、水車設置ノ土地カ他人ノ所有ニ屬スルトキハ其ノ所有者ノ承諾書又ハ連署

七、水車設置ノ爲新ニ水路又ハ堰堤ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ設計書、圖面

第四條　許可ヲ受ケタル後左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ直ニ町村役場、郡市役所ヲ經由シテ知事ニ屆出ツヘシ

一、水車ヲ廢止シタルトキ

二、水車ヲ賣買若ハ讓渡シタルトキ

三、遺產相續又ハ家督相續ニ依リ水車ノ所有權ヲ取得シタルトキ

四、改姓名ヲナシタルトキ

前項ノ屆書ハ賣買讓渡ニ在リテハ當事者之ニ連署シ相續改姓名ニ在リテハ市町村長ノ證明ヲ受ケ又ハ戸籍抄本若ハ謄本ノ添付ヲ要ス

第五條　公益上其ノ他知事ニ於テ必要アリト認ムルトキ又ハ本則ノ規定若ハ許可ノ條件ニ違背シタリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ又ハ水車ノ改造若ハ除却ヲ命シ又ハ水車ノ設置ニ因リテ生スル障害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第六條　許可ヲ受ケスシテ水車ヲ設置シ又ハ漫リニ其ノ位置ヲ變更シタル者ハ之ヲ原狀ニ回復セシム但シ實地ノ狀況ニ依リ特ニ事後ニ於テ許可スルコトアルヘシ

前項ノ規定ニ基キ復舊ヲ命ヘルニ當リ原狀ノ不明ナル場合ハ其ノ回復ノ程度ハ知事之ヲ指定ス

第七條　許可ヲ受ケタル者又ハ許可ヲ受ケスシテ水車ヲ設置シタル者ニ於テ本規定若ハ許可ノ條件ニ基キテ發スル命令ノ義務ヲ履行セサルトキハ知事ハ代テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第八條　本規定又ハ許可ノ條件ニ基キテ發スル命令ノ義務ヲ履行スル爲ニ生スル費用及前條ノ費用ハ總テ其ノ義務者ノ負擔トス之カ爲義務者ニ於テ損害ヲ被ルコトアルモ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九條　第二條ノ規定ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第十條　本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十四年七月甲第百二十三號布達水車規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十一條　本則施行前ニ許可ヲ受ケ水車ヲ設置シタルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十二條　發電ノ動力ニ供スル目的ヲ以テ設置スル水車ニハ本則ヲ適用セス

●多摩川ヲ河川法準用ノ河川ト認定ノ件

（明治三十四年五月十四日　告示第百二十二號）

橫樹郡稻田村ヨリ海ニ至ル多摩川筋ヲ明治三十二年勅令第四

百四號第一條ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ經テ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スル河川ト認定ス

●多摩川ニ屬スル河川附屬物認定ノ件

（明治四十一年四月十四日 告示第九十六號）

河川法ヲ準用シタル橋樹郡稻田村ヨリ同郡大師河原村ニ至ル多摩川ニ屬スル堤塘ヲ河川ノ附屬物ト認定ス

●多摩川沿堤及河川附近ノ土地指定ノ件

（大正三年五月十五日 告示第七十號）

多摩川沿堤及河川附近ノ土地左ノ通定ム

沿堤土地

橋樹郡稻田村ヨリ下流同郡大師河原村海ニ至ルマテ河川ノ附屬物ト認定シタル堤防ノ堤内堤敷線ヨリ堤内ヘ拾間

河川附近土地

有堤部

一 橋樹郡稻田村ヨリ下流同郡大師河原村海ニ至ルマテ河川ノ附屬物ト認定シタル堤防ノ堤内堤敷線ヨリ堤内ヘ拾間ノ土地及其ノ堤外地全部

無堤部

一 橋樹郡稻田村宿河原字八耕地全部字九耕地字十一耕地ノ内堤外地ニ屬セサル部分ノ全部

一 同郡高津村字奈根字山野字河原ノ内堤外地ニ屬セサル部分ノ全部

一 同郡中原村上丸子字菅原前字菅原下字松原通字山王前及字古川ノ全部

一 同郡御幸村下沼部字洲畑ノ全部

一 同郡同村嶺字嶺飛地ノ全部

一 同郡同村中丸子字上河原及字下河原ノ全部

一 同郡同村上平間字玉川淵字天神臺

一 同郡大師河原村大師河原字末廣島ノ全部

一 同郡同村羽田羽田獵師町入會地ノ内堤外地ニ屬セサル部分ノ全部

●鶴見川ヲ河川法準用ノ河川ト認定ノ件

（明治四十三年五月二十七日 告示第百六十九號）

鶴見川筋ノ内右岸都筑郡新治村大字中山落合橋左岸都筑郡都田村大字佐江戸落合橋以下海ニ至ル迄ヲ明治三十二年勅令第四百四號第一條ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ經テ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スル河川ト認定ス

●鶴見川ニ屬スル河川附屬物認定並沿堤地、沿岸地、河川附近ノ土地指定ノ件

（明治四十三年七月九日 告示第二百十一號）

河川法ノ規定ヲ準用シタル鶴見川筋ノ内左岸都筑郡都田村大字佐江戸落合橋右岸都筑郡新治村大字中山落合橋以下海ニ至ル區域ニ屬スル左記堤塘ヲ河川ノ附屬物ト認定シ及沿堤地、沿岸地、河川附近ノ土地ヲ左ノ通リ定ム

左岸

附屬物堤塘區域

一 都筑郡都田村大字佐江戸地内中川寒川間里道沿ヨリ同村大字池ノ邊同村大字川向同郡新治村大字本郷橋樹郡城郷村大字小机郡筑郡新田村大字新羽ヲ經テ同村大字吉田千四百四十四番地先ニ至ル延長五千九百四十二間九分

一 橋樹郡大綱村大字南北綱島地内三百二十七番地先ヨリ同村同大字九百二十三番地先ニ至ル延長二百間七分

一 橋樹郡町田村大字江ケ崎地内四百十五番地先ヨリ同村大字矢向同郡旭村大字上下末吉ヲ經テ同郡町田村大字市場地内九百十三番地先ニ至ル延長八百七十八間七分

一 橋樹郡町田村大字潮田地内千三百七十一番地先ヨリ同村大字小野地内百二十三番地先ニ至ル延長二百八十二間三分

右岸

附屬物堤塘區域

一 都筑郡新治村大字鴨居地内千四百七十三番地先ヨリ同村大字本郷地内百十四番地先ニ至ル延長千百四十九間三分

一 橋樹郡城郷村大字小机地内五百九十四番地先ヨリ同村大字鳥山ト同郡大綱村大字篠原トノ境界線ニ至ル延長千六百三十一間二分

一 橋樹郡大綱村大字大豆戸地内九百十二番地先ヨリ同村大字太尾ト同村大字大曾根トノ境界線ニ至ル延長千三百三十間

一 橋樹郡大綱村大字大曾根地内千三百九番地先ヨリ同村大字樽ヲ經テ同郡旭村大字駒岡地内千八百八十四番地先ニ至ル延長千三百八十八間六分

一 橋樹郡生見尾村大字鶴見二千二十六番地先ヨリ同村同大字地内四百五十八番地先ニ至ル延長百十二間

一 橋樹郡生見尾村大字鶴見地内千八百七十二番地先ヨリ同村同大字地内千二百十六番地先ニ至ル延長七百七十四間六分

左岸

沿堤地

一 堤塘川裏法先ヨリ堤内ヘ幅十間ノ土地

沿岸地

一 都筑郡新田村大字吉田地内堤塘川裏法先ト同村同大字千四百四十四番地先土手南側トノ接合點ヨリ同村同大字地内千四百三十八番地ト千四百三十六番地ト土手トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ橋樹郡大綱村大字南北綱島

地内三百二十七番地ト三百三十一番地ト堤塘川裏法先トノ接合點ニ至ル見通シ線、同村同大字地内九百二十三番地ト同村大字大曾根千二百六十九番地ト堤塘川裏法先トノ接合點ヨリ同村大字南北綱島地内千三百二番地ト千二百四十五番地ト千三百四番地トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村同大字地内千八百二十一番地イ號東南隅角ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同郡旭村大字駒岡地内二千六百四番地ト里道ト水路トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村同大字地内二千五百三十五番地ト二千五百三十一番地ト里道トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同郡日吉村大字小倉地内千七百四十六番地ト千七百四十五番地ト千七百三十四番地トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同郡町田村大字江ケ崎地内四百十五番地四方隅角ト堤塘川裏法先トノ接合點ニ至ル見通シ線、同村大字市場地内九百三十一番地ト水路ト堤塘川裏法先トノ接合點ヨリ同郡旭村大字上下末吉地内千八百三十五番地ト千八百三十六番地ト里道トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同郡町田村大字潮田地内百九十五番地ト二百一番地ト百九十四番地トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村同大字地内九百七十三番地ト九百七十四番地ト九百七十五番地トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村同大字地内千五百四十七番地ト千五百五十五番地ト千五百五十六番地トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村同大字地内千三百七十一番地ト千三百七十六番地トノ境界線ヲ延長シタルモノト堤塘川裏法先トノ接合點ニ至ル見通シ線ヨリ鶴見川ニ面スル土地全部

河川附近ノ土地

有堤部

一堤外地及沿堤地全部

無堤部

一沿岸地全部

右岸

沿堤地

一堤塘川裏法先ヨリ堤内ヘ幅十間ノ土地

沿岸地

一都筑郡新治村大字中山地内千二百十七番地ト千二百十三番地ト中川寒川間里道トノ接合點ヨリ同村大字上猿山地内百九十七番地ト百九十八番地ト同村大字下猿山地内八百四十七番地トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村大字鴨居地内千四百七十三番地ト里道ト堤塘川裏法先トノ接合點ニ至ル見通シ線、同郡新治村大字本郷地内百十四番地ト百十三番地ト里道ト堤塘川裏法先トノ接合點ヨリ橘樹郡城郷村大字小机地内五百九十四番地先里道ト水路ト堤塘川裏法先トノ接合點ニ至ル見通シ線、同郡城郷村大字鳥山ト同郡大綱村大字篠原トノ境界線ト堤塘川裏法先トノ接合點ヨリ同村同大字地内三千八百四十八番地ト三千八百四十九番地ト三千八百四十七番地トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村大字大豆戸地内九百十二番地ト九百十一番地ト堤塘川裏法先トノ接合點ニ至ル見通シ線、同村大字大曾根千三百四番地先土手ト水路ト堤塘川裏法先トノ接合點ヨリ同村同大字地内千三百九番地先里道ト水路ト堤塘川裏法先トノ接合點ニ至ル見通シ線、同郡旭村大字駒岡地内千九百八十九番地ト里道ト堤塘川裏法先トノ接合點ヨリ同村同大字地内二千二百三番地ト二千二百六番地ト里道トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村大字上下末吉地内四十一番地ト五十五番地ト五十六番地トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村同大字地内五百五十八番地ト五百五十七番地ト里道トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同郡生見尾村大字鶴見地内二千二十六番地先里道ト水路ト堤塘川裏法先トノ接合點ニ至ル見通シ線、同村同大字地内東海道鐵道線路ト四百五十八番地先水路ト堤塘川裏法先トノ接合點ヨリ同村同大字地内四百五十九番地先水路ト堤塘川裏法先ト東海道鐵道線路トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村同大字地内千八百七十二番地ト千八百六十九番地ト堤塘川裏法先トノ接合點ニ至ル見通シ線、同村同大字地内千二百十六番地先土手ト堤塘川裏法先トノ接合點ヨリ同村大字生麥地内二千三十九番地ト里道ト土手敷トノ接合點ニ至ル見通シ線、同所ヨリ同村同大字地内六百二十九番地ト六百十六番地ト土手敷トノ接合點ニ至ル土手敷ト耕地トヲ境界スル線ヨリ鶴見川ニ面スル土地全部

河川附近ノ土地

有堤部

一堤外地及沿堤地全部

無堤部

一沿岸地全部

●多摩川筋鶴見川筋河川敷地及水面占用竝使用規程

（明治四十五年七月十二日　縣令第五十八號）

多摩川筋鶴見川筋河川敷地及水面占用竝使用規程左ノ通定ム

多摩川筋鶴見川筋河川敷地及水面占用竝使用規程

第一條　河川法ノ規定ヲ準用スル多摩川筋鶴見川筋河川敷地又ハ水面ノ占用若ハ使用ニ關シテハ河川法及同法ニ基キ發セラレタル命令ノ外本則ニ依ルモノトス

第二條　河川敷地及水面ヲ占用（河川ノ敷地若ハ水面ヲ本來ノ目的ニ從ハスシテ利用スル場合ヲ云フ）又ハ使用（河川敷地若ハ水面ヲ本來ノ目的ニ從ヒ利用スル場合ヲ云フ）セムトスル者ハ左ノ書面ヲ具備シ出願地町村内ニ於テ公民權ヲ有スル者二名以上ヲ保證人トシ連署ノ上知事ニ願出ツヘシ

但シ郡市町村其ノ他公共組合ニ於テ出願スルモノハ保證人

ヲ要セス

一　願書

一　圖面　一般圖（占用又ハ使用地附近ノ形狀ヲ現ハシタル一般圖ニシテ「地番地目」「流水ノ方向」「河川附屬物竝工作物ノ種類、位置」ヲ現ハシタルモノ）

實測圖（占用又ハ使用地域ノ實測圖ニシテ三斜法ニ依ル求積圖）

一　仕樣書及構造圖（占用又ハ使用ノ目的其ノ河川ノ敷地若ハ水面ノ現狀ヲ變更スルモノニ限ル）

前項保證人ノ資格ハ町村長ノ證明ヲ要ス

第三條　本則ニ依リ許可ノ指令ヲ受領シタル者ハ地元町村役場備付ノ帳簿ニ署名捺印スヘシ但シ知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ請書ヲ徵スルコトアルヘシ

第四條　占用料又ハ使用料ハ納額告知書ニ指定シタル期限内ニ納付スヘシ

第五條　占用又ハ使用ノ期限ハ滿五箇年以内トス

第六條　占用又ハ使用ノ繼續ヲ出願セムトスルトキハ滿期二十日以前ニ知事ニ出願スヘシ

第七條　占用人、使用人及保證人改氏名又ハ住所ヲ變更（保證人ニ在リテハ出願地町村内ノ變更ニ限ル）シタルトキハ其ノ手續ノ終了シタル後三日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第八條　保證人轉住其ノ他ノ事故ニ依リ第二條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ相當ノ保證人ヲ定メ相互連署ノ上知事ニ届出ツヘシ

第九條　家督相續ニ因リ占用又ハ使用ヲ繼承セムトスルモノハ市町村長ノ證明ヲ受ケ相續開始ノ日ヨリ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ

第十條　占用又ハ使用區域内ノ竹木芝草ハ占用人又ハ使用人ニ於テ保護培養ノ責ニ任シ若其ノ土地ヲ荒廢セシメ又ハ竹木其ノ他物件ノ枯死、損傷、毀損、亡失等ニ依リ當初ノ員數ニ不足ヲ生セシメタルトキハ其ノ損害ヲ賠償セシム但シ賠償額ハ縣廳ノ定ムル處ニ依ルヘシ

第十一條　占用又ハ使用ノ爲他ニ障害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル虞アリト認ムルトキハ知事ハ其ノ占用又ハ使用人ヲシテ其ノ障害ヲ防遏セシメ又ハ之ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲サシムヘシ其ノ既ニ加ヘタル損害ニ付テハ相當ノ賠償ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條　占用人、使用人若ハ保證人ニ於テ本則又ハ本則ニ依リ發スル命令ノ義務ヲ履行セサルトキ又ハ指定ノ期限内ニ履行スルノ見込ナキトキ若ハ履行ノ方法宜キヲ得サルトキハ知事代テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシメ其ノ費用ハ凡テ履行義務者ヲシテ辨償セシムヘシ

第十三條　占用人、使用人ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ起算シ十日以内ニ公衆ノ認知シ易キ場所ニ標柱ヲ建設スヘシ但シ占用又ハ使用ノ繼續若ハ其ノ他ノ事由ニ依リ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ更正スヘシ

第十四條　占用人、使用人ニ於テ占用又ハ使用ノ目的ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上知事ニ

願出ツヘシ

第十五條　占用又ハ使用期限滿了ニ至ルカ又ハ期限中自己ノ都合ニ依リ占用又ハ使用ヲ廢止シタルトキハ三日以内ニ知事ニ届出テ檢査ヲ受クヘシ

第十六條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ知事ハ占用又ハ使用ノ許可ヲ取消スヘシ但シ本條ノ處分ニ依リ占用人又ハ使用人ニ於テ損害ヲ被ムルコトアルモ其ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

一　法律命令ノ施行ニ依リ占用又ハ〔使用ノ廢止ヲ要スルトキ

一　占用人、使用人ニ於テ本則又ハ本則ニ依リ發スル命令ニ違背シタルトキ

一　公益上必要ト認ムルトキ

第十七條　占用人、使用人ニ於テ自己ノ都合ニ依リ占用又ハ使用ヲ廢止シタルトキ又ハ本則ニ違背シタル爲返地ヲ命セラレタルトキハ既納ノ料金ハ還付セス

第十八條　保證人ハ占用人又ハ使用人ニ於テ其ノ義務ヲ履行セサル場合ハ凡テ代務ノ責ニ任スヘキモノトス

附　則

本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則ニ依リ許可ヲ受クヘキ占用又ハ使用ニシテ本則施行前ヨリ適法ニ爲シ又ハ存在スルモノト雖更ニ本則ニ依リ許可ヲ受クヘシ

第四章　道路、橋梁、渡津

●修路條例

（明治十三年九月十三日布達甲第百五十八號）

明治十二年七月甲第百三十五號布達道路橋梁修築及掃除條例相廢シ更ニ左ノ通修路條例相定候條此旨布達候事

修路條例

第一條　道路橋梁修築掃除等ノ事務ハ總テ成規ニ從ヒ該町村〔戸長〕ノ擔任スルモノトス

第二條　國縣道ト假稱スル線路〔及横濱區内ニ屬スル道路橋梁ノ修築ハ目論見帳相添出願ノ上許可ヲ經ヘシ〕若シ臨時危險ヲ生シ時日ヲ移ス可ラサル箇所ハ差向キ假繕等ノ處分ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ施行ノ後其旨速ニ届出ヘシ

但道路ニ附帶セル下水路モ亦本條ニ依ル

第三條　里道ト假稱セル各道路橋梁等（横濱〔區〕内ノ分ハ之ヲ除ク）ノ修築ハ該町村限リ〔戸長ノ認可ヲ經テ〕直チニ施行スルコトヲ得尤利害ノ他ニ影響スルモノハ豫メ其町村ニモ協議ス可シ

第四條　新道ヲ開キ又ハ路線ヲ變更シ及ヒ橋梁ヲ新設シ又ハ其舊形ヲ改メ架セントスル者其他事ノ新規ニ係ル類ハ道路ノ種別ニ拘ハラス目論見帳及ヒ精細ナル畫圖面相添ヘ出願スルモノトス尤地種ノ變換ヲ要スル事業ハ其地積ノ取調書ヲモ共ニ差出スヘシ

〔但新規起功ニ係ルモノハ明治九年第百三十號又ハ同十二年第二十二號公布ノ旨趣履行濟ノ廉願面ニ詳明ナラシ

ムヽ可シ」

第五條　道路橋梁修繕ノ爲メ車馬其他ノ往來止ヲ要スルトキハ出願ノ上指揮ヲ請フヘシ尤非常天災等ニ由リ俄然危險ヲ生セシ場所ハ假ニ臨機ノ處分ヲ爲スヲ得可シ

第六條　工事施行ノ節ハ該地所管ノ警察署若シクハ警察分署ヘ其創竣ヲ屆出可シ

第七條　凡ソ許可ヲ得テ施行スル工事ハ竣功ノ後日數十日以内ニ於テ其旨屆出可シ

但第四條ニ從ヒ許可ヲ得テ施行シタルモノハ其出來形精算帳等ヲ副ユ可シ

第八條　〔目論見帳竝出來形精算帳ハ戸長及ヒ其町村總代ニ任スル者ノ連署捺印ヲ要スルモノトス〕

第九條　工費ノ〔官費或ハ〕地方税支辨ニ關スル箇所ノ事業ハ縣廳ニ於テ之ヲ擔理ス可シト雖トモ其修築ヲ要スルトキハ事由ヲ具シ出願スルモノトス若シ危險ニ涉ルモノハ第二條又ハ第五條ノ末項ニ依ルヘシ

第十條　用惡水路及ヒ小渠ノ架橋等狹隘ニシテ諸車ノ通行差支ル場所ハ該道幅ニ從ヒ改造又ハ增補スル者トス

但此場合ニ於テハ其改造ニ係ルモ必シモ第四條ノ手續キニ據ルヲ要セス

第十一條　用惡水路及ヒ下水路等ノ道路ヲ横截リタル箇所ハ總テ相當ノ樋管若シクハ橋梁ヲ築設スルモノトス

第十二條　河川暴漲及大風雨ノ節ハ晝夜ノ別ナク町村内ヲ巡視シ隳メ道路橋梁等ノ損害ヲ防禦ス可シ

第十三條　道路橋梁ノ掃除ハ渾テ其土地人民ノ負擔スル者トス故ニ各町村常ニ之ヲ怠ルヘカラス且道路又ハ橋梁ニ小破ヲ生シ或ハ路傍下水路ノ梗塞シタル等アラハ併セテ其補繕若シクハ疏浚ヲ爲スヘシ〔尤浚上タル泥土等ハ横濱區ハ明治十二年丙第四百三號達塵芥掃除及糞尿汲除規則第六條ニ據リ各郡ハ同第四百四號達同規則同條ニ處分スヘシ〕

但本條補繕等ノ如キハ國縣道ト假稱スル線路及ヒ横濱區内ニ係ルモノト雖直チニ施行スルヲ得ヘシ

第十四條　道程標及ヒ分道榜牌等ノ確明ナラサルモノハ速ニ之ヲ改設シ又蘚苔等ノ生セシモノハ逐次除去シテ以テ文字ヲ瞭然ナラシム可シ

第十五條　〔道路橋梁ノ工事ニシテ既ニ竣功セシ者ハ明治十年本縣乙第百二十六號達ニ依リ毎三ヶ月ツヽ遺漏ナク調成シ翌月十日限リ其郡區役所ヘ送呈スルモノトス〕

●縣費支辨ノ道路及河川海岸ノ名稱及區域

（明治三十四年七月九日告示第百六十五號）

（沿革）明治四〇年九月告示第一七七號、四三年一一月同第三四九號、大正二年一一月同第二三〇號、三年四月同第五一號改正

明治三十四年三月神奈川縣告示第三十八號市郡連帶及市郡各部單獨ノ縣費ヲ以テ維持保存スル道路及河川海岸ノ名稱區域左ノ如シ

市郡部縣費維持保存ノ道路線名及區域

一第一號國道

橘樹郡川崎町東京府界ヨリ同郡生見尾村横濱市界迄

一第二號國道

同郡保土ケ谷町横濱市界ヨリ足柄下郡箱根町靜岡縣界迄

一第十六號國道

津久井郡千木良村東京府界ヨリ同郡小淵村山梨縣界迄

一第四十五號國道

久良岐郡屏風浦村横濱市界ヨリ三浦郡浦郷村ヲ經テ横須賀市横須賀鎮守府表門迄

一第五十八號國道

足柄下郡温泉村地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡仙石原村靜岡縣界迄

市部縣費維持保存ノ道路線名及區域

一第一號國道

横濱市子安町橋樹郡生見尾村界ヨリ横濱市神奈川町ヲ經テ同市本町一丁目迄

一第二號國道

横濱市青木町地内第一號國道ヨリ分岐シ同市淺間町橋樹郡保土ケ谷町界迄

一第四十五號國道

横濱市本町四丁目五丁目地内第一號國道ヨリ分岐シ伊勢佐木町長島町瀧頭町ヲ經テ同市磯子町久良岐郡屏風浦村界迄

一都筑縣道

横濱市神奈川町地内第一號國道ヨリ分岐シ同市同町橋樹郡城郷村界迄

一甲州縣道

横濱市吉田町一丁目地内第四十五號國道ヨリ分岐シ野毛町平沼町ヲ經テ同市淺間町橋樹郡保土ケ谷町界迄

一戸塚縣道

横濱市南吉田町地内謙倉縣道ヨリ分岐シ同市井戸ケ谷町久良岐郡大岡川村界迄

一鎌倉縣道

横濱市長島町五丁目六丁目地内第四十五號國道ヨリ分岐シ南吉田町蒔田町ヲ經テ同市大岡町久良岐郡大岡川村界迄

郡部縣費維持保存ノ河川海岸ノ名稱及區域

一多摩川　一鶴見川
一帷子川　一柏尾川
一境　川　一相模川
一道志川　一串　川

一中津川
一荻野川
一水無川
一室　川
一大根川
一酒匂川
一四拾八瀬川
一狩　川
一橋樹郡海岸
一三浦郡海岸
一中郡海岸
但シ海岸ニ在テハ從來縣費ノ補助又ハ縣費ヲ以テ負擔シ來リタル町村ノ内工事ヲ施行シタル慣例アル字ノ場所ニ限ル
郡部縣費維持保存ノ道路線名及區域
一武相縣道
橋樹郡高津村東京府界ヨリ都筑郡田奈村高座郡綾瀬村愛甲郡厚木町中郡伊勢原町秦野町足柄上郡松田町川村ヲ經テ同郡谷ケ村靜岡縣界迄
一都筑縣道
橋樹郡城郷村横濱市界ヨリ都筑郡都田村中里村ヲ經テ同郡柿生村東京府界迄
一甲州縣道
一小鮎川
一金目川
一玉　川
一鈴　川
一滝田川
一内　川
一川音川
一早　川
一久良岐郡海岸
一鎌倉郡海岸
橋樹郡保土ケ谷町横濱市界ヨリ都筑郡西谷村都岡村ヲ經テ同郡田奈村東京府界迄
一埼玉縣道
平塚停車場ヨリ中郡神田村愛甲郡厚木町高座郡海老名村濤村ヲ經テ同郡相原村東京府界迄
一熱海縣道
足柄下郡小田原町地内第二號國道ヨリ分岐シ眞鶴村ヲ經テ同郡土肥村靜岡縣界迄
一横須賀地内縣道
横須賀市深田地内豐島武山縣道ヨリ分岐シ同市不入斗重砲兵旅團表門迄
一深田地内縣道
横須賀市深田地内三浦縣道ヨリ分岐シ重砲兵第一旅團司令部ニ達スル迄
一愛甲縣道
橋樹郡保土ケ谷町地内第二號國道ヨリ分岐シ都筑郡二俣川村鎌倉郡瀬谷村高座郡綾瀬村ヲ經テ同郡海老名村地内武相縣道迄
一戸塚縣道
久良岐郡大岡川村横濱市界ヨリ鎌倉郡川上村地内第二號國道迄
一大磯地内縣道
中郡大磯町地内第二號國道ヨリ分岐シ大磯停車場迄

一松田縣道
足柄下郡國府津村地内第二號國道ヨリ分岐シ田島村下曾我村ヲ經テ足柄上郡松田町地内武相縣道迄
一川崎地内縣道
橋樹郡川崎町地内橋樹縣道ヨリ分岐シ川崎停車場迄
一橋樹縣道
橋樹郡川崎町地内第一號國道ヨリ分岐シ中原村高津村ヲ經テ同郡稲田村東京府界迄
一鶴見地内縣道
橋樹郡生見尾村鶴見地内第一號國道ヨリ分岐シ鶴見停車場迄
一中原縣道
橋樹郡城郷村地内都筑縣道ヨリ分岐シ大綱村及都筑郡新田村ヲ經テ橋樹郡中原村東京府界迄
一中山縣道
都筑郡都田村地内都筑縣道ヨリ分岐シ同郡中里村ヲ經テ中山停車場迄
一保土ケ谷地内縣道
橋樹郡保土ケ谷町地内第二號國道ヨリ分岐シ保土ケ谷停車場迄
一大船縣道
鎌倉郡小阪村地内鎌倉縣道ヨリ分岐シ大船停車場迄
一鎌倉縣道
久良岐郡大岡川村横濱市界ヨリ日下村鎌倉郡小阪村ヲ、經テ同郡鎌倉町地内與瀬三崎縣道迄
一與瀬三崎縣道
與瀬停車場ヨリ津久井郡日連村串川村愛甲郡愛川村厚木町高座郡海老名村御所見村藤澤町鎌倉郡鎌倉町三浦郡逗子町葉山村ヲ經テ同郡三崎町迄
一江ノ島縣道
高座郡藤澤町地内與瀬三崎縣道ヨリ分岐シ鎌倉郡川口村江ノ島腰越津村ヲ經テ同郡鎌倉町地内與瀬三崎縣道迄
一朝比奈縣道
久良岐郡六浦莊村地内第四十五號國道ヨリ分岐シ鎌倉停車場迄
一逗子金澤縣道
久良岐郡六浦莊村地内第四十五號國道ヨリ分岐シ三浦郡逗子町地内與瀬三崎縣道迄
一三浦縣道
横須賀市地内第四十五號國道ヨリ分岐シ三浦郡浦賀町ヲ經テ同郡初聲村地内與瀬三崎縣道迄
一豐島武山縣道
横須賀市深田地内三浦縣道ヨリ分岐シ三浦郡衣笠村ヲ經テ同郡武山村地内與瀬三崎縣道迄
一浦郷地内縣道

三浦郡浦郷村船越地内第四十五號國道ヨリ分岐シ田浦停車場迄

一逗子地内縣道
三浦郡逗子町地内逗子金澤縣道ヨリ分岐シ逗子停車場迄

一厚木戸塚縣道
戸塚停車場ヨリ鎌倉郡中和田村高座郡澁谷村ヲ經テ同郡御所見村地内與瀬三崎縣道迄

一藤澤大和縣道
高座郡藤澤町地内與瀬三崎縣道ヨリ分岐シ澁谷村ヲ經テ同郡大和村東京府界迄

一茅ヶ崎地内縣道
高座郡茅ヶ崎町地内第二號國道ヨリ分岐シ茅ヶ崎停車場迄

一津久井縣道
津久井郡三ヶ木村地内與瀬三崎縣道ヨリ分岐シ中野村川尻村ヲ經テ橋本停車場迄

一大山縣道
中郡平塚町地内秦野縣道ヨリ分岐シ伊勢原町ヲ經テ同郡大山町地内迄

一秦野縣道
平塚停車場ヨリ中郡大野村金目村ヲ經テ同郡秦野町地内武相縣道迄

一吾妻秦野縣道
二ノ宮停車場ヨリ足柄上郡中井村ヲ經テ中郡秦野町地内武相縣道迄

一小田原松田縣道
足柄下郡足柄村地内足柄縣道ヨリ分岐シ足柄上郡櫻井村ヲ經テ同郡吉田島村地内足柄松田縣道迄

一足柄縣道
足柄下郡小田原町地内第二號國道ヨリ分岐シ同郡足柄村足柄上郡南足柄村福澤村ヲ經テ同郡川村地内武相縣道迄

一足柄松田縣道
足柄上郡南足柄村地内足柄縣道ヨリ分岐シ吉田島村ヲ經テ同郡松田町地内武相縣道迄

●縣費支辨道路堤防使用規程

（大正三年六月十二日　縣令第四十五號）

縣費支辨道路堤防使用規程左ノ通定ム

縣費支辨道路堤防使用規程

第一條　縣費支辨ニ屬スル道路及竝木敷、堤防等ヲ使用セムトスル者ハ其ノ願書ニ左記事項ヲ記載シ町村役場郡市役所及土木派出所ヲ經由シテ知事ニ提出スヘシ

一、所屬郡市町村、大字及字（地番アルモノハ其ノ番號　地番ナキモノハ何番地先）

二、種類名稱（道路、竝木敷、堤防等ノ區別）

三、使用面積（電柱又ハ之ニ類似ノモノハ基數）

四、使用目的

五、使用期限

六、其ノ他必要ノ事項

前項ノ書面ニハ使用地附近平面圖及使用方法書又ハ計畫書ヲ添附スヘシ

第二條　使用期限ハ特殊ノモノヲ除ク外五箇年以内トス

使用期限滿了ニ至リタルトキ又ハ使用ヲ廢止シタルトキハ原形ニ回復シ其ノ旨三日以内ニ屆出ツヘシ

使用ヲ繼續セムトスルトキハ期限滿了ノ日ヨリ五十日以前更ニ繼續使用願書ヲ提出スヘシ

繼續使用願ニハ第二條ノ圖書ヲ省略スルコトヲ得

第四條　使用ヲ許可スルトキハ使用料ヲ徵收ス但シ營利ヲ目的トセサルモノニ在テハ之ヲ免除スルコトアルヘシ

使用料ハ知事之ヲ定ム

第五條　使用料ハ其ノ年度ニ屬スル分ヲ其ノ年度ノ初ニ於テ徵收ス

新規ニ使用ヲ許可シタル場合ハ許可ノ月ヨリ月割ヲ以テ其ノ年度ニ屬スル分ヲ即時徵收ス

一箇月ニ滿タサル一時ノ使用ニ在リテハ日割ヲ以テ徵收ス

既納ノ料金ハ知事ニ於テ正當ノ理由アリト認メタル場合ノ外之ヲ還付セス

第六條　許可ヲ受ケタル者ニ於テ工事ニ著手シ又ハ工事ヲ竣功シタルトキハ其ノ旨書面ヲ以テ土木派出所ニ屆出テ其ノ監督又ハ檢査ヲ受クヘシ

第七條　許可ニ因リテ生スル權利義務ハ知事ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

相續人ニ於テ被相續人ノ使用權ヲ承繼セムトスルトキハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ戸籍抄本又ハ市町村長ノ身分證明書ヲ添ヘ知事ニ屆出ツヘシ

第八條　許可ヲ受ケタル者ハ其ノ使用期限内其ノ使用スル道路、竝木敷、堤防ヲ保護シ又ハ使用ニ因リテ生シ若ハ生セムトスル危害ヲ防止若ハ豫防スルノ義務アルモノトス

第九條　使用期限中ト雖左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築、變更セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命スルコトアルヘシ

一、許可ヲ受ケスシテ使用ノ目的又ハ其ノ方法ヲ變更シタルトキ

二、本規程又ハ許可ニ附シタル條件ニ違背シタリト認ムルトキ

三、使用ニ因リ他ニ障害ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル虞アルトキ

四、公益上其ノ他許可後ノ事實ニ依リ必要ヲ生シタルトキ

第十條　許可ヲ受ケタル者ニ於テ本規程又ハ許可ノ條件ニ基キテ發スル命令ノ義務ヲ履行セサルトキハ知事ハ代テ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第十一條　本規程又ハ許可ノ條件ニ基キテ發スル命令ニ從ヒ許可ヲ受ケタル者ノ履行スヘキ義務ノ爲ニ生スル費用及前條ノ費用ハ總テ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス之カ爲許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

附　則

第十二條　本規程ハ大正三年六月十五日ヨリ施行ス

本規程施行以前ニ使用ノ許可ヲ受ケタルモノハ本規程ニ依リ許可シタルモノト看做ス

第十三條　本規程ハ河川法ヲ施行シ又ハ同法ノ規定ヲ準用シタル河川ノ堤防ニ之ヲ適用セス

●堤塘道路竝木敷ノ木竹賣拂代及使用料竝多摩川ノ川敷又ハ水面使用料

（明治三十七年四月十九日訓令第十八號）

郡役所　市役所

明治三十七年三月神奈川縣令第二十六號ヲ以テ改正セル委任條件中堤塘道路竝木敷ノ木竹賣拂代及使用料竝多摩川ノ川敷又ハ水面占用料、使用料及同川ノ生産物賣拂代徴收ニ付テハ左ノ通心得ヘシ

第一條　堤塘道路竝木敷ノ竹木及多摩川ノ生産物賣拂代ハ其ノ役所ヲ經由シテ拂受人ニ交付スル本縣指令又ハ内務部ノ通牒ニ依リ之ヲ徴收スヘシ

第二條　堤塘道路竝木敷地ノ使用料多摩川ノ川敷（堤塘ヲ包含ス）又ハ水面占用料、使用料ハ其ノ役所ヲ經由シテ願人ニ交付スル本縣指令ニ記載スル納入期間内ニ其ノ全額若ハ年額ヲ徴收スヘシ

第三條　第一條ノ賣拂代第二條ノ使用料占用料ノ各收入科目ハ左ノ如シ

一　各郡内國道道路竝木敷地ノ竹木賣拂代ハ市郡部歳入雜收入ノ款物品賣拂代ノ項竝木枯損木賣拂代ノ目

二　市内國道道路竝木敷地ノ竹木賣拂代ハ市部歳入雜收入ノ款物品賣拂代ノ項道路竹木賣拂代ノ目

三　各郡内假定縣道道路竝木敷地、縣費支辨里道及堤塘ノ竹木賣拂代ハ郡部歳入雜收入ノ款物品賣拂代ノ項堤塘道路竹木賣拂代ノ目

四　多摩川ノ生産物賣拂代ハ郡部歳入雜收入ノ款物品賣拂代ノ項河川生産物賣拂代ノ目

五　各郡内國道道路竝木敷地ノ使用料ハ市郡部歳入雜收入ノ款使用料ノ項竝木敷使用料若ハ道路敷使用料ノ目

六　各郡内假定縣道道路竝木敷地縣費支辨里道及堤塘使用料多摩川ノ川敷（堤塘ヲ包含ス）又ハ水面占用料、使用料ハ郡部歳入雜收入ノ款使用料ノ項堤塘使用料若ハ道路敷使用料又ハ竝木敷使用料若ハ河川使用料ノ目

七　市内國道道路竝木敷地假定縣道道路敷地ノ使用料ハ市部歳入雜收入ノ款使用料ノ項道路敷使用料若ハ竝木敷使用料ノ目

二目以上記載アル五號六號七號ノ使用料占用料ハ使用若ハ占用地ノ地目相當ノ目ニ區分シテ取扱フヘシ

●地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷ノ使用收益ニ關スル件

（明治三十年十月三十一日訓第二五五號）

某郡役所　市役所

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路竝木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル市町村ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

前項堤塘道路竝木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル市町村ノ收入ニ屬スヘシ

右訓令ス

（別紙）

●官有堤塘道路等ノ竹木伐採認可申請方

（明治三十二年五月二日訓令第十三號）

郡役所

町村ニ於テ地盤ノ官有ニ係ル堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木ヲ伐採セムトスルトキハ自今其ノ町村ヨリ豫メ所在地名地目品目員數目通枝下及事由等ヲ詳記シ所在地及近接地ヲ明示セル圖面ヲ添付シ當廳ニ差出シ認可ヲ請ハシムヘシ

●宿驛町村里程標杭建設方

●明治十九年三月十九日布達乙第七十三號

郡〔區〕役所　〔戸長〕役場

宿驛町村里程標杭建設ノ儀ハ明治九年七月第百八十五號及同十年八月乙第百五十號ヲ以テ相達置候處未タ設立セサル个所有之趣ニ付別紙雛形ニ準シ此際普ク設立スヘシ

但現今建設アル分ハ漸次改設ノ時ヨリ本文雛形ニ準スヘシ

裏面

某國某郡某村標杭ヘ何里何十何町何間何尺

某國某郡某町標杭ヘ何里何十何町何間何尺

某國某郡某宿同上

某國某郡某驛同上

（近傍宿驛其他有名ノ地エノ距離ヲモ記スヘシ）

標杭寸角ハ舊標ニ倣フ（舊標ハ凡四寸角地上七尺程）

表面　神奈川縣廳ヘ何里何十何町何間何尺　某國某郡某町村

東京鎮臺ヘ何里何十何町何間何尺　佐倉營所ヘ同上
高崎兵營ヘ同上

●明治二十二年五月十五日訓令甲天第二十二號　郡役所

本年三月縣令第九號ニ依リ合併セシ新町村里程標ノ儀ハ其町村役場設置ノ大字地内便宜ノ場所ニ建設セシムヘシ

但建設整頓ニ至ルマテハ町村役場所在ノ舊町村里程標ニ依リ新町村ノ里程ヲ算スル儀ト心得ヘシ

●橋船渡場取締規則

（明治十四年十二月十四日布達甲第二百四十二號）

（沿革）明治三四年縣令第三〇號改正

橋船渡場取締規則別冊ノ通改定來ル明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但明治十二年十二月甲第二百二十號同十三年四月甲第六十九號布達ハ同日限リ廢止トス

（別冊）

橋船渡場取締規則

第一條　橋梁ヲ架シ又ハ船渡徒歩越等ノ業ヲ開キ其賃錢ヲ領收スル渡場ハ必ラス此ノ規則ヲ遵守スヘシ

第二條　渡場ニハ此ノ規則竝ニ賃錢表ヲ行旅ノ見易キ場所ヘ掲示スヘシ其渡場懸隔ノ場所ニ於テ賃錢ヲ領收スルモノハ其領收所ヘモ之ヲ掲示スヘシ

但賃錢表掲示牌ニハ必ラス縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條　賃錢表掲示牌水火盜難誤毀等ニ係ハル節ハ更ニ之ヲ調製シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ速ニ書換ヘ檢印ヲ出願スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ其事由ヲ記シ假ニ賃錢表ヲ掲示シ置クヘシ

第四條　持場巡回ノ警部巡査及ヒ軍隊隊伍ヲ組ミ行進ノ節ヲ除クノ外何人ニ依ラス賃錢掲示牌ニ記載シアル賃錢ヲ其通行ノ都度收入シ得ルト雖モ酒手等無謂種々ノ名義ヲ作爲シ賃錢外ノ金錢ヲ請求スルヲ得ス

第五條　總テ賃錢受取方ハ可成速ニシ夫レカタメ時間ヲ費サシムヘカラス

第六條　渇水等ノ節故ラニ人馬ノ步渉ヲ拒ミ强テ橋船等ニ據ラシムル如キ所爲アル可カラス

第七條　定額ノ賃錢ヲ受取リタル上ハ假令一人タリトモ速ニ越渡ヲ爲ス可シ多人數ニイタル迄行旅ヲ留メ置クヘカラス

第八條　渡津ノ水際ニハ尺度ヲ盛リタル水量杭ヲ建設シ豫テ平水ヨリ川止ニ至ル迄ノ水量ヲ明瞭ニ記載シ置キ自他ノ標識ニ便ナラシムヘシ

第九條　出水又ハ暴風雨ノ節ハ其度ヲ量リ通行ヲ止メ旅客ヲシテ危險ニ陷ラシム可カラス

第十條　此規則ニ違背スルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

●渡津橋梁開設出願書式

（明治十三年五月十日布達甲第八十六號）

橋梁ヲ架シ又ハ渡津ヲ開クノ業ヲ爲サントスル者出願心得方ニ付明治十二年十二月甲第貳百貳拾壹號ヲ以布達及ヒ置候處今般出願書式左ノ通リ相定候條自今右ニ準據可致此旨布達候事

渡津橋梁開設出願書式

（本、假、橋架渡）又ハ〔（渡船）〕（徒步越）開設願

何國何郡區何町村何々河川又ハ湖海

橋巾及橋長

一川巾　何百何十間〔（海路ノ渡船ニアッテハ其凡ソノ里數ヲ海里ニ據テ記ス可シ）〕

航路

右ハ何國何郡〔區〕何町村ヨリ何國何郡〔區〕何町村ヲ經テ何々地ニ達スヘキ何々街道又ハ何々道數所ニ達スヘキ地ナラハ其重ナル道筋ヲ主記ス可シ

ニ係ル（河）（川）（湖）（海）ニ候處何々其架橋又ハ渡津ノ開設ヲ要スル事由ヲ詳細明瞭ニ付（架橋）〔（渡船）〕（徒步越）ノ業（私共町村協力）（私費）ヲ以開設ノ上右入費償却ノ爲メ別紙ノ通リ（橋錢）（渡錢）請求仕度尤モ從來架橋渡船徒步越等ノ慣行有レハ明瞭ニ記スヘシ

候間御許可被成下度別紙架橋ナラハ仕樣及方法書渡津ナラハ船ノ大小渡津ノ方法等都テ十二年本縣甲第貳百貳拾壹號布達ニ示シタル箇條ヲ相添此段奉願候也

洩ナク列記シタル者

何國何郡〔區〕何町村

何拾何番地　何之誰印

又ハ

惣代人　何之誰印

何之誰印

何之誰印

年　月　日　〔戸長〕何之誰印

神奈川〔縣令〕某殿

一本文壹町村若シクハ數町村組合同願スル者ハ壹町村ニ三名以上ノ者連署スヘシ又渡津所在地元町村外ノ者若シクハ一個人ヨリ出願セントスル者ハ必ラス本項ニ準シ其地元町村惣代人ノ連署ヲ要ス可シ

一同河川又ハ湖海ニテ近傍ノ土地ニ賃錢ヲ要スル架橋又ハ

渡津アルモノハ其許可ヲ得タル者若シクハ町村惣代人ノ連署ヲ要スヘキ事

一(戸長)ハ架橋若シクハ渡津ヲ要スル地元及出願ノ町村又ハ出願人ノ居住地共皆ナ連署スヘキ事

●私設道路橋梁渡津賃錢請求不相成件

●明治十九年四月五日布達甲第四十六號

人民私設ニ係ル道路橋梁渡津等制服ヲ著用シタル警察官巡査及囚人護送ノ看守長看守押丁竝其囚人ハ賃錢請求相成ラス右布達ス

●明治二十一年十二月二十八日訓令甲天第二十七號

郡役所

人民私設ノ橋梁渡津及ヒ道路等ニ於テハ左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者ニ對シ賃錢請求不相成ニ付此旨免許人ヘ示達スヘシ

印鑑雛形

二寸五分

第　號

何國
何地郵便電信(電信)局集配人
○何ノ誰

●明治二十四年六月十五日訓令甲第五十七號

郡役所

賃錢又ハ使用料ヲ要求スル道路橋梁渡津ニ於テハ左ノ印鑑携帶ノ者ニ對シ請求不相成ニ付此旨關係者ヘ示達スヘシ

○明治年月日

何國
何地
郵便電信
(電信)局

曲尺二寸

第　號

何國
何地電信取扱所配達人
○何ノ誰

○明治年月日

何國
何地
電信
取扱所

第九類

社寺

第一章　祭式、禮拜
第二章　設備、營繕、會計
第三章　財產
第四章　興廢
第五章　神職
第六章　氏子、檀家、信徒
第七章　雜則

第九類　社寺

第一章　祭式、禮拜

●縣社以下神社祭式行事作法準據方

（明治四十年七月三十日告示第百五十號）

縣社以下神社祭式行事作法ハ明治四十年六月內務省告示第七十六號ニ準據シ執行スヘシ

●國幣社例祭ノ節供進スヘキ神饌幣帛料

（明治四十四年四月十四日達第二十八號）

國幣社例祭ノ節供進ノ幣帛料神饌料本年四月一日ヨリ左ノ通リ改定ス

國幣中社	金四拾圓	金貳拾八圓
國幣小社	金參拾圓	金貳拾圓
		金拾貳圓
		金拾圓

幣帛料
神饌料
同
同

●神饌幣帛料ヲ供進スヘキ神社指定

●明治四十年四月二日告示第六十九號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スヘキ縣社左ノ通之ヲ定ム

神奈川縣橫濱市宮崎町
縣社　皇太神宮
神奈川縣鎌倉郡川口村江ノ島
縣社　江嶋神社
神奈川縣中郡大山町大山
縣社　阿夫利神社
神奈川縣足柄下郡小田原町
縣社　松原神社
縣社　大久保神社
縣社　報德二宮神社
神奈川縣足柄下郡元箱根村
縣社　箱根神社

●明治四十年四月三十日告示第九十二號

（沿革）明治四一年九月告示第二四二號、同年一一月同第三一〇號、四二年一〇月同第二一八號、四三年四月同第一〇六號、同年一一月同第三三九號、四五年五月同第一三九號改正

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スヘキ鄕村社左ノ通之ヲ定ム

神奈川縣橫濱市神奈川町

郷社　熊野神社
神奈川縣同　市青木町　洲崎大神
同　縣久良岐郡六浦莊村三分　瀬戸神社
同　縣橘樹郡川崎町堀ノ内　稲毛神社
同　縣同　郡旭村師岡　熊野神社
同　縣三浦郡三崎町海南　海南神社
同　縣中郡吾妻村山西　川匂神社
同　縣同　郡大磯町高麗　高來神社
同　縣同　郡國府村國府本郷　六所神社
同　縣同　郡平塚町平塚新宿　八幡神社
同　縣足柄上郡南足柄村苅野　矢倉神社
同　縣愛甲郡厚木町　厚木神社
同　縣同　郡荻野村上荻野　荻野神社
同　縣同郡中津村八菅山　八菅神社
同　縣中郡大野村四之宮　前鳥神社
同　縣足柄上郡中井村遠藤　八幡神社
同　縣三浦郡浦賀町走水　走水神社
同　縣中郡比々多村三ノ宮　比々多神社
同　縣足柄上郡曾我村上大井　三嶋神社
同　縣同郡松田村松田總領　寒田神社
同　縣足柄下郡眞鶴村宮ノ前　貴船神社
同　縣橘樹郡向丘村平　白幡八幡大神
同　縣足柄下郡下曾我村曾我谷津　宗我神社
同　縣高座郡海老名村上郷河原口入會地　社

同　有鹿神社
同　縣足柄下郡下中村小船　白髭神社
同　縣横濱市羽衣町二丁目村社　厳島神社
同　縣同　市西戸部町　杉山神社
同　縣横須賀市諏訪　諏訪社
同　縣橘樹郡大師河原村大師河原　八幡神社
同　縣三浦郡浦賀町宮下　叶神社
同　縣同　郡葉山村堀内　森戸社
同　縣同　郡南下浦村上宮田　諏訪社
同　縣鎌倉郡藤澤大富町西富　諏訪社
同　縣同　郡永野村永谷　天神社
同　縣高座郡鶴嶺村濱ノ郷　鶴嶺八幡社
同　縣同　郡溝村上溝　亀ヶ池八幡社
同　縣同　郡茅ヶ崎村　八王子神社
同　縣同　郡鶴沼村　皇大神宮
同　縣同　郡藤澤大坂町　白旗神社
同　縣中郡大磯町西小磯　白岩神社
同　縣同　郡平塚町平塚　春日神社
同　縣同　郡大田村小稲葉　八幡神社
同　縣同　郡伊勢原町　神明社
同　縣同　郡高部屋村上粕屋　比々多神社
同　縣足柄上郡川村川村山北　室生神社
同　縣足柄下郡小田原町十字　居神神社
同　縣同　郡芦子村谷津

同　大稲荷社
神奈川縣愛甲郡小鮎村飯山
同　龍蔵神社
同　縣津久井郡與瀬驛
同　與瀬神社
同　縣同　郡川尻村川尻
同　八幡神社
同　縣横濱市中村町
同　八幡宮
同　縣三浦郡長井村荒井
同　熊野神社
同　縣同　郡浦賀町新井
同　叶神社
同　縣鎌倉郡鎌倉町大町
同　八雲神社
同　縣同　郡同町長谷
同　神明社
同　縣橘樹郡子安村子安
同　一之宮神社
同　縣三浦郡葉山村一色
同　森山社
同　縣中郡秦野町上大槻
同　菅原神社
同　縣鎌倉郡鎌倉町坂ノ下
同　御靈社
同　縣三浦郡浦賀町鴨居
同　八幡神社
同　縣同　郡久里濱村八幡久里濱
同　住吉社
同　縣同　郡中西浦村芦名
同　十二所神社
同　縣同　郡中西浦村秋谷
同　神明社
同　縣横須賀市公郷
同　春日神社
同　縣同　市不入斗
同　御嶽社
同　縣愛甲郡玉川村七澤
同　七澤神社
同　縣横濱市青木町
同　大綱神社

●明治四十五年七月二日告示第二百十號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ郷、村社左ノ通之ヲ定ム

足柄下郡足柄村久野
郷社　神山神社
高座郡海老名村國分
村社　彌生神社

●大正元年九月十日告示第四十九號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ郷社左ノ通リ之ヲ定ム

高座郡御所見村打戻
郷社　宇都母知神社

●大正元年十一月一日告示第百五號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通リ之ヲ定ム

愛甲郡依知村山際
村社　山際神社

●大正二年二月十四日告示第三十八號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

中郡神田村大神
村社　寄木神社

●大正二年三月十一日告示第六十一號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

久良岐郡金澤村富岡
村社　八幡大神社
同　郡日下村日野
村社　春日神社

●大正二年五月六日告示第百二十號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

中郡成瀬村下糟屋
村社　高部屋神社

●大正二年五月二十日告示第百三十二號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

久良岐郡六浦莊村釜利谷
村社　手子明神社
同郡日下村笹下
村社　天照太神

●大正二年六月十日告示第百四十六號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

中郡大根村眞田
村社　眞田神社

●大正二年七月八日告示第百五十七號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

久良岐郡屏風浦村森
村社 淺間神社
同郡金澤村野島
村社 稲荷神社
同郡同村町屋
村社 町屋神社
同郡日下村栗木
村社 上笹下神社
都筑郡新田村吉田
村社 若雷神社

●大正二年八月十二日告示第百七十七號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

鎌倉郡鎌倉町亂橋材木座
村社 五所神社
三浦郡三崎町諸磯
村社 神明社

●大正二年九月二十三日告示第百九十五號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

中郡大根村南矢名
村社 八幡神社

●大正二年九月三十日告示第二百號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

都筑郡柿生村黒川
村社 汁守神社

●大正二年十一月二十八日告示第二百三十五號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

三浦郡久里濱村内川新田
村社 天神社

●大正二年十二月十九日告示第二百四十四號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通之ヲ定ム

橘樹郡保土ケ谷町神戸
村社 神明社

●大正三年一月十六日告示第八號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコ

トヲ得ヘキ神社左ノ通之ヲ定ム

三浦郡西浦村長坂
村社 祖母神社

○大正三年六月二十三日告示第八十七號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ村社左ノ通リ之ヲ定ム

都筑郡新治村榎下字西ノ前
村社 神明神社

●大正三年七月二十八日告示第百七號

明治三十九年勅令第九十六號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社左ノ通之ヲ定ム

高座郡座間村座間入谷
郷社 鈴鹿明神社
都筑郡中川村大棚
郷社 杉山神社

●神饌幣帛料供進使ノ件

（明治四十四年九月二十二日訓令第四十六號）

郡役所 市役所 町村役場

明治三十九年四月勅令第九十六號及同年六月内務省令第二十號ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スル場合ニ於テハ郡長、市長、町村長幣帛供進使トシテ參向スル儀ト心得ヘシ但シ其ノ代理者ヲシテ參向セシムルコトヲ妨ケス

明治四十年二月神奈川縣訓令第十一號ハ之ヲ廢止ス

●幣帛供進使隨員服制

（大正二年三月二十八日訓令第二十五號）

郡役所 市役所 町村役場

幣帛供進使隨員（判任官ヲ除ク）服制左ノ通定ム

衣冠

冠	垂纓	袍	縫	腋	浅沓
掛緒	紙捻	單			
黒羅遠文	黄平絹裏ナシ	紅平絹	白布裏同色平絹	襟	沓敷白平絹

布衣（衣冠代用）

烏帽子	袴	衣	袴	浅沓
掛緒紙捻	布				

風 折 布裏ナシ 白 布 襟 杳敷白平紐

備考 布衣ヲ以テ衣冠ニ代フル場合ニハ笏ヲ末廣ニ履ヲ草履ニ代フルコトヲ得

附則

本令ニ依リ難キモノハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

●寺院佛像他管持出開帳ノ件

（明治十七年三月二十四日 布達第十四號）

明治九年六月教部省第四號布達廢止相成候條自今寺院佛像他管持出開帳ノ儀ハ該寺住職檀家總代無檀家ノ寺院ハ信徒總代及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳ヘ出願可致此旨布達候事

但寶物持出ハ不相成儀ト心得ヘシ

●自祭ノ神祠佛堂參拜停止ノ件

（明治十年一月八日 布達第一號）

從來人民私邸内等ニ自祭スル神祠佛堂ヘ衆庶參拜爲致候向モ有之自、一般社寺同樣之姿ニ相成不都合候條自今總テ參拜可差停候尤其建物等更ニ信向人共有ノ筋ヲ以尙參拜ノ儀願出候ハヽ永續方法竝〔神官〕僧侶ノ受持等夫々取調來ル三十一日迄ニ可願出右ハ教部省達ニ付此旨布達候事

但從來願濟ノ分ト雖モ建物等一己私有ニ屬スル向ハ本文ニ準シ詳細取調處分方可伺出事

第二章 設備、營繕、會計

●縣社以下神社設備竝會計規程

（明治四十年十二月二十四日 訓令第四十九號）

（沿革）明治四一年九月訓令第五五號改正

郡役所 市役所 町村役場

縣社以下神社設備竝會計規程左ノ通之ヲ定ム

縣社以下神社設備竝會計規程

第一條 縣社、鄕社、村社、ニハ第二條乃至第五條ノ設備ヲナサシムヘシ

第二條 神社ニハ左ノ建物ヲ具備スルヲ要ス

一 本殿
二 拜殿
三 鳥居

第三條 本殿及拜殿ハ左ノ建坪ヲ下ルコトヲ得ス

本殿		
縣社	二坪	
鄕社	一坪	
村社	一坪	
拜殿		
縣社	八坪	
鄕社	六坪	
村社	五坪	

第四條 境内ハ左ノ坪數ヲ下ルコトヲ得ス

縣社	三百坪
鄕社	二百坪
村社	百五十坪

第五條 神社ニハ維持ノ爲メ左記各號ノ基本財産ヲ蓄積セシムルヲ要ス

縣社 年額百五十圓以上ノ收入アル動産又ハ不動産
鄕社 年額百圓以上ノ收入アル動産又ハ不動産
村社 年額五十圓以上ノ收入アル動産又ハ不動産

第六條 縣社鄕社村社ニハ明治四十一年七月内務省令第十二號第八條及第十二條ニ依リ別紙樣式ノ收入支出豫算竝決算及資金明細書ヲ調製セシムヘシ

前項豫算及決算ハ必ス氏子總代若ハ崇敬者總代會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

第十條 明治四十一年七月内務省令第十二號ニ依ル會計帳簿ハ左ノ種類ニ分チ別紙樣式ニ依リ整理セシムヘシ但シ必要ニ應シ補助簿ヲ設ケシムヘシ

一 資金出納簿
一 經費出納簿
一 收入日計簿

第八條 郡市長ハ隨時神社ノ財産及其ノ會計ヲ調査セシムヘシ

附則

第九條 本規程第二條乃至第五條ニ適合セサル神社ニアリテハ明治四十一年六月三十日限之ヲ完成セシムヘシ但シ期限内ニ完成スルコト能ハサル神社ニアリテハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ許可ヲ受ケシムヘシ

第十條 縣社以下ノ神社ニシテ明治四十一年七月内務省令第十二號第三章會計ニ關スル規定ヲ實施シ難キ特別ノ事由アルモノハ知事ノ許可ヲ得テ當分ノ内之ヲ延期スルコトヲ得

明治何年度收入支出豫算表

何郡市町村大字

社格 何 神 社

收入

科目	前年度豫算額	本年度豫算額	備考
第一款 財産ヨリ生スル收入			
一 土地ヨリ生スル收入			
二 有價證券利子			
三 預金利子			
四 何々			
第二款 神饌幣帛料			
一 神饌料			
二 幣帛料			
第三款 社入金			
一 賽錢			
二 神符守札料			
三 新禱料			
四 境内使用料			
五 枯損木代賣却			

科目	前年度豫算額	本年度豫算額	備考
六 不拂下用品代			
七 何々			
第四款 寄付金			
一 社殿建築寄付金			
二 何々			
第五款 前年度繰越高			
一 前年度繰越金			
合計			
支出			
第一款 祭典費			
一 神饌品			
二 器具			
三 雜用品			
四 備人料			

五雜費

第二款 俸給

一 社司社掌俸給

二 雇員俸給

第三款 手當

一 社司社掌手當

二 雇員手當

第四款 分配金

一 社司社掌分配金

二 雇員分配金

第五款 旅費

一 社司社掌旅費

二 雇員旅費

第六款 社務所費

一 神符守札調製費

二 備品費

三 筆墨紙文具費

四 圖書及印刷費

五 消耗品費

六 通信運搬費

七 雜費

第七款 諸稅金

一 諸稅金

第八款 蓄積金

一 基本財産蓄積金

第九款 營繕費

一 新營費

二 修繕費

第十款 環備費

一 環備費

合計				

備考

一備考欄ヘハ收入支出トモ其算出ノ基ク處ヲ略記スヘシ

一豫備費ハ豫算ノ不足又ハ豫算外支出ヲ要スルトキノ費途ニ充ツルモノトス但シ會議ニテ否決シタル費途ニ使用スルコトヲ得ス

一豫算ノ各項ハ必要ニ應シ神社限リニテ增減スルコトヲ得款ノ增設ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一決算表樣式ハ豫算表中豫算トアルヲ決算ト改メ使用スヘシ

（例）

永代祈禱料（基本財産）明細書

郡市町村大字、字番地　社格　何神社

預金ノ部　明治四十一年四月一日何郵便局ヘ預金現在

一金何圓也　明治四十年四月一日現在

内　金何圓也　明治四十年中ノ利子組入（又ハ何々收入）

金何圓也　明治四十一年三月十日何公債額面百圓分當籤ニ付收入

外　金何圓也　明治四十一年二月十日何公債額面百圓券一枚買入ノ爲メ支出

有價證券ノ部　明治四十一年四月一日何郵便局ヘ保管委託現在

一額面金何圓也

内　額面金何圓也　明治四十年四月一日現在

額面金何圓也　明治四十一年二月十日何公債額面百圓券一枚何圓ニテ買入

外　額面金何圓也　明治四十一年三月十日何公債額面百圓ノ分當籤

總計金何圓也

右報告候也

明治　年　月　日

知事宛

右社　神職及氏子總代連署

市町村長奥書證印

備考

一用途指定ノ寄付金（永代祈禱料、燈油料）竝ニ基本財産ハ其ノ種類ノ異ナル毎ニ格別ニ調製スヘシ

一現金ハ必ス預金亦ハ有價證券トナスヘシ

明治何年度（有價證券ノ部ニ在リテハ年度ノ記入ヲ要セス）

資金出納簿

（永代祈禱料預金ノ部）

（基本財産預金ノ部）

社格　何神社

（例）

明治何年度永代祈禱料（基本財産）出納簿

預金ノ部

年月日	摘要	受	拂	殘
明治四十一年四月一日	前年度越高	壹〇〇〇圓〇〇〇	圓一	壹〇〇〇圓〇〇〇
同 六月一日	何公債百圓ニ對スル利子受入	五〇〇〇	一	壹〇五〇〇〇
同 六月二日	經費ニ支出		五〇〇〇	壹〇〇〇〇〇〇

（例）

永代祈禱料（基本財産）有價證券出納簿

年月日	摘要	種類	番號	額面	保管箇所	備考
明治四十一年三月一日	買入	整理	い六六	百圓	中央金庫	何圓ニテ買入
同	同	同	い六七	百圓	同	同
同	同	軍事	ろ五五	百圓	同	同

明治四十一年三月三十一日	計	三枚	三百圓

備考

一本簿ハ年度毎ニ改調ヲ要セス

一證券ハ一枚毎ニ記入スヘシ

一賣却又ハ當綴シタルトキハ備考欄ニ其旨記入シ朱ノ二線ヲ以テ抹消スヘシ

一買入ハ追次記入シ毎年三月三十一日ノ現在高ノ計ヲ記入スヘシ

一用途指定寄付金（永代祈禱料、燈油料）基本財産ハ其ノ種類ノ異ナル毎ニ格別ニ調製スヘシ

明治何年度

經費出納簿

社格

何神社

（例）

何年度經費出納簿

総計ノ部

年月日	摘要	受	拂	殘
四十一年二月十日	豫算決定額	壹五參八〇〇		
同四十一年三月十日	祭典費外二項支出		參五〇〇	壹五〇參〇〇〇
	四月分合計	壹五參八〇〇	參五〇〇	壹五〇參〇〇〇

備考

一本簿ハ各款ニ付テノ支出ノ總計ヲ掲記スヘキモノナリ而シテ月計及累計ヲ付スヘシ

（例）

祭典費

年月日	摘要	受	拂	殘
四十一年二月十日	豫算決定額	一〇〇〇〇〇		一〇〇〇〇〇
四十一年四月三十日	三寶十臺新調代何某ヘ支拂		五〇〇〇	
同	日供用米、醬、蔬菜代何某ニ支拂		二〇〇〇	九三〇〇〇
	四月分合計	一〇〇〇〇〇	七〇〇〇	九三〇〇〇

備考

一支出豫算表ニ示セル各款毎ニ口座ヲ設ケ本表ノ例ニ依リ記入スヘシ

一各項毎ニ支拂一件ニ付テノ物品、數量、渡先ヲ記入シ其上部ニ項ノ符號ヲ付スヘシ而シテ二件以上ノ支拂アルトキハ日計ヲ付シ月計及累計ヲ付スヘシ

明治何年度

收入日計簿

社格

何神社

（例）

明治何年度收入日計簿

総計ノ部

年月日	摘要	金額
明治四十一年四月一日	賽錢外何廉	壹五圓〇〇〇
同 二日	同	壹〇〇〇〇
	計	貳五〇〇〇
同 三日	賽錢外何廉	壹八〇〇〇

		計				四〇〇〇	

備考

本簿ハ各款ニ付テノ收入總計ヲ掲記スヘキモノニシテ通計及月計ヲ付スヘシ

(例)

社入金ノ部

年	月	日	摘要	金額			
明治四十一年	四月	一日	賽錢	五圓〇〇〇			
同			祈禱料	貳〇〇〇			
			計	七〇〇〇			

備考

一收入豫算表ニ示セル款毎ニ口座ヲ設ケ本表ノ例ニ依リ記入スヘシ

一摘要ヘハ同一款中ノ項ノ合計ヲ記入スヘシ

一二廉以上アルトキハ日計ヲ付シ通計、月計ヲモ付スヘシ

●社寺營繕ニ關スル規則

(明治四十二年七月十六日 縣令第五十九號)

社寺營繕ニ關スル規則左ノ通之ヲ定ム

社寺營繕ニ關スル規則

第一條 神社官國幣社ヲ除及寺院佛堂ヲ含ム以下同シ以下同シ ハ建物又ハ工作物ノ新築、改築、增築ヲ爲サムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項願書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

一 建物又ハ工作物ノ名稱、間數

二 工事ヲ要スル理由

三 工事ヲ施スヘキ地番

四 設計書

五 工事著手及竣工豫定年月日

六 工費豫算額及其支途

七 圖面境內又ハ境外ノ圖中ニ建物又ハ工作物ノ正面、側面、平面ヲ見ルニ足ルモノヲ要ス

八 新築、改築、增築ヲナス場合ニ於テ從來ノ物件ヲ處分スルトキハ其ノ處分方法賣却スルトキハ賣却代金及該金處分方法

第二條 神社及寺院ハ建物特別保護建造物ハ之ヲ除ク又ハ工作物ノ修繕ヲ爲サムトスルトキハ所轄郡市長ノ許可ヲ受クヘシ

前項願書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

一 修繕ヲ要スル建物又ハ工作物ノ名稱

二 修繕ヲ要スル理由

三 設計書

四 工事著手及竣工豫定年月日

五 工費豫算額及其支途

六 圖面爲一條第七圖面ニ同シ

七 修繕ノ爲從來ノ物件ヲ處分スルトキハ其方法賣却スル却代金及該金處分方法

第三條 神社及寺院ハ建物又ハ工作物ノ撤廢ヲ爲サムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

前項願書ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

一 撤廢ヲ要スル理由

二 撤廢ヲ要スル理由

三 撤廢著手及終了豫定年月日

四 撤廢物件ノ處分方法賣却スルトキハ賣却代金及該金處分方法

第四條 神社寺院ノ爲第三者ニ於テ前各條ノ作業ヲ爲サントスルトキハ知事若ハ所轄郡市長ノ許可ヲ受クヘシ

前項願書ニ記載スヘキ事項ハ前各條ニ依ルノ外神社ニ在リテハ神職、寺院ニ在リテハ住職ノ連署ヲ要ス

第五條 前各條ニヨリ許可ヲ受ケタル工事竣工又ハ撤廢終了シタルトキハ二週間以內ニ知事若ハ郡市長ニ届出ツヘシ

第六條 神社及寺院ハ建物又ハ工作物ノ滅失シタルトキハ二週間以內ニ其ノ理由ヲ詳具シ知事ニ届出ツヘシ

附則

本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●官國幣社會計規程

(明治四十五年七月九日 達第七十八號)

官國幣社會計規則ニ關スル規程左ノ通リ改正シ本年七月一日ヨリ施行ス

官國幣社會計ニ關スル規程

第一條 官國幣社神職及雇員(名譽職及臨時雇員ヲ除ク)ニハ手當トシテ

毎月社入金（豫備資金及營繕費ヲ控除シタル殘金）高ノ十分ノ四ヲ支給ス但シ其ノ分割歩合左ノ如シ

鎌倉宮	宮司	百分ノ四十
	禰宜	百分ノ三十
寒川神社	主典	百分ノ二十五
	雇	百分ノ五
鶴岡八幡宮	宮司	百分ノ三十一
	禰宜	百分ノ二十四
	主典	百分ノ四十（二人分）
	雇	百分ノ五

第二條　前條手當金ハ翌月五日限リ支給ス其ノ方法俸給ノ例ニ依ル

第三條　一廉金拾圓以上ノ物品ヲ購入セムトスルトキハ見積書ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　宿直料ハ一直金七錢トシ翌月五日限リ支給スルモノトス但シ經費ノ都合ニ依リ之ヲ支給セサルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ其ノ旨知事ニ屆出ツヘシ

●官國幣社神職旅行及旅費ニ關スル規程

（明治四十四年一月三十一日 達第四號）

官國幣社神職旅行及旅費ニ關スル規程左記ノ通改定シ本月十二日ヨリ之ヲ施行ス

官國幣社神職旅行及旅費ニ關スル規程

第一條　官國幣社神職ノ出張ハ宮司ニ在リテハ知事ノ許可ヲ受ケ禰宜、主典、雇員ニ在リテハ宮司之ヲ命スヘシ

私事旅行ハ宮司ニ在リテハ知事ノ許可ヲ受ケ禰宜、主典、雇員ニ在リテハ宮司ノ許可ヲ受クヘシ但シ左ノ場合ハ宮司ハ知事ニ屆出ツヘシ

一賜暇中私事旅行

一忌引中歸省

一父母ノ病氣看護歸省

第二條　前條ノ許可申請及屆書ニハ事由日數地名等ヲ詳記スヘシ

第三條　宮司、禰宜、主典、雇員ノ旅費ハ別表甲號ノ額ニ依ル

第四條　宮司、禰宜、主典赴任ノ場合ニ於テハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル里程ヲ計算シ別表乙號ノ額ニ相當スル赴任旅費ヲ支給ス但シ本縣管内ノ神社ニ赴任スル場合ニ於テハ移轉料ハ定額ノ半額トス

赴任旅費ハ本人任地到著ノ後支給スルモノトス

第五條　旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張ニ於ケル滯在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲メ要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩水路旅行ハ百海里陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス

第六條　陸路六里未滿、鐵道四十八哩未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ社務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道ハ八哩、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト見做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第七條　鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ハ各其路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス

通算上一哩、一海里又ハ一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

別表　甲號

區別	鐵道賃 一哩ニ付	船賃 一海里ニ付	車馬賃 一里ニ付	宿泊料 一夜ニ付	日當 一日ニ付
宮司	四錢	五錢	貳拾五錢	壹圓八拾錢	壹圓貳拾錢
禰宜、主典	參錢	四錢	貳拾錢	壹圓貳拾錢	八拾錢
雇員	貳錢參錢	參錢	拾五錢	九拾錢	五拾錢

別表　乙號

區別	鐵道賃 一哩ニ付	船賃 一海里ニ付	車馬賃 一里ニ付	宿泊料 一夜ニ付	日當 一日ニ付	移轉料
宮司	八錢	拾錢	六拾錢	壹圓	壹圓五拾錢	參拾圓
禰宜、主典	六錢	八錢	五拾錢	壹圓貳拾錢	八拾錢	貳拾圓

●社寺觀覽料徴收及寄付金等募集ニ關スル規定

（明治三十四年四月九日 縣令第二十七號）

（沿革）明治三六年縣令第一五號改正

明治三十一年内務省令第六號ニ依リ神社、寺院、祠宇、佛堂、教派、宗派其ノ他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人又ハ團體等ニシテ殿堂、庭園、什寶等ヲ觀覽セシムル爲料金ヲ徴收シ及寄附金又ハ負債募集又ハ他人ヲシテ其ノ募集ニ從事セシメムトスルトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ

第一條　内務省令第六號第二條ニ依リ觀覽セシムル爲料金徴收ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一　觀覽物件ノ名稱、員數及其ノ取締方法
二　觀覽ノ事由
三　觀覽ノ期間
四　觀覽ノ場所但シ圖面ヲ以テ其ノ位置ヲ標示ス
五　觀覽料額
六　觀覽料金徴收及支出ノ方法

第二條　省令第六號第三條第四條ニ依リ寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ願書ニ同第五條規定ノ外尚左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一　募集金保管ノ方法
二　募集金支出豫算及支出ノ方法
三　募集金ヲ工事ノ費用ニ充ツルモノハ其ノ工事設計ノ概要及圖面

第三條　寄附金又ハ負債募集ニ關シ内務大臣ノ許可ヲ受ケタル者本縣管内ニ於テ其ノ募集ニ從事セムトスルトキハ内務大臣ニ提出シタル願書竝許可書ノ寫ヲ添ヘ當廳ニ届出ヘシ但當廳ヲ經由シテ募集ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　省令第六號第七條ニ依リ他人ヲシテ募集ニ從事セシメムトスルトキハ其ノ認可願書ニ寄附金又ハ負債募集願書竝許可書ノ寫ヲ添付スヘシ但シ當廳及當廳ヲ經由シテ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　第三條第四條ニ該當スルモノ募集事項變更ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ願書竝許可書ノ寫ヲ添ヘ直ニ當廳ニ届出ヘシ

第六條　觀覽料徴收又ハ寄附金若ハ負債募集ニ從事スル者ハ許可又ハ認可ニ關スル願書寫及許可又ハ認可書ヲ携帶スヘシ

數箇所ニ於テ同時ニ募集ニ從事スルトキハ前項ノ許可又ハ認可書ハ其ノ謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ在テハ正本ニ依リ謄寫シタル旨ヲ附記シ其ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者署名捺印スヘシ

第七條　寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタル者ハ募集期間終了ノ日ヨリ三十日以内ニ收支清算書ヲ當廳ニ差出スヘシ

附　則

第八條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第九條　明治三十一年八月神奈川縣令第三十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第三章　財産

●神社所有物登錄竝神社印調製ノ件

（明治二十九年九月十五日訓令第五十二號）

（沿革）明治三〇年訓令第三六號改正

郡役所　市役所

一　府縣社以下神社所有ニ係ル版權地所建物國債證券商事會社株券ノ類ニシテ向後新ニ登錄シ若ハ登錄ヲ變更スル場合ニ於テハ渾テ該神社ノ名ニ於テ登錄ヲ請ケシムヘシ

二　前項登錄ヲ請クル神社ニ於テハ神社印ヲ調製シ鄕社以上ニ在テハ社司村社以下ニ在テハ社掌之ヲ保管スルモノトス

三　神社印鑑ハ社司社掌氏子又ハ信徒總代連署シ市ニ在テハ市長ニ届出町村ニ在テハ町村長ニ届出シムヘシ但シ改印シタルトキ亦同シ

四　市町村長ハ印鑑簿ヲ調製シ之ヲ保存スルモノトス

●社寺寶物取扱心得

（明治十三年五月二十一日布達乙第八十七號）

郡（區）役所　（戸長）役場

明治十二年五月乙第百三號ヲ以テ取調候社寺寶物古器物古文書及儲書等其社寺ニ永久保存ノ筈ニ付自今社寺ニ於テ取扱方心得左之通相定候條此旨相達候事

取扱方心得

一　寶物目錄帳記載ノ物品ヲ各地博覽會開帳其他諸會場ニ出品陳列セント欲スル者ハ出願許可ヲ得ヘキモノトス（神官）住職氏子檀家等ニ於テ專扱スルコトヲ得ス

一　會場ニ出品スル書畫類ハ撰筆者畫彩色ノ別ヲ詳記シ器財ハ製作者形狀寸法重量等ヲ載セ（神官）住職氏子檀家總代（戸長）連署ニテ出願スル者トス

一　盜難火災若クハ紛失ノ節ハ速ニ其物品竝ニ事由ヲ明瞭ニ記載シ最寄警察署及本廳ニ届出ツヘシ

一　寄附ノ寶物ヲ增加スルトキハ明治十二年五月内務省乙第二十二號二十三號達書式ニ準據シ正副二通ヲ以テ其都度届出ツヘシ

（神官）住職交替ノ節ハ（戸長）竝ニ氏子檀家總代立會ニテ寶物目錄帳ニ照シ受渡ノ後尚目錄二通ヲ製シ連署ノ上一通ハ其社寺ニ留置一通ハ郡（區）役所ヲ經テ本廳ヘ差出スヘシ

●社寺境内民有地使用及管理方

（明治二十八年四月十六日訓令第十九號）

郡役所　市役所

社寺境内民有地使用及管理ノ方法ハ總テ境内官有地ニ準シ取扱フヘシ

●社寺境內外樹木伐採出願方

（明治十九年十一月二十日訓令甲第三十七號）

郡（區）長

社寺境內外樹木伐採ノ儀ニ付達第八十六號ノ通各（戶長）ヘ相達候就テハ右達ニ準シ願出ル場合ニ於テハ篤ト事實ヲ徵シ見込書相添差出スヘシ

右及訓令候也

●明治十九年十一月二十日達第八十六號

（戶長）役場

社寺境內官有民有ヲ問ハス伐木願出ルモノハ別紙書式ニ準據シ圖面ヲ圖面ハ全境內建物ノ大略ヲ記シ不伐採樹木凡ソ位置ニ黑點ヲ付シ伐採スヘキ分ヘハ朱點ヲ付スヘシ其所用ノ事由ヲ詳記シ寺院ハ本寺法類管長ノ添書ヲ付シ郡區役所ヲ經テ願出セシムヘシ

但境外持添山林伐木ノ儀ハ總テ本文ニ準シ出願セシムヘシ

願書式

某社寺境內樹木伐採願

一某 樹 現今總數何本ノ內 何本 目通何尺何寸

一某 樹 同 何本 同

一某 樹 同 何本 目通一尺以內

右ハ某ケ所修繕ノ爲メ（或ハ境內樹木追々繁茂他ノ生立ヲ害スル不尠）此間可成其理由ヲ詳記ス前書ノ樹木伐採ノ儀御聞屆相成度此度願上候也

年 月 日

某社寺住職 神官 姓名 印

總代三名連署

（戶長）奧印

神奈川縣知事殿

●社寺ニ於ケル抵當物件認可ノ件

（明治十二年七月二十八日布達甲第百三十九號）

五本年月本縣乙第百三號ヲ以テ社寺寶物古文書等目錄調製方各郡（區）役所ヘ相達候ニ就テハ今般調製スヘキ目錄中ヘ記載ノ物品ハ明治十年第四十三號公布ノ通抵當ト爲スヘカラサル筋ニ付自今社寺ニ於テスル抵當ハ氏子檀家協議ノ書面ヲ以テ本廳ヘ可申出調査ノ上全ク寶物古文書ニアラサル分ニ限リ認可候條此旨布達候事

但目錄ヘ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得止儀有之處分候節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年教部省第三號達書ノ通心得ヘシ

●寺院ニ於ケル抵當物件ニ關スル件

（明治十年一月六日布達乙第二號）

（各大區正副區戶長）

寺院修繕其他寺用ノ爲メ一時不得已借財候者有之節地所（除稅地ヲ除クノ外）建物及寄附物寺附什器等抵當ニ書入候向ハ法類檀家協議ノ上檀家二名以上連署各本寺法類等ノ承認ヲ受ケ本寺ニ於テ右樣ノ儀有之節ハ渾テ此手續ニ隨ヒ同宗內ニテ重立候モノ二名以上ノ承認ヲ受クヘシ決シテ僧徒一己ノ私借ト混淆無之樣可致旨寺院ヘ布達ノ儀教部省達ニ付無洩落其筋ヘ可觸達此旨相達候事

●古社寺保存金管理規則

（明治三十七年一月二十九日縣令第十號）

（沿革）明治三七年縣令第三二號、同年同第四八號改正

古社寺保存金管理規則左ノ通之ヲ定ム

古社寺保存金管理規則

第一條 古社寺保存法第十條ニ依リ保存金ノ下付ヲ受ケタルトキハ金庫郵便貯金取扱局所又ハ確實ナル銀行ニ預入ルヘシ

（第一樣式）

古社寺修理保存金受拂簿

年	月	日	摘要	受高	拂高	現在高

第二條 古社寺保存金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 古社寺保存金ヲ收入又ハ支出シタルトキハ其ノ時々古社寺修理保存金受拂簿（第二樣式）ニ登記シ其ノ收支ヲ明ニスヘシ

第四條 古社寺保存金及其ノ金ヲ以テ購入シタル物件ハ古社寺保存金現在簿（第一樣式）ニ登記シ增減アリタルトキハ加除訂正スヘシ

第五條 古社寺保存法ニ依リ下付セラレタル修理保存金ノ剩餘ヲ生シタルトキハ本廳ヲ經內務大臣ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ

第六條 古社寺保存金ノ收支ハ每年十二月三十一日限リ計算シ古社寺保存金收支計算書（第三樣式）ヲ調製シ翌年一月十五日限リ知事ニ差出スヘシ

但シ官國幣社ハ會計年度ニ依リ計算シ翌年五月三十一日限リ報告スヘシ

第七條（削除）

附則

第八條 明治三十一年八月神奈川縣令第四十號ハ之ヲ廢止ス

年月日	摘要	收入			支出			殘高		
		圓	圓		圓	圓		圓	圓	
三十四年四月一日	前年度越高	一五〇〇〇〇						一五〇〇〇〇		
三十四年六月一日	古社寺修理保存金下附	五〇〇〇〇						二〇〇〇〇〇		
同 月 三 日	何銀行ヘ預入					一〇〇〇〇		一七〇〇〇〇		
同 二 十 日	何銀行ヨリ引出				三〇〇〇〇			一七〇〇〇〇		
同 日	何々代何某渡					一〇〇〇〇		一七〇〇〇〇		
合 計						三〇〇〇〇		一七〇〇〇〇		
何年何月日	古社寺修理保存金下附							一七〇〇〇〇		
何 日								一七〇〇〇〇		
								一七〇〇〇〇		
合 計								一七〇〇〇〇		
計								一七〇〇〇〇		

見例

一一箇月毎ニ合計ヲ付シ翌月ヨリ累計ヲ付スヘシ

（第二樣式）

古社寺保存金現在簿

名稱數量	摘要

備考

一本簿ハ現金、預ケ金、土地、公債證書等其ノ種類ノ異ナル毎ニ口座ヲ設ケ各別ニ整理スヘシ

（第三樣式）

古社寺保存金收支計算書　　明治何年十二月三十一日調

神奈川縣何郡（市）何町（村）大字何

（神社（社格）寺院（宗派名））何　社（寺）

種別	金額	事由
受金		
前年越高現金		
本年度下付金		
預金利子		
公債證書利子		
小作料		
貸地料		
何々		
計		
拂金		
修繕費		

金		現					在
計	何々	現金	何々預金	公債證書	田（畑）（山林）	何々	

前書之通相違無之此段及御報告候也

年月日

右社司（社掌）（住職）何 某 印

右氏子（檀家）（信徒）總代人 何 某 印

何 何 某 印

何 某 印

知事宛

備考

一公債證書ハ額面金高ヲ金額ノ欄ニ記入シ買入金高及年月日ヲ事由欄ニ肆記スヘシ

一土地ハ反別ヲ金額欄ニ記入シ買入價格買入年月日等ヲ事由欄ニ詳記スヘシ

●古社寺修理保存金支出等報告方

（明治三十六年四月七日訓令第八號）

（沿革）明治三七年訓令第二〇號改正

郡役所 市役所 町村役場

古社寺保存法ニ依リ修理保存金ヲ下付セラレタル場合ニ於テ其ノ保存金下付ノ年度内ニ修理ニ著手セサルモノ若ハ之ニ著手スルモ竣功セサルモノハ其ノ修理全部結了ニ至ル迄ノ期間毎年度經過後左ノ事項ヲ調査シ一廉毎ニ下付セラレタルモノハ一廉前年度ノ狀況ヲ報告スヘシトス

前項報告書ハ町村長ハ毎年度經過後二十日以内ニ郡長ニ郡市長ハ同四十日以内ニ當廳ニ提出スヘシ但シ初メテ保存金ヲ下付セラレタル物件ニシテ其ノ下付ノ日年度終了前二箇月以内ナルトキハ其ノ年度ノ報告ハ翌年度ノ報告ト併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第一 何社寺何々修理費異動報告 （何年度）

前年度末迄受入累計高

下付金 内 金何程 金何程 金何程

受 本年度受入高 内 金何程 金何程 金何程

下付金 擔保利子金 預金

第三 修理進行模樣報告

此報告ニハ（一）修理ニ著手セサルモノハ其ノ未著手ノ事並ニ其ノ事由ヲ記載シ（二）修理ニ著手セルモノハ其ノ年度内ニ行ヘル事項（例ヘハ何々ノ材料何程ヲ買入レ何々ノ部ノ修理全部又ハ何分通リヲ終レリト云フノ類）ヲ成ルヘク詳細ニ記載スヘシ最モ修理ノ爲遠隔ノ地ヘ搬出シタルモノニシテ其ノ修理ノ狀況ヲ報告シ難キトキハ何年何月竣功ノ見込ヲ以テ何々ヘ修理ヲ依托シ何月何日同所ヘ搬出濟等ノ事ヲ記スヘシ

此報告ハ既ニ修理全部竣功セルモノヲ除ク外從前修理保存

計 金何程 金何程 金何程

拂 計 金何程 金何程 金何程

前年度末迄支拂累計高 本年度支拂高 擔保利子金 預金

現在 計 金何程 金何程 金何程

何所預金

備考

一本年度受入高ハ前年度越高ヲ除ク外年度内凡テノ受入ヲ掲記スヘシ

一預金利子ハ實際受入レタルモノヲ掲記スヘシ

一預金ヲナスモ利子ヲ付セサルモノアルトキハ其ノ事由ヲ備考ニ掲記スヘシ

金ヲ下付セルモノニ付三十五年度分ヨリ凡テ之ヲ行フヘシ

第四章　興廢

●社寺創建再興復舊竝移轉廢合出願手續

（明治十四年一月十九日　布達甲第十一號）

社寺創建再興復舊竝移轉廢合出願手續自今左之通相定候條此旨布達候事

社寺創建再興復舊竝移轉廢合出願手續

第一條　社寺創建再興復舊社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫ハ〔神官〕住職氏子檀徒若クハ信徒タルヘキモノニ限ル寺院ハ本寺連署左之條件ヲ精細ニ記シ〔戸長〕奥書ヲ以テ出願スヘシ法類トモ

一創建再興復舊等ヲ要スル理由及建設後施行ノ目的

但再興復舊ハ當初廢絶合併ノ年月竝次第共

一社殿堂宇諸建物坪數繪圖面竝目論見仕樣ノ事

一永續資本ノ財産動産不動産等ノ細目竝ニ發願者即チ爾後該社寺一切ノ事ニ干係スヘキ者ノ總人員

一境内地坪數及社寺名受若シクハ人民共有ノ別

第二條　同上移轉廢合竝ニ社寺號改稱ハ前條ノ手續ニ準シ其事由ヲ詳記シ出願スヘシ

但式内神社大本寺竝ニ文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺ノ向ハ舊記其他參考タルヘキ書類アラハ添付スヘシ

第三條　邸内社堂竝ニ掛所道場引直及寺號公稱等堂宇方六尺以上ノモノニ限ル出願セントスルモノモ亦第一條ノ手續ニ從フヘシ

●社寺創立再興復舊建設期限

（明治三十二年十一月十四日　縣令第七十六號）

明治十五年十一月甲第百七十三號布達ヲ左ノ通改正ス

社寺佛堂等創立再興復舊ノ許可ヲ受ケタルモノハ許可ノ日ヨリ二年以内ニ社殿堂宇ヲ建設スヘシ其ノ建物巨大ニシテ工事數年ニ渉ルモノハ竣工期限ヲ豫定シ更ニ許可ヲ受クヘシ

社寺佛堂等ニシテ罹災ノ爲建物悉皆破潰又ハ亡失シタルトキハ五年以内ニ建設スヘシ其ノ期間内ニ建設セサルモノハ社寺佛堂明細帳ヲ削除ス

明治十五年十一月甲第百七十三號布達發布以前建物悉皆破潰又ハ亡失シタル社寺佛堂ニ在テハ本令發布ノ日ヨリ五年以内ニ社殿堂宇ヲ建設スヘシ其ノ期間内ニ建設セサルモノハ社寺佛堂明細帳ヲ削除ス

前二項ニ依リ社殿堂宇ヲ建設セムトスルモノハ建物圖面及仕樣設計書ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

●縣社以下神社寺院佛堂合併ノ件

（明治四十年一月一日　訓令第二號）

市役所　郡役所　町村役場

解社以下神社竝寺院佛堂ニシテ規模狹小其ノ體面ヲ保チ難ク保存ノ目途ナキモノハ努メテ之ヲ廢合セシメ以テ神社寺院ノ維持基本ノ確立ヲ計ルヘシ

●寺院廢合跡地竝建物ニ關スル件

（明治十年六月三十日　布達乙第百三十三號）

〔各大區正副區戸長〕

自今寺院廢合出願ノ節ハ趾地及建物等別紙雛形ニ照準取調可差出此旨相達候事

（別紙）

廢合寺趾地竝附屬地取調方雛形

〔何大區何小區〕

何國何郡〔何驛〕何町村

何宗　何寺院

趾地

一現今境内地

此反別何程

右從前貢租地ノ分ハ寺院或ハ人民ノ名受ニテ貢租何ノ誰ヨリ納來候モノ歟或ハ先住買得セシモノ歟其他民有ノ確證有無詳細記載スヘシ

附屬地

舊何地
舊何反別何程
改正字番號

一現今田地

此反別何程

右從來寺院名受地歟或ハ先住ノ買得セシモノ歟或ハ檀家等ヨリ寄附致シ貢租作德共其寺院ニ所務致候テ全ク寺附ノモノナルカ其他關係ノ事故ハ詳細記載スヘシ

但寄附證其他證蹟有無且寄附ノ際別段ノ契約アル歟總テ證書寫相添申立ヘシ

同上

一現今畑地

此反別何程

同上記載スヘシ

但同斷

以下幾廉有之候共前ニ倣ヒ記載スヘシ

右ハ今般無檀無住（無檀無住）有住無檀ニ付廢寺（有住無檀無住）有檀無住ニ付合寺　別紙相願候ニ付趾地及ヒ附屬地共取調候處書面之通相違無御座候以上

年　月　日

願人ハ有住ナレハ住職
無住有檀ハ檀家總代ノ内
無檀無住ハ該村代議人
或ハ小前總代ノ者　何　某

檀家總代
檀家總代ハ二名以上連署スヘシ　何　某

同　何　某
組寺
〔何大小區〕何國郡村
何宗何寺住職　何　某
本寺
〔何大小區〕何國郡村
何宗何寺住職　何　某
宗内取締
〔何大小區〕何國郡村
何宗何寺住職　何　某
〔驛、町、村用掛〕
〔何　某〕
〔戸長〕〔何　某〕
〔區長〕〔何　某〕
神奈川〔縣令〕何某殿
無檀無住廢寺建物取調方雛形
〔何大區何小區〕
何國何郡〔何驛〕町村
何宗　何　寺　院

建物
一本堂　梁間　何間　桁行　何間　一ケ所
但瓦屋根
茅
一庫裏　同斷　一ケ所
但同斷
以下建物アラハ前ニ倣ヒ記載スヘシ
附屬品
一壓　何　枚
一障子　何　枚
一棧　何　枚
以下建具類等前ニ倣ヒ記載スヘシ
右ハ建物竝建具類共取調候處書面及別紙繪圖面ノ通相違無御座候以上
年　月　日
別紙繪圖面ハ建坪平圖面ヲ添ヘシ
連署書式地所取調雛形ニ同シ

第五章　神職

●官國幣社處務規則

（明治三十七年一月二十九日）
（達第三號）

（沿革）明治四三年七月達第一一四號改正

官國幣社

官國幣社處務規則左ノ通之ヲ定ム

官國幣社處務規則

第一條　社務ハ宮司ニ於テ各擔任者ヲ定メ之ヲ處理セシムヘシ

社務繁多ナル神社ニ在テハ分課ヲ設クヘシ此ノ場合ニ於テ各課ノ關係等處務上必要ナル細則ハ宮司之ヲ定ム

第二條　社務ハ擔任者ニ於テ速ニ處分見込ヲ取調回議ニ付シ宮司ノ決裁ヲ得テ之ヲ施行スルモノトス

第三條　職員出勤シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ疾病又ハ事故アリテ出勤シ難キトキハ其事由ヲ具シ宮司ニ屆出ツヘシ

病氣引籠五日以上ニ渉ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四條　忌服ヲ受ケタルトキハ宮司ニ在テハ知事ニ其ノ他ニ在テハ宮司ニ屆出ツヘシ

除服出仕ハ宮司ニ在テハ知事之ヲ命ス其ノ他ニ付テハ宮司之ヲ命スヘシ

職員死去シタルトキハ判任待遇以上ノ職員ニ在テハ知事及宮司ニ其ノ他ニ在テハ宮司ヘ屆出ツヘシ

第五條　（削除）

第六條　重要ナル印章ハ宮司ニ於テ嚴重保管スヘシ

第七條　神殿倉庫等ノ鍵ハ宮司ニ於テ封印ヲ施シ置クヘシ但シ宮司ニ於テ自ラ保管スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條　社務所ニハ左ノ簿册ヲ備フヘシ

祭神記
由緒記
官私祭書類
神社明細圖書
附攝末社明細圖書
不動產賣帳（但資金臺帳ニ掲クル物ヲ除ク）
附立木調書ノ類
寶物及貴重品臺帳
藏書目錄
祭器具明細帳
神社所有物帳
契約書類綴
法規指令類綴
會計諸帳簿
社務回議綴
社務日記宿直日記類
一社職員錄同履歷書類綴
職員出勤簿
神符大麻守札等員數（製造授與）調帳
前項各號ノ一ニ該當セサルモノト雖モ凡テ後來ノ照査トナリ又ハ參考トナルヘキ圖畫書類ハ適當ニ類別保存スヘシ

第九條　必要ニ應シ前條以外ノ簿册又ハ補助簿等ヲ調製シ物

件ノ所在、出納其ノ他各般ノ社務ヲ明瞭ナラシムヘシ

第十條 凡テ簿冊ハ目錄ヲ付シ索引ニ便ナラシムヘシ

第十一條 宿直員ハ可成二名以上ヲ以テ之ニ充ツヘシ但シ一名ハ必ス主典以上ノ職員タルヲ要ス

宿直員ハ時々境内ヲ巡視シ事變アルトキハ直ニ之ヲ宮司ニ急報シ指揮ヲ待ツヘシ若シ其暇ナキトキハ臨機ノ處置ヲ行ヒ其ノ旨直ニ宮司ニ急報スヘシ

第十二條 神社ニ風火災盜難等アルトキハ宮司ハ直ニ知事ニ報告スヘシ

第十三條 宮司交替ノ節ハ一社仕來並ニ社務取扱ニ關スル一切ノ事件ハ明細簿書又土地建物金品證券其ノ他ノ物件ハ目錄ヲ調製シ之ヲ引繼クヘシ

第十四條 前條引繼ノ節ハ立會トシテ當廳ヨリ吏員ヲ派遣スヘキニ依リ新宮司ヨリ其ノ日時ヲ定メ知事ニ屆出ツヘシ

第十五條 引繼終了シタルトキハ新舊宮司連署授受ノ證書ヲ作リ立會吏員ノ檢印ヲ受ケ直ニ知事ニ報告スヘシ若シ事故アルトキハ併テ之ヲ報告スヘシ

第十六條 舊任宮司死亡シタルトキハ新任宮司ヘノ引繼ハ爾宜ニ於テ之ヲ行フヘシ

未タ新ニ宮司ノ任命ナキトキ又ハ新宮司著任前ニ引繼ヲ行フトキハ舊任宮司ハ爾宜ニ對シ引繼ヲ行フヘシ

前項ニ依リ引繼ヲ受ケタル爾宜ハ新任宮司著任ヲ待チ更ニ新任宮司ニ引繼クヘシ

本條ノ引繼ハ總テ前三條ニ準シ之ヲ行ヒ宮司爾宜連署ノ上知事ニ屆出ヘシ但本條第三項ノ場合ニ於テハ當廳吏員ノ立會ヲ要セス

第十七條 内務大臣ニ提出スル書類ハ總テ當廳ヲ經由スヘシ

第十八條 明治八年十一月七日教部省甲第十四號達官國幣社々務受渡成規明治十一年三月十四日内務省番外達宿直人員ノ件廢セラル

明治二十年六月二十八日無號神職事務取扱心得其ノ他本則ニ抵觸スル從前ノ制規ハ之ヲ廢止ス

●神職候補者推薦方

（明治三十五年三月十一日 縣令第二十號）

縣社以下神社神職候補者推薦等ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

一神社神職闕員（轉任免職ヲ除ク）アルトキハ氏子（氏子ナキトキハ信徒）總代ヨリ三日以内ニ其ノ旨屆出ヘシ

一社司及社掌候補者ノ推薦書ハ第一樣式又履歷書ハ第二樣式ニ據リ調製スヘシ

（第一樣式）

社司
社掌推薦書

住所族籍職業
氏　　生年月日
名

何郡何市何町何村大字何字何

社格　何神社社司
社掌

右者頭書神社ノ神職ニ適任ト相認候條別紙關係書類相添此段推薦候也

住所
氏子（氏子ナキトキハ信徒）總代
氏　　名

年　月　日

三名以上連署

神奈川縣知事何某殿

前書ノ通相違無之候也

年　月　日　　市町村長　氏　　名　印

（備考）寄留ノ者ハ本籍寄留地共詳記スヘシ

（第二樣式）

履歷書

住所族籍
氏　　生年月日
名

學業

一年月日何學校ニ入學年月日何科卒業（證書寫別紙ノ通）

一年月日何々ニ依リ何免許狀ヲ受ク（免許狀寫別紙ノ通）

業務

一年月日何官拜命或ハ何業ニ從事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從業等

賞罰

一年月日何所ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク

右之通相違無之候也

年　月　日

右

氏　　名　㊞

●神社ノ祭祀神職ノ監督等ニ關スル件

（大正二年五月九日 訓令第三十七號）

郡役所

神社ノ祭祀ヲ重ンシ其ノ施設ニ意ヲ致ス等ノ儀ニ關シテハ既ニ屢々訓示スル所アリ今ヤ神社ニ關スル諸般ノ規定竝ニ神職奉務規則ヲ整理セラレ又近ク鄉社以下神社ニ付郡長ニ第一次監督官タルノ權限ヲ明確ニスル爲メ勅令ヲ改正セラレタリ是レ益々神社崇敬ノ實ヲ擧ケ神職ヲシテ其ノ職司ノ重キ所以ヲ知ラシメ忠實其ノ職務ニ從事セシメ之ト共ニ其ノ監督指導ノ周到ヲ圖ルノ趣旨ニ外ナラス殊ニ神職ノ品位ハ神社ノ隆替ニ影響スル所多大ナルハ今更言ヲ須タス此ノ故ニ一層規律ヲ嚴ニシ修養ニ力メ恪勤清廉以テ世ノ儀表タラシムルコトヲ期セサルヘカラス苟モ神職タルノ體面ヲ瀆ス者アラハ篤ト其ノ行爲ヲ調査シ處分方具申セラルヘク又神社ニ關係ヲ有スル諸團體竝寄附金募集事業ニ付テハ最其ノ調査ヲ嚴密ニシ收支ヲ明確ナラシムル等累ヲ神社ニ及ホスカ如キコトナキ樣當ニ監督ヲ怠ルコトナク以テ益々神社整善ノ途ヲ講スルコトニ留意スヘシ

第六章　氏子、檀家、信徒

●氏子區域替屆出方

（明治十五年五月四日　布達甲第九十四號）

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落擧テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社〔神官〕氏子協議ノ上双方連署明細帳引直シノ儀トモ可屆出此旨布達候事

●社寺總代人改選方

（明治二十四年六月十八日　訓令甲第五十九號）

郡役所　市役所

社寺總代人ノ儀ハ滿三年毎ニ改選シ若其期限中犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選シ之ヲ市役所若クハ町村役場ヘ屆出シムヘシ尤臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ケナシ

明治十四年八月本縣甲第百三十六號布達ニ依リ選定セラレタル總代人ハ此際一般改選セシムヘシ

同上布達中共有トアルハ社寺有ノ儀ト心得シムヘシ

●社寺總代人選擧ノ件

（明治十四年八月十九日　布達甲第百三十六號）

各社寺總代人ノ儀氏子檀家中氏子檀家ナキモノハ信徒相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スル者三名以上互選ヲ以相定戸長〔役場〕ヘ屆置今後社寺諸願屆等ハ渾テ連署ヲ以差出スヘシ且社寺收入財産ハ田畠山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬儀祠向料等一切ノ受納物ヲ云フ其社寺有ニ屬スヘキモノト其〔神官〕住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル樣取調豫約書二通ヲ製シ今般選定候總代人及〔神官〕住職〔神社ハ最寄〔神官〕二之ニ連署シテ該役場ヘ差出シ該役場ニ名寺院ハ本寺組寺共之ニ連署シテ該役場ヘ差出シ該役場ニ於テハ一通止置一通ハ取纏メ本縣ヘ可差出此旨布達候事

但社寺總代人相定候上ハ明治十年五月乙第百五號達同十一年九月甲第百二十號布達ハ廢止ト心得ヘシ

●神社附屬講社結集認可方

（明治十五年十二月二日　布達甲第百八十號）

府縣社以下神社附屬ノ講社ニシテ教法部類ニ非サルモノ今後新ニ結集セントスル者ハ本縣ヘ申出認可ヲ受クヘシ此旨布達候事

第七章　雜則

●社寺ニ於ケル菊紋章ノ件

（明治十二年六月十九日　布達乙第百二十三號）

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月公布ノ趣モ有之候處右公布前神殿佛堂ニ粧飾シタル分ニ限リ其儘存シ置苦シカラサル旨其筋ヨリ達有之候條其旨右粧飾アル社寺ヘ可及告示此旨相達候事

郡（區）役所

●離末本寺替手續

（明治十一年二月七日　布達乙第十七號）

〔各大區正副區戸長〕

離末本寺換ノ儀自今同宗派内ノ分ハ本末寺協議濟ノ上新舊本寺承諾ノ書面相添可屆出尤他宗派ヘ附屬候向ハ出願可致儀ト可心得旨無洩落寺院ヘ可觸達此旨相達候事

●宗教ニ關スル願屆書及履歴書樣式

（明治三十二年八月二十二日　縣令第六十四號）

明治三十二年七月内務省令第四十一號宗教ニ關スル願屆書及履歴書ハ左ノ樣式ニ準據シ差出スヘシ

前項ノ願屆書及履歴書ハ總テ正副二通ヲ調製シ宗教ノ宣布ニ關シテハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所、堂宇、會堂、説教所、講義所等ノ設立ニ關シテハ其ノ所在地ノ市町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ

（樣式）

宣教屆

私儀宗教ノ宣布ニ從事致度（從前ヨリ宗教ノ宣布ニ從事致居候間）別紙履歴書相添左記事項ヲ具シ此段御屆申上候也

一　宗教ノ名稱

（宗教ノ名稱トハ例ヘハ耶蘇教中ローマンカソリック、グリーキカソリック、プレスビテリアン、コンゲレゲーション、サウザルンメソヂスト、ト云フカ如ク他ト明ニ區別シ得ラルル樣詳細ニ其ノ名稱ヲ記スヘシ）

二　布教ノ方法

（布教ノ機關トシテ會堂、説教所、講義所、日曜學校等ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ會堂、説教所、講義所、日曜學校等ノ所在地番地名稱ヲ記スヘシ其ノ他一定ノ場所ヲ定メス他人ノ家若ハ自宅ニ於テスルモノハ其ノ趣ヲ記スヘシ）

（講義説教以外ノ方法例ヘハ通信傳道其ノ他印刷物ノ配付等ノ如キ方法ニ依リテ布教スルモノハ其ノ方法ヲ記載スヘシ）

年　月　日　　氏　名　㊞

知事宛

履歴書

住所（居所）

國籍

職業　氏　名

年齡

一　學業其ノ他一般ノ履歴
一　賞罰
右之通無相違候也

年　月　日　　氏　名㊞

何々設立願

何々設立致度候間御許可被成下度左記事項ヲ具シ此段御願申上候也

一　設立ヲ要スル理由
（其ノ地ニ信徒多數ナルコト又ハ其ノ地ト特別ノ緣故アルコト等凡テ設立ヲ要スル特種ノ事情ヲ詳記スヘシ）
二　設置ヲ終ルヘキ期限
（新ニ建物ヲ新築スルハ勿論在來ノ建物ヲ以テ之ニ充ル場合ニ於テモ凡テ堂宇、會堂、說教所又ハ講義所ノ類ノ設備ヲ完成スル期限ヲ豫定シテ記載スヘシ）
三　名稱（何々會堂ト稱スル類）所在地（郡市町村字番地）數地（地種目、坪數）建物（建坪竝內部ノ設備（祭壇演壇聽衆席等））
四　宗教ノ名稱（屆書ノ部ニ同シ）
五　管理及維持ノ方法
（管理ハ奈何ナル方法ニ依ルカ管理者ハ奈何ニシテ之ヲ定ムルヤ建設費維持費ノ財源其ノ他維持ノ方法ニ關スル事項ヲ記スヘシ）
六　擔當布教者ノ資格及選定方法
（擔當布教者トハ其ノ建物ニ於テ常時布教ヲ受持ツモノヲ云フ其ノ資格トハ奈何ナル試驗ニ及第シ奈何ナル學校ヲ卒業シ若ハ奈何ナル履歴ヲ有スルヤヲ云ヒ資格ニ關スル定メナキモノニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ其ノ選定方法トハ何人カ奈何ナル方法及奈何ナル手續ニ依リ擔當布教者ヲ定ムルヤヲ記スルヲ云フ）

年　月　日

住　所（居所）
國　籍
氏　名㊞
年　齡

知事宛

何々既設屆

何々ハ明治何年何月何日ヨリ設立致シ來リタルモノニ有之依テ左記事項御屆申上候也
（以下何々設立願書ニ同シ）
別紙何々管理者（擔當布教者）ノ履歴書差上申候也

年　月　日

住　所（居所）
何々設立者（管理者）
氏　名㊞

知事宛

（履歴書式ハ前ニ出タルモノニ同シ）

宣教ニ關スル事項變更屆

宣教ニ關シ御屆申上候處ノ事項中左ノ通變更致候間此段御屆申上候也
一何々
、、、

第十類

軍務

第一章　通則
第二章　陸軍
第三章　海軍

第十類　軍務

第一章　通則

●徴兵表差出方

（明治二十九年五月二十六日）
（訓令第三十號）

郡役所　市役所

徴兵徴募事務終了シタルトキハ徴兵事務條例施行細則第七樣式ニ準據シ徴兵表ヲ製シ三十日以内ニ申報スヘシ

●召集應否區分及陸軍服役人員報告

（明治三十年四月十九日）
（訓令第二十九號）

（沿革）明治四一年二月訓令第四號、大正二年一〇月同第六一號改正

郡役所　市役所

一　充員召集臨時召集國民兵召集簡閲點呼召集施行アリタルトキハ召集員應否ノ區分（第一樣式）ヲ調査シ且ツ其ノ事務執行ノ狀況ヲ詳記シ召集完結後十日以内ニ報告スヘシ

二、毎年四月一日現在ノ陸軍現役豫備役後備役及補充兵ノ人員（第二樣式）ヲ調査シ其ノ十日限リ報告スヘシ

三　陸軍召集條例ノ規定ニ依リ國民兵人員表及退役將校同相當官准士官ノ名簿ヲ聯隊區司令官ニ差出ストキハ其ノ一通ヲ當廳ニ差出スヘシ

（樣式ハ略之）

●徴發事務取扱規程

（明治三十五年五月十三日）
（訓令第二十九號）

（沿革）明治三六年訓令第一號、三八年同第一二號、大正三年六月同第二二號改正

郡役所　市役所　町村役場

徴發事務取扱規程左ノ通之ヲ定ム

徴發事務取扱規程

第一條　徴發令第十二條第一號ノ物件ハ郡市ニ賦課スルモノトス但シ時機ニ依リ直ニ町村ニ賦課スルコトアルヘシ

徴發令第十二條第二號ノ物件ヲ時機ニ依リ當廳ヨリ賦課スルトキ亦前項ニ同シ

第二條　郡市町村長ニ於テ陸海軍官憲ヨリ徴發書ヲ受ケタルトキハ直ニ當廳ニ報告スヘシ

前項徴發書ヲ受ケ其ノ物件賦課ノ數ニ不足シ當該官憲ニ報告シタルトキハ其ノ旨直ニ當廳ニ報告スヘシ

第三條　郡市町村長ハ徴發令第八條ニ依リ臨時徴發ニ應スヘキ便宜ノ方法及同第三十條ニ依リ其ノ徴發區ニ於テ負擔スヘキ輸送費支給方法ヲ豫定シ當廳ニ報告スヘシ但シ其ノ方法ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四條　郡市町村長ハ徴發令第十二條第十三條各號中郡市町村ニ賦課セラルヘキ物件ノ平常價額賃錢損料等ヲ平素取調置キ實地供給ノ場合ニ際シ支障ナカラシムヘシ

第五條　徴發事務條例第四十一條ニ依リ隣郡長ト商議ノ上組合町村ヲ定メ又ハ其ノ組合ヲ解キタルトキハ其ノ時時當廳ニ報告スヘシ

第六條　第一條第一項第二項ノ物件ニ對スル賠償金及第一項ノ物件ヲ差出場所ニ輸送シタル費用並第二項ノ物件ヲ徴發區外ニ輸送シタル費用ハ計算書ヲ調製シ當廳ニ請求スヘシ

第七條　（削除）

第八條　市町村長ハ附錄ノ工場表並汽船表（第二表乃至第六表）ヲ調製シ毎年二月末日迄ニ當廳ニ報告スヘシ

第九條　市町村長ハ附錄ノ徴發物件量數表（第七表）ヲ調製シ市長ハ毎年二月末日迄ニ當廳ニ町村長ハ毎年二月十五日迄ニ郡長ニ報告スヘシ

郡長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ニ合計表ヲ添ヘ同月末日迄ニ當廳ニ報告スヘシ

第十條　（削除）

第十一條　市町村長ハ其ノ管内ニ於テ汽船ヲ製造シ若ハ買入タル者アルトキハ汽船表（第五表、第六表）ヲ添ヘ其ノ時時當廳ニ報告スヘシ

附　則

第十二條　明治十九年十月達第三十九號ハ之ヲ廢止ス

●工場表及汽船表ニ關スル件

（明治四十一年二月四日　縣令第九號）

（樣式ハ略之）

工場（四洋形船舶及舶用機關製造修理場、鑄造工場、鐵工場）及汽船所有者ハ海軍省令ノ定ムル樣式ニ依リ之ヲ調査シ毎年一月二十日限リ工場表ニ在テハ其ノ所在地ノ汽船表ニ在テハ船籍港ノ市町村長ニ届出ツヘシ但シ新ニ汽船ヲ造リ若ハ買入レタルトキハ其ノ時々届出ツヘシ

前項届出期限ハ本年ニ限リ二月十五日トス

●兵事機密、祕密書類整理規程

（明治四十四年八月十一日　訓令第四十一號）

郡役所　警察署　同分署　市役所　町村役場

兵事機密、祕密書類整理規程左ノ通之ヲ定ム

兵事機密、祕密書類整理規程

第一條　兵事ニ關スル機密、祕密書類ハ本規程ニ依リ整理スヘシ

第二條　召集及徴發ニ關スル書類中、軍事機密書類ト他ノ祕密書類トハ之ヲ區別シ日錄ヲ附シ編綴スヘシ

第三條　軍事機密書類中別段ノ規程アルモノハ其ノ規程ニ依リ處分シ其ノ他ニ在リテハ所屬年度若ハ有效期間經過後二週日以内ニ之ヲ燒却シ其ノ日錄ヲ添ヘ發行官衙ニ報告スヘシ

第四條　軍事機密ニ關スル書類ノ發送ハ書留郵便ヲ以テスヘシ

第五條　機密、祕密書類ハ保管日錄書ト共ニ必ス鎖鑰アル書箱ニ格納シ主管官公署長ノ責任ヲ以テ主務吏員ヲシテ保管セシムヘシ

第六條　機密、祕密書類ハ之ヲ閲覽スル職權アルモノヽ外閲覽セシムルコトヲ得ス

第七條　機密、祕密書類ヲ紛失又ハ燒失シタルトキハ其ノ理由ヲ詳具シ發行官衙及監督官廳ニ報告スヘシ

第八條　機密、祕密書類ノ調査ニ際シ之ヲ展開スルトキハ他人ノ目ニ觸レサル樣特ニ注意スヘシ

第九條　機動演習ニ關スル祕密書類モ第三條ヲ除ク外本規程ニ準シ取扱フヘシ

第二章　陸軍

●第一師管徴募事務取扱手續

（大正二年九月九日　訓令第五十五號）

郡役所　市役所　町村役場

第一師管徴募事務取扱手續別冊ノ通改正ノ旨第一師團長ヨリ通知アリ右ニ依リ取扱フヘシ

一本手續ハ大正二年九月一日ヨリ之ヲ實施ス

一明治四十三年四月神奈川縣訓令第三十號ハ本手續實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ

（別冊略ス）

●陸軍六週間現役兵取扱手續

（明治四十五年七月十六日　訓令第四十七號）

師範學校　小學校

陸軍六週間現役兵取扱手續左ノ通之ヲ定ム

陸軍六週間現役兵取扱手續

第一條　陸軍六週間現役兵條例施行細則第三條第一項届書ハ毎年四月十五日迄ニ同條第二項ノ届書ハ三日以内ニ當廳ニ差出スヘシ

第二條　陸軍六週間現役兵條例施行細則第十三條ニ依ル届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ三日以内ニ當廳ニ差出スヘシ

一新舊奉職學校名及所在地

一異動辭令年月日

第三條　陸軍六週間現役兵ノ身體檢査ヲ受クヘキ者ニシテ傷痍疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲身體檢査ヲ受ケ難キ場合ニ在リテハ本人ヨリ檢査當日迄ニ證據書類ヲ添ヘ學校長ノ奥書證印ヲ受ケ當廳ニ届出サシムヘシ但シ傷痍疾病ノ者

ニ在リテハ尚醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第四條　合格者ハ概ネ左ノ區分ニ從ヒ入營セシムルモノトス

麻布聯隊區管內在職者　　歩兵第一聯隊

甲府聯隊區管內在職者　　歩兵第四十九聯隊

第五條　陸軍六週間現役兵身體檢査期日及入營期日ハ當廳ヨリ其ノ都度告達スヘシ

第六條　傷痍疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲所定ノ期日ニ入營シ難キ場合ニ在リテハ本人ヨリ證據書類ヲ添ヘ師團長ニ屆出サシムヘシ但シ傷痍疾病ノ者ニ在リテハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

前項屆書ハ當廳ヲ經由スヘシ

第七條　陸軍六週間現役ニ服スヘキ者ニシテ入營前又ハ入營中若ハ其ノ服役ヲ終リタル者ニシテ滿二十八歳迄ニ戸籍ニ關スル異動アリタルトキハ三日以內ニ戸籍謄本ヲ添ヘ學校長ヲ經テ當廳ニ屆出サシムヘシ

第八條　本手續ニ依ル屆書ハ郡市役所町村役場ヲ經由スルヲ要セス

●徵兵相當者竝現役兵トシテ入營者ノ身上調査ニ關スル件

（明治四十三年七月一日訓令第四十四號）

警察署長同分署長ハ徵兵相當者竝現役兵トシテ入營スヘキモノノ身上ニ關シ市町村長ニ於テ調査不能ノ點ニ就キ照會アリタルトキハ之カ調査ニ援助ヲ與フヘシ

●徵兵事務條例ニ依リ終結處分ヲ受ケサル者ニ關スル件

（明治二十七年三月五日訓令第十九號）

郡役所　市役所

徵兵事務條例ニ依リ終決處分ヲ受ケサル者ニシテ志願ニ由リ現役軍人ト爲リ服役三ケ年未滿ノ者若クハ常備兵籍ニ編入ノ諸生徒學生傷痍疾病其他ノ事故ニ由リ現役若クハ生徒學生ヲ免シ兵役上ニ關スル爾後ノ處分ヲ受ケサルモノハ更ニ徵兵檢査ヲ爲シ其徵否ヲ定ムヘシ但明治二十一年七月達甲第五十五號ヲ廢止ス

●徵兵處分ヲ受クヘキ所在不明者調査規程

（明治四十年七月二十三日訓令第四十號）

（沿革）明治四一年四月訓令第二五號改正

郡役所　警察署　警察分署　市役所　町村役場

徵兵處分ヲ受クヘキ所在不明者調査規程左ノ通之ヲ定ム

第一條　郡長、警察署長（分署長ヲ含ム、市町村長ハ隨時徵兵終決處分未濟者及徵兵相當者ニシテ所在不明ナル者ノ調査ヲ爲スヘシ

第二條　郡市長ハ所轄內ニ於ケル所在不明ノ徵兵終決處分未濟者ノ原籍、氏名、生年月日ヲ調査シ每年徵兵署閉鎖後五日限リ當廳ニ報告（第一樣式）スヘシ

前項徵兵終決處分未濟者ニシテ死亡、徵兵處分濟、滿四十歳超過等ノ爲爾後調査ヲ要セサルモノハ每年徵兵署閉鎖後五日限リ當廳ニ報告スヘシ

郡市長ハ所在不明ノ徵兵終決處分未濟者ノ轉籍ハ其ノ都度當廳ニ報告（第二樣式ニ準ス）スヘシ

第三條　郡市長ハ徵兵相當者ノ所在不明ナルモノヲ前條第一項ノ例ニ依リ調査シ每年二月十五日限リ當廳ニ報告シ爾後所在發見シタルトキハ其ノ都度報告スヘシ

第四條　第二條ニ依リ調査シタルモノハ官報ニ第三條ニ依ルモノハ神奈川縣公報ニ登載ス

第五條　郡長、警察署長、市町村長ハ第一條ノ調査ニ關シ絕ヘス相互ニ且憲兵隊長又ハ憲兵分隊長トモ聯絡ヲ保持シ時機ヲ失セス處理スヘシ

第六條　第一條ノ調査ニ關シテハ左ノ各項ニ依ルノ外時機ヲ利用シテ適當ノ手段ヲ採ルヲ要ス

一、郡長、警察署長、市町村長ハ所轄內ニ本籍ヲ有スル所在不明ノ徵兵終決處分未濟者ニ對シテハ本人ノ隣佑親戚其ノ他心當リノ者ニ就キ平素ノ行動行先キ等ヲ搜査シ又ハ親戚ヲシテ搜査セシメ其ノ端緒ヲ得タルトキハ必要ノ事項ヲ具シ直チニ當該地ノ警察署長、憲兵隊長又ハ憲兵分隊長、市町村長ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル警察署長、市町村長ハ直チニ搜査ヲ爲シタル上相當ノ處置ヲ爲シ且通知ヲ爲シタル官公署ニ通知スヘシ

二、郡長、警察署長、市町村長ハ第二條及第三條ニ依リ官報及神奈川縣公報ニ掲載シタル者ノ所在ヲ發見シタルトキハ直チニ關係ノ官公署ニ通報シ且其ノ踪跡ヲ失セサルノ手段ヲ採ルヘシ

前項ノ外所轄內ニ本籍ヲ有セサル現住者ニシテ故ナク徵兵終決處分ヲ受ケスト認ムル者アルトキハ直チニ之ヲ本籍地ト認定シタル市町村長ニ通知スヘシ

三、市町村長ハ每年一月其ノ年ノ壯丁名簿ニ編入スヘキ者（前年假決者ヲ含ム）ノ在不在ヲ調査シ其ノ不在者ニ對シテハ戸主又ハ家事擔當者若ハ親戚ヲシテ搜査ヲ爲サシムヘシ

第七條　第一條ノ調査ヲ爲スニ際シテハ鑛山、工場其ノ他壯丁者ノ集團スル場所ニ對シテハ特ニ注意ヲ加フルヲ要ス

第八條　郡長、警察署長、市町村長ハ名簿（第二樣式）ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

附則

所在不明ノ徴兵終決處分未濟者捜査ニ關スル從前ノ訓令ハ之ヲ廢止ス

郡市長ハ明治三十五年以後明治三十九年以前ニ係ル所在不明ノ徴兵終決處分未濟者ハ第二條ノ例ニ依リ本年八月三十日限リ當廳ニ報告スヘシ

郡市長ハ明治三十四年以前ニ係ル所在不明ノ終決處分未濟者ニ關シテハ本年七月三十一日迄ニ當廳ニ報告（第一樣式）スヘシ

（第一樣式）

明治何年ニ於テ生シタル所在不明ノ徴兵終決處分未濟者中徴兵處分濟、滿四十歳超過、死亡等ノ爲爾後調査ヲ要セサル者左ノ如シ）

何郡（市）

本籍	氏名	生年月日
何市何一ノ二	何某	明治一五、八、三

備考

本籍區畫ニハ成ルヘク同町村ノモノヲ併記スヘシ

第三條ニ依リ報告スルモノモ亦本表ニ準スヘシ

（第二樣式）

徴兵終決處分未濟者（徴兵相當者所在不明者）調査名簿

摘要	住所	氏名	生年月日
所在發見年月日及其ノ事實			

●現役砲兵輸卒及輜重輸卒入營シ難キ者取扱方

（明治三十年四月十三日訓令第二十六號）

郡役所 市役所

現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒ニシテ疾病犯罪等ノ爲入營シ難キ者ノ取扱左ノ通之ヲ定ム

一 疾病犯罪等ノ爲入營シ難キ者ハ漸次次期ニ繰下ケ入營セシム其ノ終期ニ於テ入營シ難キ者ハ次年徴募ノ現役兵同時ニ入營セシム

二 其ノ事故繼續シ若ハ再發シ次年第二期以後ニ至ルモ仍ホ入營シ難キ者アルトキハ徴兵檢査ノ際身體檢査ヲ爲シ徴集ニ適スル者ハ前項ノ例ニ依リ取扱ヒ其ノ徴集ニ適セサル者ハ徴集免除若ハ兵役免除ノ處分ヲ爲スモノトス

三 入營ヲ次年ニ繰下ケタル爲所要人員超過スルトキハ抽

籤番號ノ最高キ者ヨリ漸次次期ニ繰下ケ終期ニ於テ仍ホ要員ニ超過スルトキハ次年ニ繰下クヘシ

四 明治二十六年十月神奈川縣訓令第六十一號ヲ廢止ス

●現役免除出願者證明書等送付方

（明治二十九年六月三十日訓令第三十九號）

郡役所 市役所

〔本年六月勅令第二百三十八號陸軍服役條例第六十條〕ニ依リ現役免除ヲ願フ者ニシテ其ノ事故父兄等ノ死亡處刑若ハ失踪等ニ係ルモノハ市町村長ノ證明書癈疾不具等ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ具シ其ノ親族ヨリ本人ニ送付セシムヘシ

明治二十一年六月達甲第四十號同年八月達甲第五十八號及明治二十四年八月訓令甲第七十一號ヲ廢止ス

●陸軍召集事務取扱手續

（大正三年八月十八日訓令第二十八號）

警察署 警察分署

陸軍召集事務取扱手續左ノ通リ之ヲ定ム

陸軍召集事務取扱手續

第一條 警察署長（分署長ヲ含ム）ハ駐在所及派出所巡査ヲシテ便宜其區域內ニ於ケル在鄉軍人名簿別記第一樣式ヲ調製セシメ在鄉軍人ノ異動及召集ニ關シ遞令者ナカラシムルコトニ注意シ時々市町村ノ名簿ト對照セシムヘシ

第二條 陸軍召集令及同施行細則ニ依リ警察官吏ノ與フル證明書ハ豫メ準備シ置クヘシ

第三條 横濱市內警察署長ハ市長ヨリ陸軍召集令施行細則第三十四條及第三十五條ノ通知ヲ受ケタルトキ之ヲ巡査派出所又ハ巡査駐在所ニ達スル書類ハ豫メ準備シ置クヘシ

第四條 警察署長（分署長ヲ含ム）ハ國民兵召集令ヲ受ケタルトキハ之ヲ巡査派出所又ハ駐在所ニ達スヘシ國民兵召集令達書ハ別記第二樣式ニ依リ豫メ準備シ置クヘシ

第五條 陸軍召集令施行細則第十一條ニ依リ聯隊區司令官ニ通知シタルトキハ其事項ヲ詳記シ當廳ニ報告スヘシ

附則

明治三十五年十一月 聯隊訓第九十七號ハ之ヲ廢止ス

（第一樣式）

在鄉軍人名簿

摘要	本籍地	徴集年	兵科部	官等級	氏名

一、本名簿ハ美濃紙トシ表紙ハ「在鄉軍人名簿」ト記載シ左下ニ保管所名ヲ記スヘシ

二、寄留旅行等ニ依リ不在ノモノハ行先及召集通報人ノ住所氏名ヲ本籍地關ニ問錢スヘシ

三、入寄留者ニシテ寄留地ニ於テ勤務演習ヲ爲シ又ハ簡閲點呼ヲ受クルモノアルトキハ本名簿ニ準シ調製シ末尾ニ編綴スヘシ

（第二樣式）

動何第　號

何巡査派出所
何巡査駐在所

左ノ通リ國民兵召集ヲ令セラル

（第一國民兵何兵）

種類　何歳（何歳ヨリ何歳迄）

年齢

集合場　（何郡市町村役場）

大正　年　月　日　何警察署長印

●陸軍下士以下歸鄉願書證明方注意ノ件

（明治三十四年七月二十三日訓令第二十七號）

大正二年神奈川縣訓令第四十五號ニ依ル人名調書

現官職名	兵役	官名等	兵種級	徴集年	本籍	氏名
何	豫備（後備）	歩兵伍長（騎兵一等卒）	明治何年	何縣何郡何村何番地		何某

大正　年　月　日調
郡（市）役所

陸軍休暇規則ニ依リ下士以下父母病氣又ハ死亡等ニ依リ本人ノ歸鄉ヲ願フ爲親族ニ於テ願書ヲ作リ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケムコトヲ出願スル者アルトキハ篤ト其ノ事實ヲ調査シ奥書證印ヲ與フル樣取扱フヘシ

郡役所　市役所

●陸軍在鄉軍人ニシテ帝國議會議員、兵事事務主管官公吏及小學校教員タル者ノ職氏名報告方

（大正二年七月八日訓令第四十五號）

郡役所　市役所

陸軍豫備役後備役又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ帝國議會ノ議員郡市町村ノ官（公）吏ニシテ兵事々務ヲ主管スル者一人竝公立小學校長同正教員タル者ハ其ノ職氏名等ヲ左記樣式ニ依リ調査シ毎年八月二十日限リ當廳ニ報告シ爾後翌年ノ報告期迄ニ新任轉免等ノ異動アルトキハ其ノ都度報告スヘシ

明治四十一年四月神奈川縣訓令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

●在鄉陸軍軍人制服著用ニ關スル件

（明治三十四年九月十七日訓令第三十號）

郡役所　市役所

在鄉陸軍下士兵卒ハ左ノ場合ニ限リ制服（帶劍ヲ除ク）ヲ著用スルコトヲ得

一　滿期歸鄉ノトキ
二　召集若ハ簡閲點呼ノトキ
三　演習及觀兵式參觀ノトキ
四　賀儀葬祭ノトキ
五　以上掲クルモノノ外在鄉軍人ノ資格ヲ表スルトキ

●馬匹徴發事務取扱手續

（明治三十五年二月二十日廳訓第十二號）

警察署　警察分署

馬匹徴發事務取扱手續左ノ通之ヲ定ム

右訓令ス

馬匹徴發事務取扱手續

第一條　馬匹徴發ニ關スル書類ハ必ス他ノ書類ト類別シ且有效期限ノ年度毎ニ區分シ確實ニ之ヲ保管スヘシ

第二條　馬匹徴發ニ關スル祕密ノ書類及之ニ關スル書類ヲ發送スルニハ其封筒上ニハ必ス「軍事祕密」ト朱書シ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ納メ此封筒上ニハ宛名ノ傍ニ「至急親展」ノ文字ノミヲ附記スヘシ

第三條　馬匹徴發ニ關スル事務ニシテ郡市長及憲兵隊長ト互ニ相關連スル事項ハ毎年三月三十一日マテニ協議計畫シ其事項ヲ知事ニ報告スヘシ但其事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　馬匹徴發事務細則第六條ノ動員用封筒及同細則第三十二條ノ證明書ハ豫メ準備シ置クヘシ

第五條　知事ハ警察署警察分署ニ於ケル馬匹徴發ニ關スル事務ノ整否ヲ檢閲シ若ハ部下官吏ヲシテ檢閲セシムルコトアルヘシ

●馬匹調査表竝馬匹出入表差出方

（明治三十五年七月八日訓令第三十八號）

郡役所　市役所

（明治三十年二月陸軍省令第四號）馬匹調査及檢査施行規則ニ依リ馬匹調査表竝馬匹出入表ヲ師團長ニ差出ストキハ其ノ一通ヲ當廳ニ差出スヘシ

●軍隊行軍竝演習ニ關スル報告ノ件

（明治四十二年四月二十日訓令第二十五號）

（沿革）大正二年一〇月訓令第六二號改正

郡役所　警察署　警察分署　市役所　町村役場

軍隊行軍竝演習ニ關スル報告ノ件左ノ通之ヲ定ム

第一條　軍隊若ハ軍隊指揮官ヨリ行軍又ハ演習ノ通知ヲ受ケタルトキ若ハ之ヲ知得シタルトキハ直ニ左記事項全部ヲ知トキハ其ノ一部ヲ報告シ知得セサル知ヲ當廳ニ報告スヘシ

一　軍隊名及該指揮官官氏名
二　宿泊月日
三　人員及馬匹數
四　宿泊地點

前項ノ場合ニ於テ町村ニ在リテハ直ニ郡長ニ報告スヘシ

第二條　行軍又ハ演習終了シタルトキハ左記事項ヲ三日以内ニ當廳ニ報告郡長ニ在リテハ機動演習スヘシ但シ警察署及ノ場合ノ外報告ヲ要セス

同分署ニ在リテハ左記第一號乃至第五號ハ報告ヲ要セス

一　損害ヲ受ケタルトキハ其ノ狀況及損害額時價ニ計算スヘシ
二　損害ノ賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ賠償金額竝人員
三　市役所町村役場ニ於テ行軍演習ノ爲要セシ費用ニシテ軍隊ヨリ賠償ヲ受クルコト能ハサル金額
四　市町村有志團體ノ軍隊待遇ニ要セシ金額
五　軍隊ヨリ債主ニ支拂フヘキ金額ニシテ市町村長ニ於テ一時受領セシ總金額
六　物資需用供給ニ關スル狀況
七　宿舍主ノ待遇狀況
八　軍隊ノ地方ニ對スル狀態
九　市町村有志團體ノ軍隊ニ對スル狀態

郡長ノ報告ニ在リテハ町村吏員ノ執務ノ狀況ヲモ附記スヘシ

第三條　前二條ノ事項ハ旅團以上ノ演習（聯隊連合演習ヲ含ム）及皇族御參加ノ場合ノ外報告ヲ要セス

附　則

明治二十二年八月訓令甲天第三十四號陸海軍行軍演習ノ件ハ之ヲ廢止ス

●陸地測量諸標及同敷地監守方

（明治二十九年三月十八日訓令第十三號）

（沿革）明治三六年訓令第二五號改正

郡役所　市役所

一　陸地測量諸標及同敷地ハ陸地測量標條例施行細則ニ據リ市町村長ヲシテ之ヲ監守セシム
二　測量諸標及同敷地ハ當廳ヨリ明細書ヲ添ヘ通知スヘシ
三　測量諸標及同敷地ノ亡失毀損其ノ他異狀アルトキハ監守ノ市町村長ヨリ事由ヲ附シ當廳ハ屆出ルモノトス
四　前項ノ屆書ハ左ノ例ニ據リ列記スヘシ
一　等級番號及名稱
何等三角點（水準點）第何號名稱何々
二　測量標ノ種類
覘標又ハ標石或ハ標杭但シ覘標ノミ異狀アリタル時ト雖

必ス標石異狀ノ有無ヲ附記スルヲ要ス

三　建設所在
何國何郡市何町村大字、字、地目、地番
四　異狀ノ事由

何月何日暴風雨又ハ地震或ハ人爲ニ因リ覘標全部顚倒或ハ某部分毀損等其ノ實況ヲ詳記シ若シ其ノ標石ニ異狀アルトキハ必ス略圖ノ添付ヲ要ス但シ人爲ニ因リタル場合ニハ其ノ犯人搜査ノ情況ヲ附記スルコト

●海岸砲臺射撃警戒旗揭揚方

（明治三十四年十一月十九日告示第二百七十號）

海岸砲臺ニ於テ大砲射撃ノトキハ自今左ノ手續ニ據リ施行スル旨陸軍省ヨリ通牒アリタリ

明治二十四年三月告示第十號ヲ廢止ス

一　射撃演習中ハ射撃開始前ニ於テ最モ見易キ地點ニ警戒旗（赤色）ヲ揭ク且場所ニ因リテハ通行禁止ノ標札ヲ揭クルコトアリ
一　監的船ノ大橋上若ハ砲臺ニ於テ旗ヲ揭クルハ射撃ヲ施行スルモ支障ナキト或ハ將ニ射撃ヲ行ハムトスルコトヲ示スモノニシテ浮標ノ設置シアルハ目標ノ行動スヘキ區域ヲ表示スルモノトス

第三章　海軍

●横須賀鎭守府召集區內海軍召集事務取扱規程

（明治四十三年五月二十七日訓令第三十九號）

郡役所　警察署　警察分署　市役所　町村役場

横須賀鎭守府召集區內海軍召集事務取扱規程左記ノ通定メタル旨横須賀鎭守府司令長官ヨリ通知アリタリ右ニ依リ取扱フヘシ

横須賀鎭守府召集區內海軍召集事務取扱規程

第一章　總則

第一條　本規程ハ海軍召集條例及同施行細則ニ基キ横須賀鎭守府召集區內官衙竝公署ニ於ケル海軍豫備役後備役下士卒ノ召集ニ關スルコトヲ定ム

第二條　本規程中條例トアルハ海軍召集條例、細則トアルハ海軍召集條例施行細則ヲ謂フ

第三條　召集行務ニ關シ責任ヲ有スル官吏公吏ハ召集實施取扱手續ヲ定メ召集ニ關シ自ラ計畫準備シタル事項ヲ記入シ置キ召集實施ニ際シ事務ノ簡捷ヲ圖ルヘシ

第四條　町村長ハ海軍豫備役後備役下士卒ヨリ鎭守府司令長官若クハ海軍人事部長宛ノ願屆書ヲ受ケタルトキハ總テ所轄郡長ヲ經由スヘシ

第五條　官衙竝公署ニ於テ應召員身上ニ關スル願屆書ヲ受ケ

之ヲ鎮守府若クハ海軍人事部ニ轉致スルトキハ該願届書ノ餘白ニ發受年月日發受番號官衙公署名ヲ附記シ主任者捺印スルモノトス

第二章　召集準備

第六條　召集ニ關スル準備書類ニハ平時ニ於テ不動文字ヲ悉ク記註シ置クヘシ

第七條　郡市長細則第二十四條ニ依リ他郡市（横須賀鎮守府召集區内）應召ノ届出ヲ受ケ召集令狀ヲ當該郡市長ニ移送スルトキハ其召集名簿寫ヲ添フヘシ

又海軍人事部ニ送附スヘキ届書餘白ニハ「召集令狀移送濟」ト附記スルモノトス

第八條　郡市長ハ條例第二十二條第一項但書ニ依ル應召者ニシテ他郡市ヘ寄留換ノ届書ヲ受ケタルトキハ召集令狀ヲ其本籍郡市長ニ移送スヘシ

第九條　郡市長ハ外國、臺灣、樺太ニ在留應召ノ届書ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀及演習召集令狀ヲ海軍人事部長ニ返附スヘシ

第十條　郡市長ハ外國、臺灣、樺太在留（旅行、渡航、航海共）ノ届書ヲ受ケタルトキ及海軍人事部長ヨリ演習召集免除者ノ通知ヲ受ケタルトキハ演習召集令狀ヲ海軍人事部長ニ返附スヘシ但船舶乘組ノ者ハ其常航路外國、臺灣、樺太間ノ港灣ニシテ内國港灣ニ寄泊セサルモノニ限ル

第十一條　郡市長ハ條例第二十二條第一項但書ニ依ル應召者ニシテ外國、臺灣、樺太在留ノ届書ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀及演習召集令狀ヲ其本籍郡市長ニ移送シ演習召集令狀ヲ海軍人事部長ニ返附スヘシ

第十二條　郡市長ハ第一國民兵役編入、免官、免役、死亡、失踪宣告、死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者等アルトキハ充員召集令狀及演習召集令狀ヲ海軍人事部長ニ返附スヘシ

第十三條　召集名簿ハ左記各號ニ依リ整理スヘシ

一、豫備役後備役召集名簿ハ各別冊トシ更ニ編入年別、兵種別ニ區分スヘシ

二、應召員多キトキハ編入年別及兵種毎ニ各別紙ニ認メ應召員少ナキトキハ編入年別及兵種毎ニ相當ノ間隔ヲ置キ一紙中ニ列記スルモ妨ナシ

三、記載ノ順序ハ編入ノ月日古キモノヨリ順次新シキモノニ及ホスヲ例トス

四、後備役召集名簿ニハ欄外上部ニ豫備役編入ノ日卽チ現役ヲ離レタル年月日ヲ記入スヘシ

五、寄留應召、船籍港應召若クハ運航港應召ノ者ハ朱書スヘシ

六、第一國民兵役編入、免官、免役、死亡、失踪宣告、死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及他郡市ヘ應召ノ者等アルトキハ削除スヘシ

七、住所及改姓名等ノ異動アルトキハ直チニ訂正スヘシ

八、召集通報人ヲ定メタルモノハ住處ノ上ニ第九樣式ニヨル附箋ヲ貼附シ置キ歸鄉シタルトキハ除去スルモノトス

九、演習召集、簡閲點呼免除ノモノ又ハ所在不明ノモノハ前號ニ準シ附箋シ置クモノトス

一〇、海軍下士卒服役條例第十六條ノ二ニヨリ豫備役編入ノ者ハ其旨記事欄ニ記入スヘシ

一一、削除スヘキモノハ朱線二條ヲ竝行ニ引キ記事欄ニ其理由ヲ記入シ置クヘシ

第十四條　召集令狀ハ左記各號ニ依リ整理スヘシ

一、豫備役後備役ニ區分シ更ニ編入年別ニ區分シ帶封ヲナシ置クヘシ

二、豫備役ヨリ後備役ニ編入ノモノ又ハ住處及改姓名等ノ異動アルトキハ其都度直ニ訂正スヘシ

三、召集通報人ヲ定メタルモノハ封筒表面ニ第九樣式ニヨル附箋ヲ貼附シ置キ歸鄉シタルトキハ除去スルモノトス

第十五條　郡長ハ管下町村役場ニ於ケル名簿ノ記入及其異動事項訂正ノ必要アリト認ムルトキハ之ヲ告知スルモノトス但關係書類當該町村ヲ經由スル場合ヲ除ク

第十六條　町村長ハ豫備役後備役下士卒名簿ヲ調製シ第十三條（第一、二、三、四號ヲ除ク）ニ準シ整理スヘシ但名簿ノ記入及異動事項訂正ハ郡長ノ告知及應召員ノ願届ニ依リナスモノトス

第十七條　郡市長ハ國道又ハ縣道ニ沿ヒ應召員ノ多數通過スヘキモノト認メタル市町村ニ就キ海軍々用旅舍ヲ撰定（郡長ハ町村長ヲシテ撰定セシメ）シ之ヲ知事ニ報告シ又憲兵隊長、憲兵分隊長、警察署長、警察分署長ニ通知スヘシ其異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第十八條　召集用使丁ノ契約ハ毎年度改メ且之ヲ契約スルニ方リテハ身體健全且文字ヲ解スルモノヲ撰定スルモノトス

第十九條　召集用器具ハ使丁配置方面ノ數丈ケ準備スルモノトス

第二十條　召集準備書類器具ニシテ充員及演習ニ使用シ得ヘキモノハ特ニ演習ノタメ準備ヲ要セス

第二十一條　官衙竝公署ニ於テ準備スヘキ書類及器具左ノ如シ

道廳、府縣廳、警視廳

一、召集令達書（自第一樣式ノ一至第二樣式ノ四）
二、召集令達ニ對スル返電（發信者受信者ノ官名ノミ記入シ置クモノトス）
三、被召集員到著豫定表（道廳府縣廳ノミ）
四、海軍々用旅舍名簿（第八樣式道廳府縣廳ノミ）
五、海軍召集用封筒（細則樣式第一但寸法適宜）
六、海軍召集日誌
七、海軍召集關係書類綴

八、海軍召集ニ關スル書類目錄

郡市役所

一、海軍豫備役後備役下士卒召集名簿（細則樣式第四）
二、召集令狀
三、召集令達書（自第一樣式ノ一至第二樣式ノ四）（郡役所ノミ）
四、召集令達ニ對スル返電（發信者受信者ノ官名ノミ記入シ置クモノトス）
五、被召集員到著豫定表
六、到著期日早見表（第四樣式）
七、召集令狀ヲ交付シタルモノ及交付シ能ハサルモノヽ人名通知書（第六樣式）
八、海軍々用旅舍名簿（第八樣式）
九、海軍召集用封筒（細則樣式第一但寸法適宜）
一〇、海軍召集日誌
一一、召集令狀送附書（第七樣式）
一二、使丁配置（第五樣式）使丁契約書、心得書
一三、提燈、革鞄、使丁證票（第一樣式）
一四、海軍召集旅費領收證書（支出規程第四樣式）（市役所ノミ）
一五、召集令狀寫（令狀表面ノミ）（四十二年五月海軍省告示第八號ニ依リ鐵道減價乘車ヲ要スル者ニ令狀ト共ニ交付スルモノ）
一六、海軍召集關係書類綴
一七、海軍召集ニ關スル書類物件目錄

町村役場

一、豫備役後備役下士卒名簿（細則樣式第四ニ準ス但シ豫備役後備役ニ區分シ兵種編入年別ニ區分ヲ要セス）
二、召集令狀ヲ交付シタルモノ及交付シ能ハサルモノヽ人名通知書（第六樣式）
三、海軍々用旅舍名簿（第八樣式）
四、海軍召集用封筒（細則樣式第一但寸法適宜）
五、海軍召集日誌
六、海軍召集旅費領收證書（支出規程第四樣式）
七、使丁配置（第五樣式ニ準ス）
八、海軍召集關係書類綴
九、海軍召集ニ關スル書類及物件目錄

警察署、警察分署

一、召集令達書（自第一樣式ノ一至第二樣式ノ四）（發信者受信者ノ官名ノミ記入シ置クモノトス）
二、召集令達ニ對スル返電（第八樣式）
三、海軍々用旅舍名簿（細則樣式第一但寸法適宜）
四、海軍召集用封筒
五、海軍召集日誌
六、海軍召集關係書類綴
七、海軍召集ニ關スル書類目錄

第三章　充員召集實施

第二十二條　召集令狀面ニ記入スヘキ到著日時ハ發令ノ日ニ到著豫定日數ヲ加ヘタルモノトス

例ヘハ某月一日發令ノトキ到著豫定日數三日ナレハ到著日ハ其月四日トナリ發令午前ナレハ午前午後ナレハ午後トナルカ如シ

第二十三條　召集令狀ノ交付ヲ受クルモ事故ノ爲メ出發シ難キ者事故止ミ再ヒ交付スル場合ニ於テ令狀面ニ記入スヘキ到著日時ハ發令ノ日ニ到著豫定日數ヲ加ヘタル外更ニ事故遲滯日數ヲ加ヘタルモノトス

例ヘハ某月一日午後發令ニシテ二日ノ後事故止ミタルトキハ到著豫定日數五日ナレハ到著日時ハ其月八日午後トナルカ如シ

第二十四條　召集令狀表面ノ「明治年月日」ハ記入ノ當日ヲ記スルモノトス

第二十五條　町村長ハ召集令狀ヲ交付シタルモノヽ人名及交付シ能ハサルモノヽ人名事由ヲ郡長ニ報告シ同時ニ所在憲兵警察官吏ニ通知スヘシ

郡市長ハ召集令狀ヲ交付シタルモノヽ人名及交付シ能ハサルモノヽ人名事由ヲ記シ細則第三十八條ノ召集封筒ト共ニ之ヲ海軍人事部長ニ通知スヘシ

第二十六條　郡市長ハ全家所在不明等ノ爲メ交付シ能ハサル召集令狀又ハ交付ヲ受クルモ止ムヲ得サル事故ノタメ出發シ難キモノヽ召集令狀ヲ保管中細則第四十條第二項但書ニ依リ發程ヲ差止ムヘキ達ヲ受ケタルトキハ之ヲ海軍人事部長ニ返付スヘシ

第二十七條　警察官吏第二十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ其事由ヲ調査シ海軍人事部長ニ通知スヘシ

第二十八條　郡市長ハ海軍人事部長ヨリ應召員海兵團到著後身體檢査ニ於テ服役ニ堪ヘスト認メ召集ヲ解キ歸鄉ヲ命セラレタル者ノ通知ヲ受ケタルトキハ郡長ハ之ヲ町村長ニ市町村長ハ之ヲ所在憲兵警察官吏ニ通知スヘシ

第二十九條　郡市長ハ海軍人事部長ヨリ充員召集解除ニ際シ傷痍、疾病、犯罪、逃亡其他ノ事故ニ依リ歸鄉セシムルコト能ハサル者ノ通知ヲ受ケタルトキハ郡長ハ町村長ニ市町村長ハ之ヲ本人ノ家族ニ通達スルモノトス

第四章　充員召集解除

第三十條　充員召集ヲ解除セラレタル應召員ニ對シテハ海軍下士卒服役條例第二十七條ヲ準用スヘシ

第五章　演習召集實施

第三十一條　演習召集實施ニ關シテハ第三章（第二十六條ヲ除ク）ノ各條ヲ準用ス

第三十二條　郡市長ハ全家所在不明等ノ爲メ召集令狀ヲ交付シ能ハサルモノニシテ演習ノ前半期ヲ經過シタルモノ及條例第四十七條但書該當者ノ召集令狀ハ直チニ海軍人事部長ニ返付スヘシ

第六章　簡閲點呼

第三十三條　市町村長ハ全家所在不明等ノタメ點呼令狀ヲ交付シ能ハサルモノアルトキハ其人名及事由ヲ附シ町村長ハ

郡長ニ郡市長ハ點呼執行日時ニ點呼執行官ニ差出スヘシ

第三十四條　市町村長ハ點呼令狀ノ交付ヲ終リタルトキハ其封筒ヲ取纏メ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ點呼執行日時ニ點呼執行官ニ差出スヘシ

第七章　雜則

第三十五條　海軍召集ニ關スル書類簿冊ハ充員ト演習トヲ各別ニ區分シ各目錄ヲ附シ鎖鑰ヲ有スル箱ニ保管シ海軍召集ニ關係ナキ者ヲシテ閲覽セシム可ラス

第三十六條　郡市長ハ毎年四月一日現在ノ召集名簿寫ヲ調製シ之ヲ四月末日迄ニ海軍人事部長ニ送付シ該人事部ノ名簿ト照合シ置クモノトス

第三十七條　官衙公署ニ於テ召集令狀其他召集ニ關シ重要ナル書類ヲ郵送スル場合ハ必ス書留郵便ニ附スルモノトス

第三十八條　市町村長ハ海軍豫備役後備役下士卒ヲシテ其居宅ヲ見易キ所ニ「在郷海軍々人何某」ト書シタル門札ヲ掲ケシムヘシ

（樣式）

第一樣式ノ一

充第　號　「用紙美濃罫紙」以下皆同シ

日午　海軍豫備役後備役軍人ノ充員召集ヲ令セラル

明治　年　月　日

地方長官（何郡長）（何警察署長）氏名㊞

第二樣式ノ二

充第　號

日午　月　日ヨリ　日間　演習施行ノタメ海軍　備役下士卒ノ演習召集ヲ令セラル

明治　年　月　日

地方長官（何郡長）（何警察署長）氏名㊞

第三樣式ノ三

充第　號

日午　年　月以後現役ヲ離レタル海軍　備役下士卒ノ充員召集ヲ令セラル

明治　年　月　日

地方長官（何郡長）（何警察署長）氏名㊞

第一樣式ノ二

演第　號

日午　海軍豫備役後備役軍人ノ演習召集ヲ令セラル

明治　年　月　日

地方長官（何郡長）（何警察署長）氏名㊞

第二樣式ノ一

演第　號

日午　月　日ヨリ　日間　演習施行ノタメ海軍　備役下士卒ノ演習召集ヲ令セラル

明治　年　月　日

地方長官（何郡長）（何警察署長）氏名㊞

第二樣式ノ四

演第　號

日午　月　日ヨリ　日間　演習施行ノタメ

年　月以後　年　月迄ニ現役ヲ離レタル海軍　備役下士卒ノ演習召集ヲ令セラル

明治　年　月　日

地方長官（何郡長）（何警察署長）氏名㊞

第四樣式

到著期日早見表

發令ノ日		被召集員到著豫定日數	一、三、五、七、八、十、十二月ノ到著日
日	一	六日	七日
日	二	〃	八日
日	三	〃	九日
日	四	〃	十日
日	五	〃	一十日
日	六	〃	二十日
日	七	〃	三十日
日	八	〃	四十日
日	九	〃	五十日
日	十	〃	六十日
日	一十	〃	七十日
日	二十	〃	八十日
日	三十	〃	九十日
日	四十	〃	十二日
日	五十	〃	一十二日
日	六十	〃	二十二日
日	七十	〃	三十二日
日	八十	〃	四十二日
日	九十	〃	五十二日
日	十二	〃	六十二日
日	一十二	〃	七十二日
日	二十二	〃	八十二日
日	三十二	〃	九十二日
日	四十二	〃	十三日
日	五十二	〃	一十三日
日	六十二	〃	二月翌日
日	七十二	〃	二日
日	八十二	〃	三日
日	九十二	〃	四日
日	十三	〃	五日
日	一十三	〃	六日

第三樣式

（第一、第二樣式ノ電文記入例）

地方長官（何郡長）（何警察署長）氏名㊞

ハチ（八）ニチゴセンサンジウサン（三三）ネンシ（四）ガツイゴゲンエキヲハナレタルカイグンヨビエキカシソツノジウインショウシウヲレイセラルヽアイチケンチジ

注意

一、電文中ノ數字ハ凡テ假名ヲ以テ書シ其下ニ本例ノ如ク括弧内ニ日本數字ヲ附記スルモノトス

二、發簡番號及發信年月日ハ記入ヲ要セス

三、發信者ハ官名又ハ職名ノミヲ記シ氏名ハ省略スルモノトス

四、六、九、十一月ノ到著日	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	翌年一月二十九日	〃	〃
〃	〃	翌年一月二日	〃	〃
翌年二月二日	翌年一月二日	翌年一月三日	翌年一月二日	翌年一月二日
〃 三日	〃 三日	〃 四日	〃 三日	〃 三日
〃 四日	〃 四日	〃 五日	〃 四日	〃 四日
〃 五日	〃 五日	〃 六日	〃 五日	〃 五日
翌年二月六日ノ到著日	〃 六日		〃 六日	〃 六日

備考 一、本表中ノ被召集員到著豫定日數ハ假定ノモノナリ
二、本表ハ鎮守府ヨリ送付ノ被召集員到著豫定表ニ依リ調製スルモノトス

第五樣式

使丁配置

使丁差立方面	町村名	往復里數	出發ヨリ歸著迄ニ要スル豫定時間	使丁員數
	何町			
第一方面	何村	陸路、何里	何時間	一
	何村	海路、何里		
	何村			
第二方面	何村	陸路、何里	何時間	一
	何村	海路、何里		

第三方面	何村	陸路、何里	何時間	一
	何村			

備考 使丁差遣ノ順序ハ最遠距離ノ町村ヲ先ニスルモノトス

第六樣式

明治 年 月 日

海軍人事部長(何憲兵分隊長)何郡長(何警察署長)氏名殿

何郡長(市)(町)(村)長 氏 名㊞

召集令狀交付ニ關スル件

理由	住所	官職氏名
何々ノタメ交付スル能ハス	何郡何町何番地	豫備役 海軍一等水兵 何某
交付濟	同 村何番地	同 海軍一等機關兵 何某
同	同 村何番地	後備役 海軍一等看護 何某

右通知(報告)ス

第七樣式

明治 年 月 日

何町村長氏名殿

一充員(演習)召集令狀

右送付ス

追テ受領證ヲ取纏メ送付スヘシ

何郡長 氏 名㊞

第十類 軍務 第三章 海軍

第八樣式

海軍々用旅舍名簿

住所	屋號	室數	經數	氏名
何郡何町村何番地	何屋㊀	五	三〇	何之某

第九樣式

何郡何町村（寄留）何町（何村）何番地

召集通報人　何之某

第十樣式

何縣巡査奉職中

演習召集簡閲點呼免除

使丁證票

表面

○軍事使丁證票

官衙公署印

裏面

此者ハ在鄕軍人召集ノ使丁ニシテ携帶セル書類ハ軍事上極メテ大切ナルモノナルカ故ニ若シ途中ニ於テ傷痍ヲ受ケ或ハ疾病等ニ罹リタルコトヲ發見シタル人ハ能ク保護ヲ與ヘ携帶品ノ紛失セサル樣注意シ直ニ附近警察署又ハ巡査駐在所又ハ町村役場ニ届出テラルヘシ

（木製）（寸法適宜）

附表

各鎭守府召集區域一覽表

所管鎭守府	道	縣
横須賀鎭守府	北海道、青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、山梨、靜岡、愛知、三重	
吳鎭守府	和歌山、奈良、大阪、兵庫（但馬國ヲ除ク）、岡山、廣島、山口、德島、香川、愛媛、高知	
佐世保鎭守府	大分、福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿兒島、宮崎、沖繩	
舞鶴鎭守府	秋田、山形、新潟、長野、富山、石川、岐阜、福井、滋賀、京都、兵庫（但馬國一圓）、鳥取、島根	

海軍下士卒兵種等級別一覽表

下士	卒

一等兵曹	二等兵曹	三等兵曹	一等水兵	二等水兵	三等水兵	四等水兵	五等水兵				
一等信號兵曹	二等信號兵曹	三等信號兵曹	一等信號兵	二等信號兵	三等信號兵						
一等軍樂手	二等軍樂手	三等軍樂手	一等軍樂生	二等軍樂生	三等軍樂生	四等軍樂生	五等軍樂生				
一等船匠手	二等船匠手	三等船匠手	一等木工	二等木工	三等木工	四等木工	五等木工				
一等機關兵曹	二等機關兵曹	三等機關兵曹	一等機關兵	二等機關兵	三等機關兵	四等機關兵	五等機關兵				
一等看護手	二等看護手	三等看護手	一等看護	二等看護	三等看護	四等看護	五等看護				
一等筆記	二等筆記	三等筆記									
一等厨宰	二等厨宰	三等厨宰	一等主厨	二等主厨	三等主厨	四等主厨	五等主厨				

●海軍召集事務取扱手續

（大正三年十月十三日訓令第三十九號）

郡役所　市役所　警察署　警察分署　町村役場

海軍召集事務取扱手續左ノ通之ヲ定ム

海軍召集事務取扱手續

第一條　郡市長及警察署長ハ（分署長ヲ含ム以下同シ）召集事務ニ關シ規程ヲ設ケ又ハ互ニ協議シタルトキハ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第二條　郡市長ハ隨時各町村ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ檢閲シ又ハ郡書記ヲシテ之ヲ檢閲セシメ其狀況ヲ附表第一樣式ニ準シ知事ニ報告スヘシ

第三條　海軍軍用旅舍選定ノ報告及通知ニハ海軍軍用旅舍名簿記載事項竝ニ宿泊料額及賄食料額ヲモ記載スヘシ

第四條　警察署長ハ巡査駐在所及巡査派出所巡査ヲシテ其區域內ニ於ケル海軍在鄕軍人名簿ヲ附表第二樣式ニ準シ調製セシメ其ノ異動ヲ確ムル爲隨時之ヲ市役所及町村役場ノ名簿ト對照セシムヘシ

第五條　郡市長ハ召集期日後五日以內ニ召集應否區分表附表第三樣式ヲ調製シ知事ニ報告スヘシ但報告後不應者ニシテ應召シタルトキハ其時々報告スヘシ

附則

明治四十年三月神奈川縣訓令第十八號海軍召集事務取扱規定ハ之ヲ廢止ス

第一樣式

大正何年度海軍召集事務檢閲狀況

何郡役所

一、檢閲ヲ爲シタル者官職氏名
二、檢閲ノ時期
三、檢閲方法
四、召集事務一般狀況
五、町村長及兵事主任書記服務ノ狀況
六、檢閲成績
七、指示竝注意事項
八、其ノ他必要ト認ムル事項

右及報告候也

知事宛　郡長

第二樣式

海軍在鄕軍人名簿

住所		兵役		種等級	氏名	摘要
何町村大字何番地		豫備役	一等水兵	何某		

第三樣式

海軍充員（演習）召集應否區分表

（月日召集ノ分）

市町村	召集總員			應召員			不應召員					
何町		下士	卒	犯罪	失踪	旅行	疾病	何々	何々	計		

何村	下士	卒	下士	卒	計

右及報告候也

大正　年　月　日

知事　宛

官職氏名印

●海軍召集旅費支給場位置及其區域

（明治三十二年八月二十二日告示第百二十一號）

（沿革）明治三三年告示第四四號、三六年同第一九六號、三九年同第二〇七號改正

海軍召集旅費支給場ノ位置及其ノ支給場ニ於テ支給スヘキ區域左ノ如シ

海軍召集旅費支給場位置	同上支給區域
久良岐郡日下村	久良岐郡役所 久良岐郡全部
横濱市神奈川町	橘樹郡役所 橘樹郡全部
都筑郡都田村	都筑郡役所 都筑郡全部
三浦郡豊嶋村	三浦郡役所 三浦郡全部
鎌倉郡戸塚町	鎌倉郡役所 鎌倉郡全部
高座郡藤澤大坂町	高座郡役所 高座郡全部
中郡大磯町	中郡役所 中郡全部
足柄上郡松田村	足柄上郡役所 足柄上郡全部
足柄下郡小田原町	足柄下郡役所 足柄下郡全部
愛甲郡厚木町	愛甲郡役所 愛甲郡全部
津久井郡中野村	津久井郡役所 津久井郡全部
横濱市本町	横濱市役所 横濱市全部

●海軍下士卒免官免役異動報告方

（明治三十八年十二月十二日訓令第三十二號）

郡役所　市役所　町村役場

海軍下士卒ニシテ明治三十七年二月六日以降免官免役トナリ其ノ後原籍變更、改姓名、死亡又ハ處刑ノ者アルトキハ免官免役ノ際ニ於ケル本人在籍地ヲ詳記シ直ニ當廳ニ報告スヘシ

●海軍下士卒制服著用ニ關スル件

（明治三十五年一月二十八日訓令第五號）

郡役所　市役所

召集中ニ在ラサル豫備役若ハ後備役海軍下士卒ハ左ノ場合ニ限リ成ルヘク制服ヲ著用スヘシ

一　滿期歸郷ノトキ
二　行幸行啓ニ際シ奉迎奉送スルトキ
三　召集若ハ簡閲點呼ノトキ
四　觀兵式觀艦式若ハ演習ヲ陪覽スルトキ
五　賀儀葬祭ノトキ
六　前諸號ノ外軍人ノ資格ヲ表スルトキ

●横須賀軍港內通行船舟旗章掲揚方

（明治三十四年十月十五日告示第二百三十六號）

横須賀軍港細則第六條ニ依リ沿岸居住民所有ノ船舟第二區內ヲ通航ノ際ハ他ノ船舟ト識別スル爲左記旗章掲揚スヘキ旨横須賀鎮守府司令長官ヨリ通知アリタリ

一　尺

黑地	七寸五分
白地	七寸五分

白ノ部ニ當該船舟所有者ノ住所姓名ヲ墨書ス但切地ハ適宜トス

●軍港境域內森林伐採其他認可申請方

（明治三十四年三月五日縣令第十一號）

（沿革）明治四〇年二月縣令第二五號、四一年一二月同第一〇七號改正

一　横須賀軍港境域內ニ於テ左ノ各號ニ該當スルモノハ所管郡市長ノ認可ヲ受クヘシ

一　森林ノ伐採

二　軍港第一區第二區ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以內ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築及其ノ變更但シ明治十九年六月甲第六十五號布達長

屋建築規則ニ依リ警察署ノ認可ヲ受クルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 前項認可申請書ニハ申請ノ目的、申請者ノ住所氏名及第一號ニ在テハ森林所在地伐採期間第二號ニ在テハ築造物ノ物質、設計、廣狹、高低、場所ヲ詳記シ各其ノ實測圖ヲ添附スヘシ但シ申請者ト土地所有者ト異ナルトキハ土地所有者連署スヘシ

二ノ二 第一號及第二號ノ認可ヲ受ケスシテ作業ヲナシタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

三 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

四 明治三十三年十二月 神奈川縣令第七十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●横須賀泊浦港内射撃警戒方

（明治四十年六月四日 告示第百十九號）

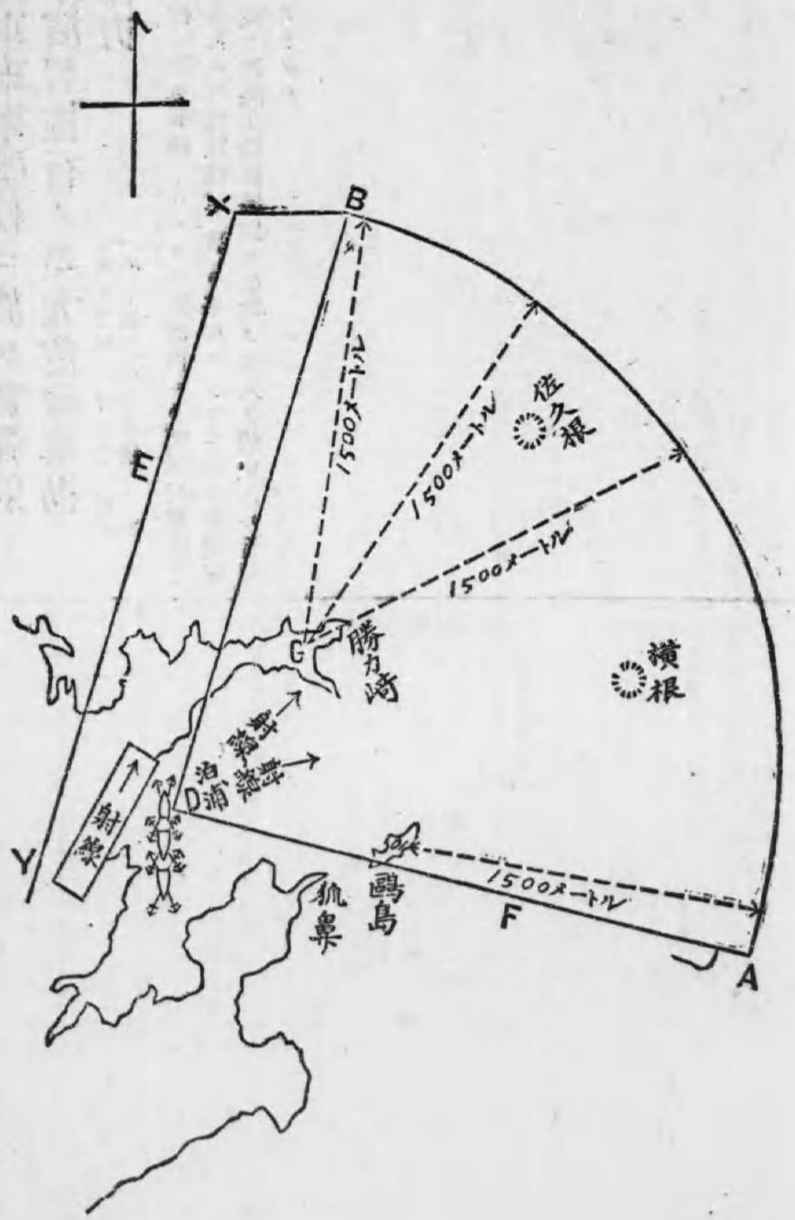
海軍砲術學校ニ於テ泊浦港口鴎島ト勝力崎トノ中間海面ニ向ヒ隨時小銃射撃施行ノ旨ヲ以テ左記警戒法横須賀鎮守府ヨリ通知アリタリ

一、明治三十九年十月神奈川縣告示第百九十八號ヲ廢止ス

一、射撃施行中ノ勝力崎ノ高所C點及鴎島頂G點ニ危險旗（赤色旗）ヲ樹テ同時ニ勝力崎高所ニ「メガフォン」ヲ携帶セル一名ノ監視兵ヲ出シ僅キ危險界ニ接近スル舟艇ニ注意ヲ與フ

一、勝力崎並鴎島ノ高所ニ危險旗（赤色旗）ノ掲揚シアル間ハ總テノ舟艇ハDABXYノ扇形内ニ入ルヘカラス

一、特ニ至急公務等ノ爲危險界内ヲ通過セムトスルモノハE又ハF附近ヨリ監視兵ニ通知シC點ニアル危險旗ヲ一時降下シタル間ニ通過スルヲ要ス

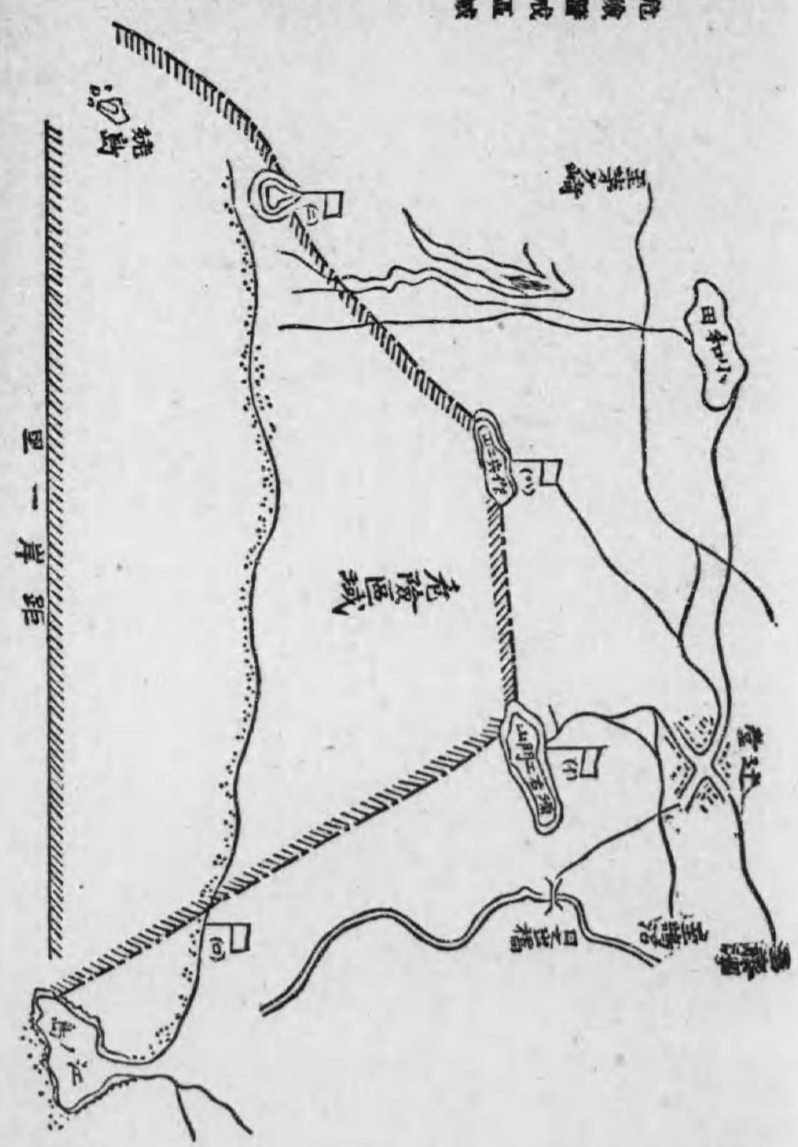


●海軍砲術學校ニ於テ實彈射擊演習施行ノ際大危險旗揭揚方

（大正二年十月二十一日　告示第二百十五號）

海軍砲術學校ニ於テ別圖（イ）（ロ）（ハ）ニノ區域內ニテ實彈射擊演習施行ノ際ハ各所ニ大危險旗（赤旗）ヲ揭揚スヘキニ付赤旗揭揚中ハ危險ニ依リ海陸共同區域內ニ公衆ノ出入ヲ禁止スル旨同校ヨリ通知アリタリ

東　四　北　南
界　界　界　界
源赤作錦浪右
岸右旗兵衛
一崎門山白
田ノ山ニ（白旗作兵衛ト呼ブ）
山道ヲ通ルト小
ル線和田
一線海岸
小川ノ
河口右岸ニ
アル砂地上



第十一類

學務

第一章　通則
第二章　小學校、幼稚園
第三章　中學校、女學校
第四章　實業學校
第五章　師範學校
第六章　學校衞生
第七章　給與
第八章　雜則

第十一類　學務

第一章　通則

●教育ニ關スル勅語謄本頒布ニ付知事訓示

（明治二十三年十一月十日　訓令甲第二十八號）

郡役所　市役所

今般教育ニ關シ別記勅語ヲ下シタマヒ且文部大臣ヨリ訓示ヲ發セラレタルニ付右訓示ノ旨趣ニ基キ能ク聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ

但各公私立學校ヘハ逐テ謄本頒布ノ上之ヲ配付スヘシ

（別記ハ略之）

●御眞影並勅語謄本奉置方

（明治二十五年三月十九日　訓令第十九號）

郡役所　市役所

管内學校ヘ下賜セラレタル
天皇陛下
皇后陛下ノ御影並教育ニ關シ下シタマヒタル　勅語ノ謄本ハ

校内一定ノ場所ヲ撰ヒ最モ尊重ニ奉置セシムヘシ

●御眞影複寫並奉掲手續

（明治二十六年十二月十八日　訓令第七十三號）

郡役所　市役所

市町村立尋常小學校幼稚園ニ
天皇陛下
皇后陛下ノ　御眞影複寫奉掲差許サレタルニ付其複寫並奉掲手續左ノ通之ヲ定ム

御眞影複寫並奉掲手續

一　市町村立尋常小學校幼稚園ニ於テ
天皇陛下
皇后陛下ノ　御眞影ヲ複寫奉掲セントスルトキハ其校園名及奉掲ノ場所又ハ奉藏ノ方法ヲ具シ市町村長ヨリ知事ニ申請スヘシ

二　前項ノ申請ヲ許可シタルトキハ當廳ニ於テ高等小學校ヘ下賜ノ　御眞影ヲ複寫シ之ヲ交付ス

三　御眞影ハ校園内ニ於テ適當ノ場所ヲ設ケ尊重ニ奉掲スヘシ常ニ奉掲スヘキ適當ノ場所ナキモノハ尊重ニ奉藏シ儀式執行ノ際ニ限リ奉掲スヘシ

四　御眞影複寫ニ關スル一切ノ費用ハ其校園ノ負擔トス

五　市町村立尋常小學校幼稚園ノ廢止ニ屬シタルトキハ御眞影ハ市町村長ヨリ當廳ニ差出スヘシ

●教育ヲ宗教外ニ特立セシムルノ件

（明治三十二年八月十五日訓令第三十八號）

郡役所　市役所

一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ特立セシムルハ學政上最必要トス依テ公立學校及學科課程ニ關シ法令ノ規定アル學校ニ於テハ課程外タリトモ宗教上ノ教育ヲ施シ又ハ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許ササルヘシ

別紙樣式

●郡市教育狀況一覽表

（明治四十五年一月十九日訓令第二號）

（沿革）明治四五年五月訓令第二四號、大正二年九月同第五四號改正

郡役所　市役所

郡市教育狀況一覽表別紙樣式ニ依リ調製シ毎年六月三十日限報告スヘシ

郡	町村數	戶數	人口 男	人口 女	人口 計	學齡兒童 種別／年度	就學 尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者 男	就學 尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者 女	就學 尋常小學校ノ教科ヲ卒ヘタル者 男	就學 尋常小學校ノ教科ヲ卒ヘタル者 女	就學 合計 男	就學 合計 女
明治		生業別 農業				本年度						
		漁業				前年度						
		商業										
		其他										
		工業										

學齡兒童 種別／年度	總計 男	總計 女	就學 合計 男	就學 合計 女	就學 除免 貧窮 男	就學 除免 貧窮 女	就學 除免 疾病 男	就學 除免 疾病 女	不就學 猶豫 貧窮 男	不就學 猶豫 貧窮 女	不就學 猶豫 疾病 男	不就學 猶豫 疾病 女	就學 就學ノ始期ニ達シタル男百人中就學	就學 就學ノ始期ニ達シタル女百人中就學	就學 就學ノ始期ニ達シタル男女百人中就學
本年度															
前年度															

學校數	尋常	高等	尋常高等	計	分教場

在籍兒童數	尋常科 第一學年 男	尋常科 第一學年 女	尋常科 第二學年 男	尋常科 第二學年 女	尋常科 第三學年 男	尋常科 第三學年 女	尋常科 第四學年 男	尋常科 第四學年 女	尋常科 第五學年 男	尋常科 第五學年 女	尋常科 第六學年 男	尋常科 第六學年 女	尋常科 計 男	尋常科 計 女	高等科 第一學年 男	高等科 第一學年 女	高等科 第二學年 男	高等科 第二學年 女	高等科 第三學年 男	高等科 第三學年 女	高等科 計 男	高等科 計 女	合計 男	合計 女
計																								

學級 區別	尋常	高等	兒童數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數	出席日數
男				比百分	比百分	比百分	比百分	比百分	比百分	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數	兒童延數
女				尋常	尋常	尋常	高等	高等	高等	尋常	尋常	尋常	高等	高等	高等	尋常	尋常	尋常	高等	高等	高等	尋常	尋常	尋常	高等
男女				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
計																								

種別／年度	本年入學兒童數 尋常 男	本年入學兒童數 尋常 女	本年入學兒童數 高等 男	本年入學兒童數 高等 女	本年卒業兒童數 尋常 男	本年卒業兒童數 尋常 女	本年卒業兒童數 高等 男	本年卒業兒童數 高等 女
前年度								
計								

一學級兒 區別	尋常
最多	
最少	
平均	

一覽表　（甲）　調査日

幼稚園				兒童數				經費				教員				教員給俸				教員住宅				教員住宅料ニ關スル學校數				備考
種別	園數	組數	保姆數	幼男	幼女	計	本年保育滿了ノ者	市町村經常費	同一戸當	教育經常費	同一戸當	本科正教員	專科正教員	准教員	代用教員	總額	月俸	教員住宅	區別	尋常	高等	計	學校數					
公立	私立	計							同在籍兒童一人當	市町村費ニ對スル教育費歩合		種別	男女別	最多額	最少額	平均額		區別	住宅アル者	住宅料アル者	住宅料共ニナキ者							
												男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	

公民學校																												
尋常	高等	合計	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等	尋常	高等
			男		女		計		計		計		計		計		計		計		計		計		計		計	
學校數			學級數		學校數		學校數		學校數		學校數		學校數		學校數		學校數		學校數		學校數		學校數		學校數		學校數	
御影ヲ拜戴セル學校數			農繁休業アル學校數		二部教授ニ關スル事項		學校園ヲ有スル學校數		學校園ヲ有セサル學校數		農業實習地ヲ有スル學校數		加設科目															
尋常高等			尋常高等		同兒童數																							

學校醫				學務委員				特殊教育ヲ實施セル學校數		同兒童數		備考
學校數				公民學校ヨリ出ツル者	小學校教員ヨリ出ツル者	計						
置ケル學校數	置カサル學校數	手當										
最多額	最少額	平均額		報酬年額								
				最多額	最少額	平均額						

一覽表　月末現況

| 教員數 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 教員給俸 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

一 末日調表（乙）

中學校				特種教育																								社會教育												備考
種別	學校數	教員數	學級數	生徒數	本年卒業生徒數	教員月俸平均額	經費	種別	盲啞教育			子守教育			工場內徒弟教育			計			種別	教育會			青年會			同窓會			夜學會			婦人會			耆老會			報德會			其他ノ會			圖書館		
									公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	計	學校數		團體數	會員數	經費	基本金		團體數	會員數	經費	基本金		團體數	會員數	經費	基本金		團體數	會員數	經費	基本金		團體數	會員數	經費	基本金		館數	藏書數	經費	基本金	
								男												教員數	男					女				計																		
								女													女					計																						
								計													計																												
								男												學級數	男					女				計																				
								女													女					計																						
								計													計																												
								男												生徒數	男					女				計																				
								女													女					計																						
								計													計																												
								男												本年卒業生徒數	男					女				計																				
								女													女					計																						
								計													計																												
								男												教員月俸平均額	男					女				計																				
								女													女					計																						
								計													計																												
								男												經費	男					女				計																				
								女													女					計																						
								計													計																												

郡市教育狀況一覽表記載方說明

一、甲號表ハ凡テ小學校ニ關スル事項ノミヲ記スヘシ

二、學級數尋常高等欄ニハ尋常科ノ兒童ト高等科ノ兒童トヲ以テ一學級ヲ編制シタル學級數ヲ記スヘシ

三、授業料摘要欄ニハ授業料ヲ徵收スル學年名及其ノ一人ノ月額ヲ記シタル學校數ヲ記スヘシ

四、特殊教育ヲ實施セル學校數欄ニハ小學校令第三十六條第一項後段ニ依リ尋常小學校ノ教科ヲ修ムルモノヲ記スヘ

明治四十年度 教育狀況月表（市）

| 實業補習學校 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |